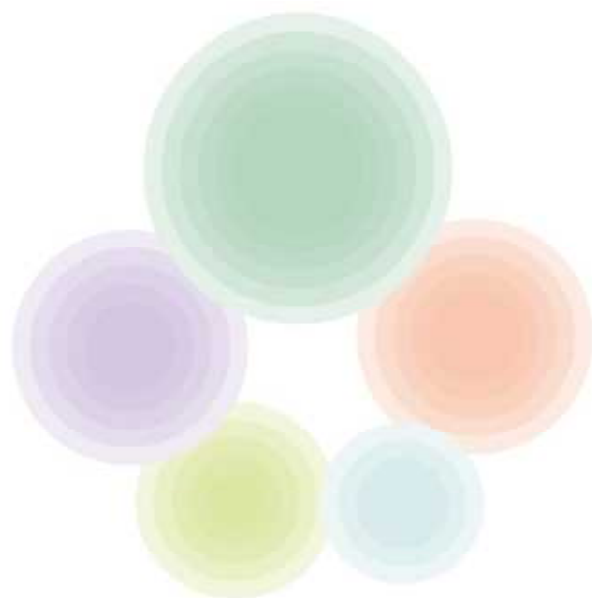


公益財団法人しまね自然と環境財団

— 令和7年度 —
事業報告書



島根県立三瓶自然館サヒメル
三瓶小豆原埋没林公園
北の原キャンプ場
しまねエコライフサポートセンター

はじめに

三瓶自然館は、島根県の指定管理者制度に基づき令和4年12月に令和5年度から8年間の指定管理者の選定を受け、引き続きしまね自然と環境財団が管理運営に当たっております。

春には企画展「はためく生きもの～国旗に描かれた動植物～」を開催しました。世界中の国や地域の旗には、その国の歴史や文化のほか地域の動植物をはじめとする自然環境が描かれたものがたくさんあります。今回の企画展では大阪・関西万博の開催にあわせて、国旗や地域旗に描かれたゲッケイジュやライオンなど植物や動物の剥製などを展示し、国旗を通じて世界中の様々な国の自然や文化への興味・感心を深めてもらう機会としたところです。

夏には特別企画展「太陽系大冒険!」を開催しました。アポロ計画以来50年以上ぶりとなる有人月面着陸を目指す「アルテミス計画」をはじめ、日本の水星探査機「みお」、火星衛星探査計画「MMX」など月や惑星の探査計画や、過去に多くの成果を上げてきたボイジャーをはじめとする今までの探査機による成果を展示し、最新の情報をもとにした太陽系の姿、また人類の宇宙探査の今を紹介しました。

財団が運営する三瓶自然館を中心とする施設では、国立公園三瓶山の自然に親しむ場を提供するとともに、展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進めてまいりました。今年度は7～8月の猛暑、9月は雨天が多かった影響等により来館者数が伸び悩み、猛暑だった昨年度と同程度の来館者数となりましたが、企画展や野外観察、ドーム映像、天体観望会などを通じて当館に足を運んでいただいた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただけたものと思っています。

埋没林公園は大田市内の日本遺産の中核施設に位置づけられ、杉巨木の保存のためのモニタリングを行いながら多くの方に見ていただくために展示を行っています。今年度は特に10～11月に団体、2～3月には個人旅行者の来館が増え、年間では昨年を上回る1万6千人の来館者があったところです。また、自然や歴史などをテーマとする講座型の「月イチガク」についても引き続き定期開催しました。

北の原キャンプ場については、令和6年7月に大田市から令和7年度からの新たな5年間のキャンプ場指定管理者に選定されたことから、三瓶自然館等との一体的な利活用を図りながら、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう引きつづき管理運営に心がけました。一時期のアウトドアブームの反動に加えて、前年に続く猛暑で夏場の野外活動を避ける傾向が影響して、例年に比べて利用者数が減少しました。

松江事務所(エコサポしまね)では、エコライフの情報の発信や環境保全団体への助成を通じて、地域の環境保全活動が活発となるよう支援を行っているところです。加えて、温室効果ガスをゼロにする脱炭素社会の実現を目指して、次世代育成や、より強力で脱炭素を進めるため電気自動車の普及、省エネで快適な家づくりの啓発に取り組みました。

これからも引き続き、創意工夫しながら運営に取り組み、皆さんから期待され応援いただける施設・団体となるよう職員一同努めて参ります。

令和8年4月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理事長 松 浦 芳 彦

目 次

I. 運営方針、管理運営の体制	1
1 財団の目的	1
2 財団の事業	1
3 財団の管理する施設の概要	1
4 運営方針	3
5 管理運営の体制	3
II. 各業務の実施状況	6
1 三瓶自然館	6
2 三瓶小豆原埋没林公園	33
3 施設利用許可業務	36
4 施設の維持管理に関する業務	43
5 物品の管理等	48
III. 地球環境の保全に関する活動支援事業(環境保全活動事業)	49
IV. 北の原キャンプ場管理運営事業	71
V. 利便提供事業	74
VI. その他	75
1 数値目標を掲げた運営	75
2 利用者の推移	79
3 資料	80
4 職員の研修等への参加	87
5 評議員会・理事会等	88
6 沿革	89
VII. 事業報告書の附属明細書	

※令和7年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書の作成を省略する。

I. 運営方針、管理運営の体制

1. 財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

2. 財団の事業

- (1) 自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
- (2) 自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
- (3) 環境教育及び環境学習に関する事業
- (4) 地球環境の保全に関する活動支援事業
- (5) 自然資源の利用促進等を通じた地域振興事業
- (6) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

3. 財団の管理する施設の概要

(1) 島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原理没林、環日本海地域の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番地8	
開設年月日	平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)	
面積	敷地面積	14,822㎡
	建築面積総計	4,574㎡(令和元年度整備後)
	建物延べ床面積総計	8,678㎡(//)
施設内容	本館	常設展示(ふしぎの森であそぼう、三瓶山と大地ほか)、ビジュアルドーム、受付、売店、事務室など
	別館	レクチャールーム、企画展示室
	新館	常設展示(三瓶埋没林、環日本海の自然、島根の自然と三瓶の自然、フィールド情報コーナー)、天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など
附属施設	三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原 片道4.5km) 北の原芝生多目的広場	

(2) 三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、三瓶山の噴火で埋もれた縄文時代の森林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所在地	島根県大田市三瓶町多根口58番地2	
開設年月日	平成15年5月2日	
面積	敷地面積	約10,000㎡
	延面積	
	・管理棟	142.56㎡
	・ガイダンス棟	120.00㎡
	・大展示棟	1,142.59㎡
	・小展示棟	97.09㎡
	(延面積合計)	1,382.24㎡
施設内容	管理棟	事務室、機械室
	ガイダンス棟	ガイダンス室、受付、物販コーナー
	大展示棟	展示室、機械室
	小展示棟	展示室

(3) 北の原キャンプ場

北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の恵まれた環境に立地する大田市営のキャンプ場で、広い敷地に一般サイト、オートサイト、ケビン、ドッグバンガローとドッグラン、団体向けの集団サイト、キャンプファイヤー場を備えている。

キャンプそのものを楽しむだけでなく、三瓶山登山などの拠点、学校や企業の研修や親睦活動にも利用されている。

所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番地1	
開設年	昭和44年(平成21年まで島根県の施設)	
面積	敷地面積	180,891㎡
	施設内容	
	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など
	オートキャンプサイト	73区画
	一般キャンプサイト	フリーサイト(テント200張可)
	ケビン	大型ケビン3棟 小型ケビン10棟
	バンガロー	5棟
	ドッグラン	2区画、休憩所1棟
	その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟 など)	

4. 運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を發揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

- ・自然とのふれあいの機会を充実させ、持続可能な社会へ向けた人材育成につなげる。
- ・調査研究・資料収集といった、博物館としての役割も着実に進める。
- ・期待以上の接遇で対応し、知的好奇心を満たすことで、満足度の向上を図る。
- ・多くの人々や機関との関わりを大切にする。
- ・感染症対策の実施などにより来館者が安心安全に楽しめる館を目指す。
- ・安定した経営のために、訴求力の高い取り組みなどにより入館者数の確保に努める。

また、松江事務所(しまねエコライフサポートセンター)を中心に展開する環境保全活動では、県民一人ひとりの自発的な環境配慮行動を促すため、行政機関や地域で活動する様々な主体との協働・連携により、地球環境問題に関する普及啓発を行っており、事業実施に当たっては効率的で効果的な事業展開に努めている。

5. 管理運営の体制

□評議員・役員名簿(評議員7名、役員7名、計14名)

<評議員>

評議員	大國晴雄
	國井秀伸
	高瀬寿子
	高橋泰子
	龍善暢
	角森裕子
	宮永龍一

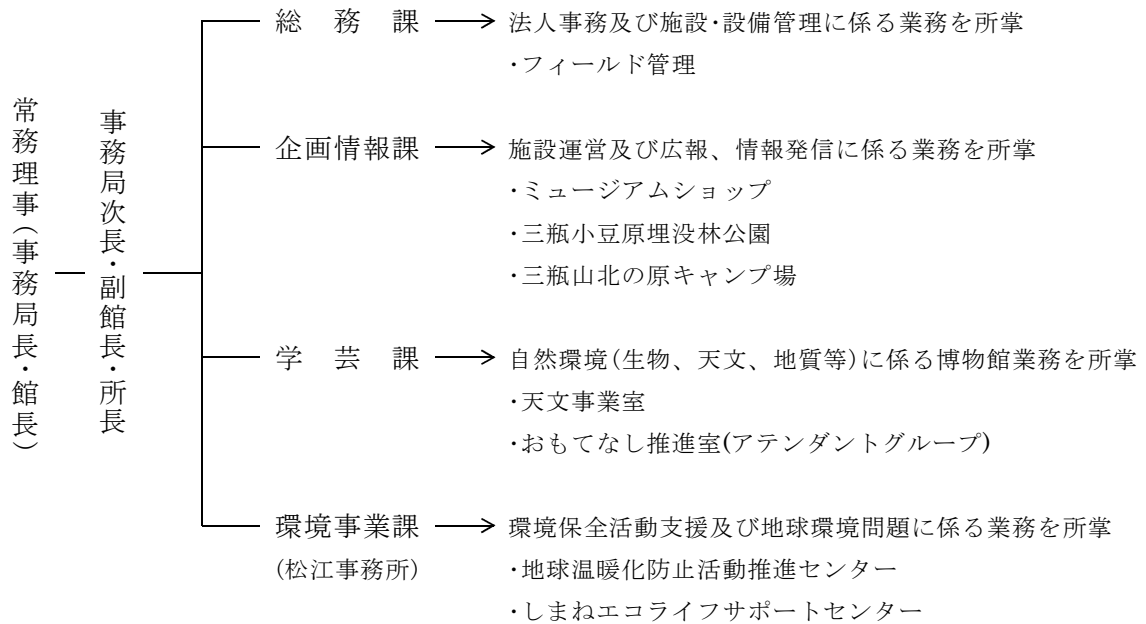
<役員>

理事長	松浦芳彦
常務理事	多根純
理事	大屋剛
	神在英寛
	榎恒雄
監事	松村浩
	安井尚之

□三瓶自然館運営委員名簿(9名 自然館の運営について有識者の意見等を徴取する委員会)

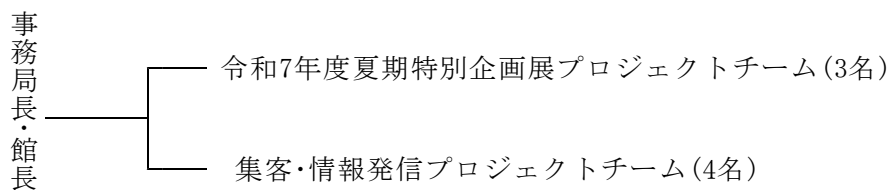
委員長	島田一嗣(～R8.2.28)	委員	竹下和宏
委員	尾原敏則		武田祐子
	駒川一彦(～R7.6.30)		土井善浩
	阿部敦子(R7.7.1～)		松本一郎
	澤野崇		勝部浩文

□事務局



□プロジェクトチーム(令和7年7月1日現在)

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。



□職員名簿(令和7年7月1日現在) 56名(役員1名、職員38名、臨時職員17名)

【財団本部】50名

事務局長・館長 多根 純
 事務局次長 石田浩二
 副館長 井上雅仁

<総務課>10名

課長 米浦道子
 主事 田原いづみ
 〃 山本健太郎
 〃 古川健斗

(フィールド管理)

スタッフ 山岡章仁
 〃 三輪洋二
 〃 大上雅史
 〃 古谷利雄
 〃 財間昭典
 〃 中山康博

<企画情報課>16名

課長 中村唯史
 企画員 竹下瑠美
 〃 石橋良美
 〃 石田操太
 〃 佐藤隆人

 チーフ 大野志津香
 スタッフ 中山侑也
 〃 山下沙利奈
 〃 加藤儀和
 〃 福田哲夫

(北の原キャンプ場)

チーフ 岡田 桂
 スタッフ 石田弓子
 〃 山下貴行
 〃 藤原昌己
 〃 桐原信夫
 〃 松浦恒夫

<学芸課>21名

課長(鳥類) 星野由美子
 企画幹(昆虫) 皆木宏明
 主任研究員(珧類) 安藤誠也
 研究員(地学) 今井 悟
 スタッフ(植物) 松村美雪
 スタッフ(植物等) 松原勝志
 スタッフ(昆虫) 三島秀夫

(天文事業室)

室長(天文) 竹内幹蔵
 主任研究員(天文) 太田哲朗
 主任研究員(天文) 矢田猛士

(おもてなし推進室)

チーフ・アテンダント 山本めぐ美
 サブチーフ・アテンダント 小田佐由香
 アテンダント 大谷朗子
 〃 和田ひみこ
 〃 西本芽生
 〃 田中 快
 〃 前崎名摘
 〃 西慶一郎
 〃 岩谷麻由
 スタッフ 大草秀美
 〃 細田須美子

【松江事務所】6名

所長・センター長 松本洋子

<環境事業課>5名

課長・副センター長 葎矢崇司
 企画幹 野崎 研
 企画員 川本愛祈
 スタッフ 門脇恵美
 〃 伊藤玲子

※「センター」とは、「島根県地球温暖化防止活動推進センター」をいう。

※網掛けは臨時職員として雇用する者。

Ⅱ. 各業務の実施状況

1. 三瓶自然館

企画展は当初の計画どおり、年3回開催した。春期は国旗に描かれた動植物、夏期には月や火星など太陽系を探る宇宙探査、冬期は自然写真をテーマとして開催し、県民に向けて自然への興味関心を深める機会を提供した。企画展以外にも、様々なイベントを開催するとともに、調査研究や資料収集の継続、講師派遣などによる学校教育や生涯学習に貢献した。

(1) 常設展示

県立の自然系博物館であること、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、島根県及び三瓶山の自然、三瓶小豆原埋没林、島根県を中心とした環日本海地域の自然、天文分野の展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。

また、収蔵庫に保存されている貴重な標本を紹介するコーナーを設置し、博物館としての活動にも興味を深めてもらう工夫を継続して実施した。

□館内案内・テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説(館内展示や特定分野に関する専門的解説)を、予約を受けて実施した。(実施状況は「Ⅵ. その他 3. 資料(p. 80)」参照)

実施数：12件 191名(テーマ解説)

(2) 企画展・特別企画展等の企画・立案・運営

①春期企画展

「はためく生きもの ～国旗に描かれた動植物～」

国旗に動植物が描かれた理由について、剥製や映像の展示を交えて紹介することを通して、世界の国々の多様性について興味や関心を高める契機とすることを目的に開催した。

期 間：3月15日(土)～5月25日(日) *会期：63日間(休館日を除く)

入場者：18,621名(総入館者数、天体観察会除く)

◆展示構成

□メイン展示(別館2階 企画展示室)

生きものが描かれた国旗(域旗)と描かれている生きものについて、大きく「動物が描かれたもの」「海洋の島々のもの」「鳥が描かれたもの」「植物が描かれたもの」に分類して展示を行った。「ライオン」と「ワシの仲間」が描かれた国旗(域旗)については、別に取り上げて紹介した。

主な展示：ライオン、リヤマ、ヒツジ、エゾクロテン、シマヘビ、キタオットセイ、アオウミガメ、ニシキエビ、オオウミウマ、チリーフラミンゴ、アカカザリフウチョウ、コアホウドリ、オジロワシ、ヒゲワシ、オオタカ、クマタカ、ゲッケイジュ、オリーブ、オオマルボン、カジカエデ、ココヤシほか
標本約40点、動画4点

□導入(本館1階ホール・回廊)

南大西洋にあるイギリスの海外領土のサウスジョージア・サウスサンドウィッチ諸島の旗には、島を代表する動物であるオットセイとマカロニペンギンのほか、島に持ち込まれたトナカイが描かれていることから、企画展のアイキャッチとして、本館1階ホールにはトナカイの剥製を展示した。導入となるギャラリーから回廊にかけては、パネル展示「世界の国旗」(キッズ外務省)、星が描かれた国旗の紹介、国旗クイズ(漢字表記の国名)の展示を行った。

□その他の展示

- ・体験型の展示として「ライオンの被り物」、「触れる羊毛や植物」、「国旗クイズ」などを実施した。
- ・参加型の展示として「旅の思い出」、「国旗の思い出」を行ったところ、多くの投稿があり来館者同士の思いを繋げることができた。

②夏期特別企画展

「太陽系大冒険!」

アポロ計画以来50年以上ぶりとなる有人月面着陸を目指す「アルテミス計画」をはじめ、日本の水星探査機「みお」、火星衛星探査計画「MMX」など、太陽系探査は新しい時代を迎えようとしている。これら月や惑星の探査計画や、多くの成果を上げてきたボイジャーをはじめとする今までの探査機による成果を踏まえ、最新の情報をもとに太陽系の姿、また人類の宇宙探査の今を紹介した。展示では模型やグラフィック・映像での紹介に加え、宇宙空間の環境、探査機に応用される科学的な原理や技術などを体験するコーナーを設け、月や惑星の世界を自ら冒険するような感覚で幅広い年代の来場者に知る喜びを提供し、ひいては次世代を担う人材の科学的思考を育てることを目標に掲げて実施した。

期 間：7月19日(土)～9月28日(日) *会期：68日間(休館日を除く)

入場者：32,417名(総入館者数、天体観察会除く)

◆展示構成

□導入(本館1階ホール)

将来的な月面探査に向けて開発されている宇宙服、宇宙探査車をエントランスのアイキャッチとして展示した。また走行した距離を百倍換算(1km=100km)して月までの平均距離(38万km)を目指す「エアロバイクで月を目指せ!」を、期間中実施した。

□火星探査エリア(本館2階)

火星探査をテーマに、火星儀(バルーン、直径2m)を展示室に吊るし、活動中の火星探査車パーサヴィアランス、日本の火星衛星探査計画MMX、ナクラ隕石(火星由来隕石)について紹介した。また自然系博物館の強みを活かし、火星が赤い理由やコンクリーションについて関連する三瓶自然館収蔵資料を展示した。

主な展示：ナクラ隕石(火星由来隕石、実物)、パーサヴィアランス(1/4模型)、火星衛星探査機MMX(1/20模型)、火星岩石と関連する地球岩石(実物)

□小惑星・惑星・月探査エリア、体験展示(別館2階 企画展示室)

小惑星・惑星・月探査についての紹介を行い、室内外では体験展示コーナーを設けた。またエントランスにはEMU宇宙服(記念撮影用レプリカ)を設置し、宇宙服内から顔を出して記念撮影ができるようにした。

主な展示：小惑星リュウグウ実物資料、小惑星探査機はやぶさ2(1/2模型)、はやぶさ2搭載機器エンジニアリングモデル他、小惑星リュウグウ(1/1,000模型)、金

星探査機あかつき(1/10模型)、月探査ロケットSLS(1/50模型)、スターシップ(1/50模型)、LEV-2(SORA-Q、実寸大模型)、各種体験展示(テンピー惑星重力比べ、ジャイロ効果体験、磁石でスイングバイ、探査機組み立て体験キットほか)

□ボイジャー探査エリア(新館5階)

1977年に打ち上げられ、約半世紀たった現在も通信が可能な惑星探査機ボイジャーについて、その探査の意義、及び太陽系外の知的生命体に向けたメッセージ(ゴールデンレコード)を模型やレプリカ、映像を使って紹介した。

主な展示：惑星探査機ボイジャー(1/10模型)、ボイジャー搭載ゴールデンレコードジャケット(原寸大レプリカ)、レコード収録画像・音声体験機

□その他の展示

回廊や新館4階、屋外など全館を使って基礎知識を紹介したり、体験や工作ができるコーナーを設けた。

主な展示：太陽系キソ知識・衛星の名前の由来・太陽系探査機マップ・疑問質問大募集(回廊)、工作コーナー・宇宙飛行士選抜試験・宇宙人へのメッセージ・宇宙日本食(新館4階)、太陽系ウォーク(北の原)、企画展示ビンゴ、大型ドーム映像特別番組「MMX 火星衛星探査計画」

◆関連イベント

□和紙のちぎり絵で惑星をつくろう

実施日：8月17日(日)

参加者：13名

内容：天文スタッフによる惑星解説ののち、発泡スチロール球に和紙をちぎりながら貼り付けて、思い思いの惑星の姿を作り上げた。

□宇宙工作まつり

実施日：8月31日(日)

参加者：69名

内容：三瓶自然館インタープリターにより、ストローロケットやペーパークラフト等、宇宙や星空をテーマにした様々な工作を行った。

□望遠鏡を作ってみよう

実施日：9月15日(月)

参加者：10名

内容：100円ショップにある材料だけで簡易的な望遠鏡を作成し、ピントの合わせ方や、観察のポイントなどをレクチャーした。

③冬期企画展

「第46回SSP展 自然を楽しむ科学の眼」

日本自然科学写真協会(SSP)の巡回展を招致し、動物・鳥類・昆虫・植物などの生物写真、山岳・天体などの自然写真を含む計102作品の展示と動画作品16点の上映を行った。会場は本館と新館をつなぐ回廊部分及び企画展示室とし、分野ごとにエリアを分けて展示した。生物たちが見せる一瞬の姿を捉えたもの、国内外の地質的に珍しい風景を撮影したものなど、地球

環境の素晴らしさを広く来館者に伝える企画展となった。

期 間：12月6日(土)～1月12日(月) ＊会期：28日間(休館日を除く)

入場者：2,413名(総入館者数、天体観察会除く)

④その他の展示

□研究員の調査研究を紹介する展示「学芸員のお仕事紹介」

研究員とその調査研究や活動を紹介する別館-新館間の回廊に設置した。1月～6月を前期、7月～12月を後期とし、各2名ずつが研究内容に関するパネルと関連標本や調査道具を展示した。

令和7年前期：皆木宏明「昆虫担当学芸員のお仕事紹介」

矢田猛士「私たちの身の回りに存在する自然放射線・温泉水を使った霧箱実験」

令和7年後期：安藤誠也「コウモリ研究最前線」

今井 悟「速報 最新の研究成果 2023-2025」

令和8年前期：井上雅仁「しまね湿地探訪」

竹内幹蔵「島根県のプラネタリウム史」

□館収蔵標本を紹介する展示「学芸員のお仕事～お宝標本のご紹介」

収蔵標本の紹介と博物館における収集保存活動の普及を目的に、収蔵標本を紹介するミニ展示コーナーを本館ホールに設置した。展示期間は2ヶ月として、さまざまな分野の標本を入れ替えて展示した。

4月～ 6月 しまねから絶滅したチョウたち

9月～10月 伊達鳥類コレクション～南の島の研究で大活躍～

11月～12月 赤名湿地を世に知らせた～杵村喜則氏植物標本～

12月～ 2月 新種発見!島根県大田市から見つかった新種のサンゴ化石

3月～ 4月 島根での発見はたったの2例 激レア種のモグラ!

□小惑星イトカワ・リュウグウ ダブルサンプル巡回展示 in サヒメル

期 間：令和7年3月29日(土)～4月6日(日)

入場者：2,289名(期間中入館者数)

場 所：本館2階展示室

内 容：全国のプラネタリウム館をリレーする巡回展示として、日本の小惑星探査機はやぶさ/はやぶさ2が持ち帰った小惑星イトカワとリュウグウの実物試料及び関連品を展示。さらに、はやぶさ2と帰還カプセル地球接近時の当館撮影画像やハヤブサの剥製等、独自の資料も陳列した。夏期特別企画展のイベントとした。

□中国四国の国立公園展～アクティブレンジャーが伝える自然と活動

期 間：6月14日(土)～6月29日(日)

入場者：3,129名(期間中入館者数)

場 所：本館1階ギャラリー

内 容：環境省中国四国地方環境事務所が主催し、中国・四国地方の国立公園で活動する環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。

□日本星景写真協会写真展「星の風景2025」

期 間：10月18日(土)～11月24日(月)

入場者：10,771名(期間中入館者数)

場 所：本館2階ギャラリー、本館回廊、企画展示室

内 容：日本星景写真協会の会員による星景写真、すなわち天体と地上の風景を一枚に収めた写真52点を展示した。高品質な大判にプリントされた各作品は、ドラマチックで感動的であった。同協会の第5回巡回展。

□インタープリター写真展

期 間：1月17日(土)～3月8日(日)

入場者：3,787名(期間中入館者数)

場 所：本館2階ギャラリー

内 容：当館のボランティアスタッフである「三瓶自然館インタープリター」が撮影した、自然に関する写真を12点展示した。あわせてパネルによりインタープリターの紹介を行った。

(3) ビジュアルドーム

① プラネタリウムの投影

星座案内(プラネタリウム生解説投影)とプログラム番組(テーマ番組)を投影した。オリジナル番組として「黄道11星座物語～古代ギリシャの星の神話～」を制作した。

◆星座案内

期 間：通年

観覧者：16,027名

内 容：その日見られる天体や星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回の投影時間は約30分である。

◆テーマ番組

□台風 天体が生み出す大気の渦

期 間：通年

観覧者：5,449名

内 容：台風の仕組みや私たちの生活との関わり、そして木星や土星、火星で観測される大気の渦について紹介する番組。地元の小学校の教員からアドバイスを受けて制作した学習番組。(令和6年度制作)

□ゆうすげ村の小さな旅館

期 間：5月1日(木)～5月31日(土)

観覧者：138名

内 容：小学校の国語の教科書にも掲載されている茂市久美子氏の童話プラネタリウム番組である。まるで三瓶のような里山を舞台にした、ほのぼのとした物語となっている。(令和4年度制作)

□島根の星景色～撮ろう!地上と夜空のアート

期 間：10月4日(土)～11月30日(日)

観覧者：477名

内 容：星空と地上の風景を一緒に収めた「星景写真」の撮り方と島根各地の星の風景を紹介するドラマ仕立ての番組。(平成26年度制作)

□オーロラ～夜空を彩る光のダンス

期 間：12月1日(月)～12月26日(金)

観覧者：68名

内 容：北極圏、南極圏の夜空にゆらめく神秘の光、オーロラ。フェアバンクス、イエローナイフ、トロムソ、昭和基地などで撮影された美しいオーロラの映像とともにオーロラの科学を紹介する番組。

□スタートレイン～宙は十重にも二十重にも～

期 間：2月1日(日)～3月1日(日)

観覧者：88名

内 容：十重(とえ)にも二十重(はたえ)にも重なるように広がる宇宙。星空に隠れている3つの世界を結ぶ列車に乗って、果てしない宇宙の広がり確かめに出かける番組。(令和5年度制作)

□黄道11星座物語～古代ギリシャの星の神話～

期 間：3月7日(土)～3月30日(月)

観覧者：500名

内 容：誕生星座としてもよく知られる黄道星座にまつわる、ギリシャ神話の成立過程を紹介。当時はなぜ12星座ではなかったのかを探り、古代ギリシャ人の科学的考え方を知る番組。(令和7年度制作)

□スペースアドベンチャー～ユウトの銀河系探検～

期 間：毎月第3日曜日(きつずサンデーにあわせて上映)、夏企画展期間の平日

観覧者：929名

内 容：天体観察会に参加した「ユウト少年」が、不思議なお兄さんとともに太陽系や銀河系のいろいろな天体を探検し、宇宙の中の地球や生命について思いを巡らせる番組。字幕メガネ対応作品。(平成21年度制作)

□その他、予約によるライブラリ作品の上映

期 間：随時

観覧者：434名

◆その他

□きつずプラネタリウム

実施日：毎月第3日曜日

観覧者：428名

内 容：小さな子どもがプラネタリウムという非日常的な空間を怖がるため、楽しい空間作りを心がけた投影にした。親子で楽しめる演出で、成長に合わせ宇宙への関心を深めるきっかけになることを目指した。

□字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

実施日：9月15日(月)～9月21日(日)、12月6日(土)～12月8日(月)

観覧者：99名

内 容：老人週間及び障害者週間にあわせて、聞こえに不安がある人や、聴覚障がいを持つ人を主な対象に、プラネタリウム番組に字幕を付けて解説する番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

実施数：25回

観覧者：704名

学習指導要領に沿った内容として「小学4年生向け投影」、「小学6年生向け投影」、及び保育園や幼稚園等の未就学児を対象に星空に親しむきっかけ作りを目的とした「幼児向け投影」を、学校団体の希望にあわせて投影した。

幼児向け投影	14回（523名）
小学4年生向け投影	9回（159名）
小学6年生向け投影	1回（9名）
中学3年生向け投影	1回（13名）

②大型ドーム映像の上映

デジタル式全天周映像システムにより、オリジナル番組及び特別番組の上映を行った。

◆特別番組

□「MMX 火星衛星探査計画」

期 間：7月19日(土)～9月28日(日)、1月2日(金)、1月3日(土)

観覧者：7,910名

内 容：火星の衛星フォボスに着陸してサンプルを持ち帰るといふMMX(Martian Moons eXploration)ミッションの紹介するとともに、はやぶさ2が持ち帰ったリュウグウのサンプル解析の結果や、人類と宇宙のかかわりという広い視野で、宇宙探査の意義を描く番組。夏期特別企画展期間中に関連番組として上映したほか、お正月イベントに合わせて上映を行った。

◆オリジナル番組

□「さんべ自然紀行」

期 間：通年

観覧者：1,186名

内 容：季節の移ろいとともにより様な表情をみせる三瓶山の自然のようすを、俳優・柳生博氏のナレーションで紹介する番組。字幕メガネ対応作品。

□「島根 人と自然の原風景」

期 間：6月1日(日)～7月18日(金)、3月7日(土)～3月30日(月)

観覧者：194名

内 容：人が関わりながら育んだ里山の自然が各所に残る島根県。日本の原風景ともいふべき島根の情景を、俳優・柳生博氏のナレーションで紹介する番組。

□「煌めきのなかで 水と光の島根路」

期 間：4月2日(水)～4月30日(水)

観覧者：68名

内 容：“水のきらめき”をキーワードに、隠岐、出雲、石見の県内各地の秋から冬の風景を、隠岐出身の女優・田中美佐子氏の語りで紹介する番組。

□「三瓶冬紀行」

期 間：1月2日(金)～1月31日(土)

観覧者：32名

内 容：視界をさえぎる猛烈な吹雪、霧氷に覆われた林など、雪に包まれた三瓶山の厳し

い表情を、冬山をひとり歩く写真家の眼差しを通してとらえた番組。

(4) 各種イベントの企画・立案・実施

□さんべの森たんけんたい～春の森であそぼう～

実施日：4月20日(日)

参加者：親子5組24名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。飯盒炊さんで炊けたご飯でおにぎり弁当を作り、北の原草原を散策した。

□ゴールデンウィーク天体観察会

実施日：5月4日(日)、5日(月)

参加者：176名

内 容：ゴールデンウィーク期間中の天体観察会を開催した。4日は晴れて月や火星などの天体を観察し、5日は曇りのため代わりにプラネタリウムを投影した。

□七輪マグマで火山実験

実施日：5月10日(土)

参加者：19名

内 容：火山とその特徴について学ぶイベント。島根県内で見られる溶岩を割って岩石標本をつくったり、砕いた溶岩を七輪で溶かしてマグマを再現する実験を行った。

□バードウォッチング講座

実施日：5月11日(日)

参加者：15名

内 容：曇天で微風のおだやかな天候となり、鳥のさえずりもよく聞こえる講座に適した条件であった。すべての班でキビタキ、ホオジロ、クロツグミ、カラ類、ツツドリなどの代表的な鳴き声を聞くことができた。また、さまざまな鳥談義や自然観察なども行い満足度の高い講座となった。

□春の三瓶で自然観察登山

実施日：5月18日(日)

参加者：17名

内 容：森林内に咲く春の草花や鳥のさえずりを観察しながら、東の原から室ノ内までを散策した。参加者は、インタープリターによる解説を聞きながら登山を楽しむことで、自然への興味や関心を深めた様子であった。

□全国一斉プラネタリウム100周年フィナーレ・イベント

実施日：5月24日(土)

参加者：21名

内 容：全国のプラネタリウム館をインターネットでつないだイベント。100周年事業の振り返りやクイズ、全国の解説員によるリレー投影などが行われた。

□さんべの森たんけんたい～初夏の森であそぼう～

実施日：6月29日(日)

参加者：親子6組23名

内 容：三瓶ダム近くの親水公園を流れる三瓶川で、水遊びと水辺の生き物観察を楽しんだ。水中のぞきめがねや網を使って、ヨシノボリやカジカガエル、サワガニなど、

たくさんの水生生物を見つけることができた。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：7月19日(土)

参加者：34名

内 容：夜の三瓶の森で活動する昆虫を観察するイベント。参加者と懐中電灯を持って森に入り、アブラゼミやヒグラシの羽化、コクワガタやコガネムシ類、ナナフシ類など夏の夜に活動している昆虫を見つけてその生態を観察したり、ライトトラップに集まった昆虫を観察した。

□夏休み天体観察会

実施日：8月10日(日)

参加者：50名

内 容：夏休み中の天体観察会を開催した。予約は満員だったものの、当日は雨天となりキャンセルが増え、参加者には代わりにプラネタリウムを投影した。

□皆既月食 インターネット中継

実施日：9月8日(月)

視聴回数：1,143回

内 容：未明に起こった月食の様子を当館の天文台からYouTubeでライブ中継した。雨が降り始める前に、部分月食から皆既月食の始めまでを捉えることができた。

□秋の天体観察会

実施日：9月14日(日)、10月12日(日)

参加者：139名

内 容：秋の三連休に合わせた天体観察会を開催した。いずれの日も曇天や霧となって天体は観察できず、代わりにプラネタリウムを投影した。

□さんべの森たんけんたい～秋の森であそぼう～

実施日：10月5日(日)

参加者：親子3組10名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。キャンプ場内を散策し、どんぐりやまつぼっくりなどの木の実採集やキノコの観察をして楽しんだ。拾った木の実でどんぐりゴマなどのおもちゃを作って遊んだ。

□ススキの迷路

実施日：10月11日(土)～11月3日(月)

内 容：北の原に広がるススキの草原を刈り込み、迷路を作成した。本年度は初級、中級、上級の3コースを作成した。

□化石発掘体験

実施日：10月11日(土)

参加者：29名

内 容：野外で地層観察や化石発掘をおこなうイベント。出雲市内の山中に集合し、大地の成り立ちや、化石を含む岩石の特徴、化石の採集方法に関するレクチャーの後、化石採集を楽しんだ。

□オーロラ上映会

実施日：11月22日(土)

参加者：88名

内 容：地球環境や環境保全、自然保護への興味や関心を高めることを目的に写真家・中垣哲也氏によるアラスカの自然と野生、オーロラ映像の上映及び講演を実施した。

□熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月23日(日)～11月30日(日)

参加者：282名

内 容：普段は眠ってしまうことに少し後ろめたさを感じるプラネタリウムだが、逆に寝てもらおうという趣旨でプラネタリウムの投影を実施した。今年は最も身近な天体である月にスポットを当て、前半は科学的な側面、後半は文化的な側面を紹介する内容とした。対象者は昨年同様中学生以上とした。

□お正月イベント

実施日：1月2日(金)、3日(土)

参加者：172名(有料入館者数)

内 容：干支の午にまつわる関連展示や、お正月限定のプラネタリウム生解説、新春ビンゴ大会などを行った。また、夏期特別企画展期間に上映していたプラネタリウム番組「MMX」の特別上映も2日間限定で行った。

□雪の三瓶でアニマルトラッキング

実施日：1月25日(日)

参加者：20名

内 容：動物たちの痕跡を探して、雪の積もった北の原周辺を散策した。キツネやタヌキ、テンにノウサギなど、様々な動物の足跡が観察できた。解説はインタープリターが担当した。

□さんべの森たんけんたい～冬の森であそぼう～

実施日：2月1日(日)

参加者：親子8組27名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。火おこしから始まり、たき火でいつも食べている市販のおやつを焼いて食べてみたり、焼きいも作りにチャレンジした。十分な積雪があったため、キャンプ場内を探検しながらソリ滑りを楽しんだ。

□星よりも、遠くへ

実施日：3月8日(日)

参加者：コンサート52名、プラネタリウム40名

内 容：東日本大震災を記憶に留めるためのイベント。震災の星空と被災者たちとのつながりを描いた、仙台市天文台制作のプラネタリウム番組「星よりも、遠くへ」の特別投影と、「まい&れいれい」によるバイオリンとピアノのコンサートを行った。

□サヒメル科学探険隊

実施日：5月25日(日)、6月22日(日)、9月7日(日)、10月19日(日)、11月9日(日)

参加者：18名

内 容：小学4～6年生を対象に自然科学に関する体験活動や観察を行った。年度当初に参加者を募集し、県内外から18名の申込みがあった。下記の全5回の活動を行い、自然科学への関心を高め理科好きな子供たちが交流し、活動する場となるなど有意義な活動となった。なお、第4回の活動は島根大学と共催で実施し、島根大学の研究者を講師に迎え、大学演習林をフィールドに行った。

第1回 国立公園で自然観察／学芸員の仕事体験!

第2回 落ち葉の下でくらす生きものとクマムシの観察

第3回 宇宙探査と月食のしくみを学ぼう!／望遠鏡作りにも挑戦

第4回 大学の研究者と一緒に活動!探ってみよう!森の落し物からわかること

第5回 フンから調べる動物の食べ物/1年間の活動発表

□親子で作ろう工作教室

実施日：6月1日(日) 竹細工「よろずかご」 (7名)

7月27日(日) 紙皿水族館 (9名)

8月3日(日) 竹細工「四海波かご」 (19名)

8月24日(日) 木の実の工作 (19名)

9月28日(日) 羽ばたく鳥のおもちゃ (11名)

10月13日(月) くるくる笛 (14名)

11月2日(日) カタカタくんだり (13名)

11月30日(日) 落ち葉アート (23名) ()内は参加人数。

内 容：自然や科学をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。

□きっずサンデー

実施日：毎月第3日曜日(しまね家庭の日)

参加者：5,688名

内 容：しまね家庭の日に合わせて、子どもたちの自然や環境についての興味関心を高めるため、子ども向けのイベントを全館で実施した。きっずプラネタリウムの投影、デジタル紙芝居、ワークショップ、テンピーとのふれあいなどを実施した。また、保護者同伴での小中高生の入館料を無料とした。

□みんなでさわろう♪わくわくワゴン

実施日：毎月第4日曜日

参加者：156名(25回)

内 容：三瓶自然館インタープリターが展示室で標本解説を行う活動で、普段さわることができない様々な標本に触れながら、生きものの特徴や生態を紹介するプログラムである。本年度は「テンピーと北の原の動物たち」、「原っぱで牛のウンチを食べる虫たち」、「三瓶で会えるかもしれない動物たち」、「チョウとガのちがひ」、「この子だぁ〜れ(哺乳類の頭骨標本による比較検討)」、「この葉なんの木」、「葉っぱ工場のひみつ」など7つのテーマで活動した。

(5) 自然学講座の開催

①自然科学に造詣の深い講師を招いた講演会

□津田雄一氏講演会「はやぶさ2の大冒険〜3つの小惑星を探索せよ〜」

実施日：4月5日(土)

参加者：99名

内 容：JAXA宇宙科学研究所・副所長で小惑星探査機はやぶさ2の元プロジェクトマネージャ津田雄一氏による講演会。小惑星リュウグウ探査の意義や成果、今後のはやぶさ2拡張ミッションについて、クイズを交えながら子どもにもわかりやすく、科学と技術をあわせた総合的な視点で語ってもらった。講演中、ドームスクリーンに探査機の3Dモデルを投影する演出も行った。小惑星探査の当事者であり、かつプロジェクトの中心人物による言葉は、参加者に力強く伝わったと感じた。

②学芸課スタッフによる講座型事業

□教員のための博物館の日

実施日：サヒメル会場：7月29日(火)

アクアス会場：7月31日(木)

参加者：サヒメル会場：31名(うちプレ期間9名)

アクアス会場：40名

内 容：三瓶自然館及びしまね海洋館を会場として、学校の先生に「博物館に親しみを持ってもらうこと」及び「博物館の学習資源を知ってもらうこと」を目的としたワークショップを実施した。また、ポスター発表として、学校と三瓶自然館やしまね海洋館との連携事例の紹介を行った。なお、本事業は第20回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施したものである。

プログラム

ワークショップ		講 師
1	先生方に知っていただき、身近な生きものとの接し方(共通)	梶 明広氏(しまね海洋館アクアス)、当財団職員
2	植物標本を作ってみよう(会場：三瓶自然館)	当財団職員
3	企画展「太陽系大冒険!」解説(会場：三瓶自然館)	当財団職員
4	海藻標本を作ってみよう(会場：しまね海洋館アクアス)	梶谷恵美氏(しまね海洋館アクアス)
5	館内スポット解説(会場：しまね海洋館アクアス)	山口慶子氏、永松麻里氏(しまね海洋館アクアス)
ポスター発表による事例紹介		発 表 者
ICTでもっとつながろう 特別支援学校と海・水族館		山口慶子氏(しまね海洋館アクアス)
野鳥観察から自然を学ぶプログラム		当財団職員
カスタマイズできる地層学習		当財団職員
流れる水の働き～静間川を極める～		当財団職員
特別支援学校での天体学習における360度星空映像のVR体験		当財団職員
サヒメルのプラネタリウム学習投影2025		当財団職員
ブタの四肢骨(豚足)を用いた教育・普及活動向け骨の組み立て体験活動		当財団職員

□バードウォッチング講座

詳細はp. 13に掲載

(6) 天体観察会の実施

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm反射望遠鏡を活用し、個人向け・団体向け観察会のほか、ゴールデンウィークと夏休みの多客期に観察会を実施した。

合計参加者数：4,002名(天文ミニガイドは除く)

①個人向け天体観察会

実施日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(4-8月)20:00～、21:00～、(9-11月、3月)19:00～、20:00～、(12-2月)19:00～

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	128	161	67	333	472	251	172	321	52	34	44	87	2,122

②団体向け天体観察会

学校団体・一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館日他を除く日に予約により実施している。曇天・雨天時にはプラネタリウムの投影を行う。(実施状況は「VI. その他 3. 資料(p. 80～81)」参照)

実施数：34団体 1,515名

③特別天体観察会

ゴールデンウィーク天体観察会、夏休み天体観察会、秋の天体観察会

合計参加者数：365名 ※詳細はp.13～14に掲載

④天文ミニガイド

土曜、日曜、祝日の日中に、太陽や昼にも見られる天体を対象とした観察会を実施している。雨天・曇天時には隕石などの展示物の解説を行う。

合計参加者数：1,379名

(7) 自然観察会の実施

①定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

実施日：毎週土曜日(4～11月)

内容：三瓶北の原草原で見頃を迎えた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会で、来館者が気軽に参加できるよう30分間で実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
参加人数	27(4)	26(3)	9(4)	16(3)	20(4)	45(4)	4(2)	13(4)	160(28)

()内は回数 ※悪天候時は中止

②予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会で、学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「VI. その他 3. 資料(p. 81～82)」参照)

実施数：43団体 1,149名

(8) 環境学習の推進

講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は

「VI. その他 3. 資料(p. 82～84)」参照)

実施数：89件 2,829名

□スーパーサイエンスハイスクール・サイエンスセミナーなどへの協力

* 島根県立大田高等学校1年生 三瓶サイエンスセミナー

日 時：9月10日(水)、11日(木)

生徒数：19名

内 容：研修①・・・岩石の風化・侵食とその観察

研修②・・・身近にもある放射線の調査と観察

研修③・・・ヒトと動物の骨格の比較

□教員のための博物館の日

詳細はp. 17に掲載

(9) 博物館資料の収集・保管、活用

①各分野の資料収集整理

◆指定管理財源における資料収集整理

□地学標本(岩石標本の収集、分類)

松江市、吉賀町、西ノ島町、知夫村などで調査を行い、岩石及び化石標本を採集した。

・化石標本：約70点

・岩石標本：約20点

・地層はぎ取り標本：6点

□天体画像(その他有用な資料の収集、分類及び整理)

天体、天文現象を画像・映像資料として記録した。また、株式会社アクアキューブより天体観測用低分散分光器の寄贈を受けた。

おもな撮影対象：皆既月食、プレアデス星団食、ほとんど環が見えない土星、レモン彗星(C/2025 A6)、スワン彗星(C/2025 R2)、恒星間天体アトラス彗星(3 I)、再帰新星かんむり座Tの状況、超新星SN 2025rbs、主な1等星、球状星団、星景など

□動物標本(斃死鳥獣の収集と剥製製作)

動物標本として、鳥類3点、哺乳類1点を製作した。

・鳥 類：コマドリ、ヤマシギ、アオジ(すべて本剥製)

・哺乳類：ノレンコウモリ仮剥製

□昆虫標本(昆虫標本の収集、分類及び整理)

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の寄贈標本や主として県内で採取した標本を中心に計200点の標本データの入力を行った。また、主に企画展での展示用として県レッドデータ種を中心に関連する昆虫の収集及び標本を作成し、資料の充実に努めた。

・購入標本：ホソハンミョウやオオチャイロハナムグリなどの標本 8種21点

□植物標本(植物標本の収集、分類及び整理)

丸山巖氏収集のさく葉標本の整理、アクリル封入標本の製作、各種調査にあわせた植物

標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、国際的なデータベースであるGBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

- ・丸山巖氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：1,800点
- ・アクリル封入標本製作：オナモミ、コムラサキ、テツホシダ 計3点

◆受託による資料収集整理

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている丸山巖氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、1,800点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

②自然科学関連図書の収集と保管

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

購入図書：67冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫の防除を目的として展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、大型常圧燻蒸庫を用いて適宜実施した。

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対 象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期 間：適宜実施した

④企画展会場のデジタルアーカイブ

企画展会場の記録はこれまで写真撮影が中心であったが、標本配置などの詳細を記録するために、360度3Dカメラ(マーターポート)を用いて、企画展の様子を撮影した(外部委託)。令和7年度は、春期、夏期の2つの企画展で実施した。

⑤博物館資料の貸出・閲覧など

当館で所蔵する博物館資料については、他施設などからの要請に応じて、貸出や閲覧などを行っている。令和7年度は以下の要請に応じて貸出・閲覧を行ったほか、寄贈も受けた。

機関名等	種別	期間	資料名
福井県立恐竜博物館	貸出	2/25-5/31	ブテラノドンレプリカ、シーラカンス模型他
出雲市教育委員会(出雲科学館)	貸出	3/6-4/18	タルボサウルス頭骨レプリカ
長崎市恐竜博物館	貸出	6/1-9/28	ブテラノドンレプリカ、シーラカンス模型他
島根県(総務課)	貸出	7/11-9/19	ニホンアシカ(本剥製)
読売新聞大阪本社(鳥取県立博物館)	貸出	7/8-9/17	ミンミンゼミ大型模型
日本獣医生命科学大学博物館	貸出	7/21-11/29	ニホンアシカ剥製写真(リャンコ大王)
島根大学大学院	閲覧	7/28	中国山地の植物標本
島根大学大学院	閲覧	7/29	隠岐諸島他の植物標本
仙台市富沢遺跡保存館	貸出	8/1-12/21	埋没林輪切り標本、溶岩・軽石等
下関市立しものせき水族館海響館	貸出	8/1-1/7	ニホンアシカ剥製写真(リャンコ大王)

しまねレッドデータブック改訂委員	閲覧	8/6	レッドデータブック掲載種の植物標本
しまねレッドデータブック改訂委員	閲覧	8/7	レッドデータブック掲載種の植物標本
しまねレッドデータブック改訂委員	閲覧	8/13	レッドデータブック掲載種の植物標本
しまねレッドデータブック改訂委員	閲覧	8/30	レッドデータブック掲載種の植物標本
徳島県立博物館	貸出	9/26-9/9	ブテラノドンレプリカ、シーラカンス模型他
テレビ朝日	貸出	10/29	テントウムシ画像
飯南町立頼原中学校	貸出	10/31-11/5	スズメバチ・マダニほか標本、観察用具等
しまねレッドデータブック改訂委員	貸出	11/12-11/15	陸産貝類標本
しまねレッドデータブック改訂委員	貸出	11/20-11/28	陸産貝類標本
しまねレッドデータブック改訂委員	貸出	11/27	チョウ類標本画像
しまねレッドデータブック改訂委員	貸出	11/28-12/2	陸産貝類標本
しまねレッドデータブック改訂委員	閲覧	12/7	レッドデータブック掲載種の植物標本
山口県立山口博物館	閲覧	12/11	クワガタ類標本の撮影
三重県総合博物館	貸出	1/9-4/16	ブテラノドンレプリカ、シーラカンス模型他
出雲科学館	貸出	2/9-4/12	アカギカメムシ他昆虫の生息情報と画像
株式会社アクアキューブ	寄贈	3/11	天体観測用低分散分光器
島根県立しまね海洋館	貸出	3/13-5/11	コハクチョウ骨格標本
千葉県環境生活部自然保護課	貸出	3/31	ニホンアシカ幼獣剥製の画像

(10) 調査研究

① 研究項目と成果概要

◆ 県民や行政の課題となっている調査研究

□ レッドデータブック掲載植物の現況調査

島根県版のレッドデータブックに掲載されている植物を対象として、既存情報の整理や現地での確認調査を行った。(井上雅仁)

□ 三瓶山半自然草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

希少植物のモニタリング調査、火入れ地での植生調査など、三瓶山の草原保全のための調査を行った。これらの結果は、保全活動の内容を検討するための資料として活用した。(井上雅仁)

□ 自然環境保全地域等(三隅海岸、赤名湿地、隠岐世界ジオパーク)の動植物調査

島根県自然環境保全地域である三隅海岸では、動植物及び地質に関する調査を行った。同地域である赤名湿地性植物群落では、保全活動の効果を検証するモニタリング調査を行った。世界ジオパークの登録地である隠岐諸島では、北方系植物の生育環境調査を行った。(井上雅仁・今井 悟・三島秀夫)

□ 県内における希少鳥類等生息調査

旧ふれあいの里奥出雲公園における鳥類の生息状況のモニタリングを目的として、希少鳥類の繁殖状況や構成種の調査を行った。希少鳥類調査では、園内における希少種の生息状況の把握のほか、構成種の調査では、予め定めたルートを毎月踏査し鳥類の出現状況の変化を調査した。また、三瓶山におけるミヤマホオジロ、カラアカハラの繁殖確認、トモエガモの集団越冬調査などを実施した。(星野由美子)

□ 特定外来種ソウシチョウの移動特性調査

島根県内でも生息地が広がりつつあるソウシチョウの移動特性や生息地拡大に関する調

査として、繁殖地・中継地・越冬地でのカラーリング装着調査を実施した。(星野由美子)

□島根県内における希少昆虫調査

ダイコクコガネの調査は、三瓶山西の原放牧地の2ヶ所で実施したが本種は確認できなかった。放牧地では、準絶滅危惧種のオオセンチコガネや情報不足のツノコガネ、ゴホンダイコクコガネなど他の糞虫類は確認できた。準絶滅危惧種のシロスジフトハナバチは、東の原及び北の原で複数確認した。国と県の準絶滅危惧種に指定されているシロヘリツチカメムシは北の原、東の原、西の原のいずれの草原でも成虫及び幼虫が見られ、特に西の原では春から秋まで長期間繁殖活動を確認した。また、本調査でクロヤマアリがシロヘリツチカメムシのエサとなるカナビキソウの種子を運搬することを確認した。(皆木宏明)

□県版RDB記載の哺乳類調査

島根県版レッドデータブックに記載の哺乳類について、県内での分布状況を把握する目的で調査を行った。ニホンリスについては、県央地域の複数地点での目撃情報があり、食痕の確認調査を行った。ミズラモグラについては過去に死骸が回収された例がある三瓶自然館周辺(三瓶山周回道路上の約1kmの区間)において、死体等がないか確認したが発見には至らなかった。その他、モモンガ、カワネズミについて山林や河川を踏査し痕跡の発見に努めた。(安藤誠也)

□テングコウモリの繁殖生態の解明調査

鳥獣捕獲許可を得て、石見銀山で118頭、久喜・大林銀山で3頭を捕獲し、外部形態の計測や翼帯の装着による個体識別と、メスの妊娠出産履歴の調査を行った。(安藤誠也)

◆自然系博物館としての機能に資する研究

□太陽系外惑星を含む連星系及び変光星の観測

令和7年度は近接連星のアルゴル型食変光星カシオペア座RZ星(RZ Cas)についてWilson-DeVinney(WD)コードをベースに光度曲線解析を行った。WDコードは、地球から見えている表面全てからの積分光量(理論値)と観測値をフィッティングすることにより種々の物理量を導出する、連星とその食をモデリングするためのパッケージである。兵庫県立大学の鳴沢真也氏との活動的アルゴル系食連星ケフェウス座U星(U Cep)の共同研究について、日本天文学会刊行の欧文研究報告誌(PASJ: Publications of the Astronomical Society of Japan)に共著者として成果を発表した。

また、当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を發揮できるユニークな観測として、連星系及び変光星の光干渉計観測を候補として検討している。令和7年度は、引き続き、干渉を光遅延線(光路長を変化させて遅延を補償する装置)について、検討を行った。(矢田猛士)

□島根県における地震・津波堆積物調査

島根県内の中新統を中心に調査を進め、複数のイベント堆積物(津波、洪水など突発的な自然現象によって形成される地層)と考えられる堆積物を見いだした。今後、こうした堆積物の成因について調査を進める予定である。また、和歌山県白浜町で共同研究を続けていた津波堆積物について解析を進めた結果、干潟環境で堆積したものであること、数 m にわたり海底を侵食した後、極めて強い流れが繰り返し生じ、厚さ数 m におよぶ土砂を堆積させたこと、大規模な海底地すべりが波源である可能性が高いことなどが明らかとなっ

たため、論文を執筆し、国際誌に投稿した(査読中)。また、津波堆積物の調査中に発見した生痕化石*piscichnus*についても調査し、その結果を国際誌に投稿した。(今井 悟)

□島根県産生痕化石の古生態学的研究

隠岐郡西ノ島町美田地区に分布する美田層で化石の調査をおこなった。その結果、洪水時に河川が湖に流れ込むことで発生する、土砂を大量に含んだ流れ(ハイパーピクナル流)によって湖の沖合に運搬され、沈積した貝類化石群を見出した。また、貝類化石を含む地層からは、世界的に報告例の少ない種類の生痕化石を確認した。この成果は、日本古生物学会第175回例会で発表した。なお、この調査は隠岐ジオパーク学術研究奨励事業の助成を利用した。(今井 悟)

□三瓶山鳥類調査

三瓶山における鳥類相については、さまざまな調査を実施しているが、令和7年度は、令和5・6年度に夜間の鳥類相を把握する目的で三瓶山北麓エリアに設置したデジタル録音機のデータ確認作業を実施し、夜行性鳥類や夜間に渡りをすると考えられている種類の確認を行った。(星野由美子)

□未確認コウモリの調査

県版RDB改訂などのために隣県で生息が確認されている種について調査を行った。県央地域の複数箇所において、超音波録音機を使った生息確認を実施した他、洞窟などを探索した。(安藤誠也)

◆環境教育・環境学習に資する研究

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発及び実践

令和7年度は大田市内の浅原鉱泉、小林鉱泉、忍原鉱泉の調査を行い、霧箱実験などの放射線学習に使用できることを確認した。また日本原子力研究開発機構の地中ラドン研究の現地調査(研究代表者：野原 壯)からの協力要請を受け、情報提供などを行った。館内において学校団体や島根大学博物館実習の学生向けに放射線学習を行ったほか、島根県高等学校文化連盟の自然科学部の研修において実習を行なった。池田鉱泉の現地では、大田高校サイエンスセミナーの高校1年生とサンプリング及び環境放射線の測定を実施した。簡易ガンマ線測定装置を用いた走行サーベイは大田市から北九州市までの中国自動車道沿いを中心に実施した。(矢田猛士)

□360度映像を活用した学習教材の開発

令和7年度は大田市立静間小学校、大田市立鳥井小学校、大田市立温泉津小学校において360度星空映像の撮影を行い、学習教材として提供した。11月には小学校5年生を対象とした静間川での野外観察の様子を、12月には三瓶自然館の天文台においてスライディングルーフの開閉や快晴の星空の様子を360度カメラで撮影を行った。今後は教材化に向けた映像編集を行う予定である。令和8年2月には島根県立盲学校において弱視の生徒を対象とした360度星空映像によるVR体験の試行を行った。

また、8月には富山大学で開催された日本理科教育学会全国大会において、松江清心養護学校で実施した360度星空映像のVR体験の試行について発表を行った。(矢田猛士)

□プラネタリウムの魅力向上への取り組み

スマートグラスなどのデバイスやコンテンツの内容ほか、プラネタリウム全般の魅力向上につながる仕組みを検討した。(太田哲朗)

□島根県の地質資源を活用した学習プログラムの作成

出雲市内の化石産地で、地層観察及び化石採集を学ぶイベントを開催した。また、七輪で加熱することで岩石粉末を融解し、マグマを作成する実験として知られる「七輪マグマ」について三瓶山版を作成し、イベント及び学習プログラムとして実施した。これらのプログラムについて、学習効果の確認及び改善に向けたアンケート調査を実施した。(今井悟)

□コウノトリ・トキの生息をテーマとした環境教育プログラムの開発

令和7年度はおもに小学校でのコウノトリに関する出前授業を実施した。また、学習教材などは雲南市及び出雲市内の小学校4校に貸出を行った。トキの学習ツールについて、トキ野生復帰に関する専門家と意見交換を行った。(星野由美子)

◆受託による調査研究

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年と同じように4種のコウモリ類の冬眠が確認された。(井上雅仁・安藤誠也・三島秀夫)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が平成15年から提唱しているプロジェクトで、全国に観察サイトを設けて動植物の生息状況を長期的にモニタリングする調査事業である。三瓶山北の原は人為的に維持管理している草地として里地コアサイトとされており、植物と鳥類の調査を実施している。(井上雅仁・星野由美子)

□しまねレッドデータブック改訂業務(島根県自然環境課より受託)

島根県版レッドデータブックの改訂を行うために、哺乳類、蘚苔類、維管束植物、菌類、地衣類の分野を対象に、原稿の収集・調整などを行った。(井上雅仁・安藤誠也)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

□論文、報告書

竹内幹蔵(2025)ISS(国際宇宙ステーション)を見よう。島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」191: 2.

竹内幹蔵(2025)インターネット中継も実施!皆既月食。島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」192: 2.

竹内幹蔵(2026)博物館と公開天文台—中国地方の施設の例を中心に。博物館研究 695: 23-26.

太田哲朗・竹下瑠美・山本健太郎(2026)令和7年度夏期特別企画展「太陽系大冒険!」実施報告。島根県立三瓶自然館研究報告24: 67-74.

- 太田哲朗(2025)令和7年度夏の特別企画展 太陽系大冒険!. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」191: 1-2.
- 矢田猛士(2026)島根県大田市において360度カメラで撮影された薄明光線と反薄明光線. 島根県立三瓶自然館研究報告24: 41-42.
- 矢田猛士・石田操太・井上雅仁(2026)令和7年春期企画展「はためく生きもの ～国旗に描かれた動植物～」実施報告. 島根県立三瓶自然館研究報告24: 75-82.
- 矢田猛士(2025)プラネタリウム新番組 台風～天体が生み出す大気の渦～. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」190: 1-2.
- 矢田猛士(2025)オーロラ上映会の紹介. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」193: 2.
- Shin-ya NARUSAWA^{*}・Kazuo NAGAI^{*}・Hiroyuki MAEHARA^{*}・Takeshi YADA(2025) Most active Algol-type system U Cephei: Drastic variations in the light curves obtained with the Transiting Exoplanet Survey Satellite. Publications of the Astronomical Society of Japan, 77(4), 754-767
- 今井 悟・安藤誠也(2026)三瓶山室ノ内池におけるドジョウの記録. 島根県立三瓶自然館研究報告24: 25-28.
- 今井 悟(2025)冬の企画展・SSP展の紹介. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」193: 1.
- 今井 悟(2026)出雲市佐田町化石発見&発掘体験開催レポート速報版!. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」195: 2.
- Nara Masakazu^{*}・Satoru Imai・Shigehiro Fujino^{*}(2025) Well-preserved *Piscichnus waitemata* in tidal-flat deposits of the Miocene Shirahama Formation, southwestern Japan and its ichnological, palaeoecological, and palaeontological implications. Ichnos 32: 283-291.
- 安藤誠也(2026)島根県中部におけるカワネズミ(*Chimarrogale platycephalus*)の確認. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 43-45.
- 安藤誠也(2026)島根県におけるノレンコウモリ(*Myotis bombinus*)の再確認. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 47-48.
- 安藤誠也(2025)三瓶自然館インタープリター養成講座 サヒメルで活動するボランティア募集!. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」190: 2.
- 安藤誠也(2026)雪原の名探偵!三瓶山アニマルトラッキングの魅力. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」194: 2.
- 星野由美子(2026)令和8年春の企画展 救え!消えゆく生きものたち2026～しまねレッドデータブック山野の生きもの編～. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」195: 1-2.
- 皆木宏明(2026)カメムシから学ぶ島根の自然. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」194: 1-2.
- 皆木宏明(2026)アリ散布植物カナビキソウにおけるクロヤマアリによる種子散布の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 29-31.
- 皆木宏明(2026)島根県西部で確認されたヒラズゲンセイ(コウチュウ目ツチハンミョウ科)の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 53-55.
- 皆木宏明(2026)島根県雲南市で確認されたノギリクワガタの雌雄モザイク個体の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 57-58.
- 三島秀夫(2026)島根県で採集された蛾数種について2025. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 49-52.
- 松村美雪(2026)三瓶自然館でのニホンアマガエルの飼育について. 島根県立三瓶自然館研

究報告 24: 63-65.

佐藤隆人(2026)三瓶山北の原におけるワスレナグモの記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 59-62.

井上雅仁(2025)図説日本の里山(湯本貴和・佐久間大輔・鎌田磨人・原慶太郎編) 184pp. 朝倉書店. 東京.(分担執筆)

井上雅仁(2025)秋の七草. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」 192: 1-2.

井上雅仁(2026)島根県自然環境保全地域「三隅海岸」の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 1-13.

井上雅仁(2026)杵村喜則氏収集植物標本目録(IV). 215pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団.

Tomohiro Watazu^{*}, Masayoshi K. Hiraiwa^{*}, Masahito Inoue, Hideo Mishima, Atushi Ushimaru^{*}, Tetsuro Hosaka^{*}(2025)Effectiveness of interval photography cameras for a survey of pollinator communities: comparison with direct observation. *Applications in Plant Sciences*. 13: e70023.

河合駿介^{*}・長尾知輝^{*}・井上雅仁(2026)島根県で初確認されたオオウバユリについて. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 15-16.

柳浦正夫^{*}・井上雅仁(2026)島根県でアオカモメヅル(キョウチクトウ科カモメヅル属)の分布を確認. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 17-20.

柴田一樹^{*}・柳浦正夫^{*}・井上雅仁(2026)島根県で確認されたオオバメギとその現状について. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 35-36

立花寛奈^{*}・白石泰志^{*}・井上雅仁(2026)隠岐諸島でホンゴウソウを記録する. 島根県立三瓶自然館研究報告 24: 37-39.

□学会・研究会等での発表

矢田猛士・上栗まゆ子^{*}・多田納快斗^{*}・渡邊千夏^{*}・渡部敬太^{*}(2025, 8) 特別支援学校での天体学習における360度星空映像のVR体験の試行. 日本理科教育学会第75回全国大会. (富山大学)

鳴沢真也^{*}・矢田猛士(2026, 2) 活動的アルゴル系及び候補系の TESS 光度曲線にみられる変動～主に RZ Cas について～. 連星系・変光星研究会2025. (兵庫県立大学)

今井 悟・中山健太朗(2025, 12) 島根県隠岐島前に分布する下部中新統美田層における淡水生貝類化石の産状. 日本古生物学会第175回例会. (薩摩川内市)

Nara Masakazu^{*}・Satoru Imai・Shigehiro Fujino^{*}(2025, 5)Well-preserved large *Piscichnus waitemata* in marginal marine deposits of the Miocene Shirahama Formation, Japan. 18th International Ichnofabric Workshop. (Granada, Spain)

安藤誠也・中林 雅^{*}(2025, 8)モモジロコウモリの冬眠集団における交尾行動と交尾中の音声構造. 日本哺乳類学会2025年度大会. (酪農学園大学)

Shirakawa, K. ^{*}, Inoue, M. and Takahashi, Y. ^{*}(2026, 3)Connecting "Old-Growth Grasslands (Sogen)" to the Future: Actions and a Roadmap from the Japan Sogen Network. 73rd Annual Meeting of Ecological Society of Japan (Kyoto, 2026, March), Symposia: The Old-Growth Values of Semi-Natural Ecosystems: Insights from Human-Managed Grasslands of Japan and Beyond.

村中志織^{*}・久保満佐子^{*}・井上雅仁(2026, 3) 島根半島及び中国山地との比較による隠岐諸島の種子植物相の特徴. 第137回日本森林学会大会. (茨城)

秋廣高志^{*}・Hyeonji Moon^{*}・白井匡人^{*}・Diego Tavares Vasques^{*}・田金秀一郎^{*}・李 忠建^{*}・井上雅仁・黒沢高秀^{*}・Kim Sangtae^{*}・高野温子^{*}(2026, 3)AI画像認識を用いた日本及び韓国産スミレ属72種の自動識別システムの構築. 本植物分類学会第25回大会. (熊本)

(11) 広報宣伝業務

① 広報営業活動

夏期特別企画展を中心に広告を展開した。本年度の特徴的な試みとして「宇宙」がテーマの夏期特別企画展を周知するため、映画館のタイアップ広告を掲出し、同じく宇宙がテーマの映画が公開されるのに合わせ、映画館での宇宙講座の依頼も受けた。企画展の周知に効果的であったと思われる。

夏期特別企画展及び令和8年春期企画展では、割引付のチラシを制作し、幼稚園・保育園、道の駅、近隣観光・飲食施設に設置した。特に保育園・幼稚園からの利用が多く、ターゲット層の再確認となった。また、埋没林公園の割引券付チラシも制作し、道の駅、近隣施設に設置して、集客を図った。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会、石見ツーリズムネットに参画して三瓶山地域のPRを行ったほか、島根県観光連盟の企画による商談会(福岡市、浜田市)に参加して、大田市の他団体と共同で観光PRを行った。

□ 営業活動

冬期に近隣の小・中学校及び幼稚園・保育園・児童クラブ等を訪問し、学習プログラムや施設の利用方法などを紹介した。

また、広島県庄原市北部の小学校も訪問した。

② 情報発信

□ WEBサイト・SNS

各施設のホームページに施設の情報とイベント等の情報を随時更新し、臨時的な情報などはSNSを併用することで効果的な情報発信を行った。SNSは当館のターゲット層が多く利用するInstagramをメインに運用し、企画展の情報をスタッフ出演の動画で紹介するなど、魅力を伝える工夫をした。また、WEB広告を利用し、山陽方面への広報にも力を入れた。

三瓶自然館ホームページには、季節に合わせた自然の情報やトピックスについて、学芸課スタッフによる発信を「自然情報」として毎週日曜日に定期更新を行った。自然情報はFacebookにも投稿した。(掲載記事の一覧は「VI. その他 3. 資料(p. 85)」参照)

□ ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。館内に配架した他、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

□ 新聞への寄稿

読売新聞「サヒメル研究日誌」、島根日日新聞「学芸員日記」等の連載企画への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。(掲載記事の一覧は「VI. その他 3. 資料(p. 86)」参照)

(12) 仕様書以外の事業の実施状況

① 博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」の活動

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことの手助け(インタープリテーション)を目的として設置されたボランティアスタッフである。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、自然観察の経験が少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□登録者数

委嘱登録者：58名
 研修登録者：18名
 合 計：76名

□活動実績

館が実施する各種事業に協力し、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。
 主な活動内容は次のとおりである。

- ・館主催イベントにおける参加者対応や企画、実施、実施補助
- ・外部から依頼を受けた観察会や定期観察会での自然解説
- ・団体向け予約天体観察会や毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
- ・本館1Fでの工作や来館者対応
- ・北の原の植物・鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000)
- ・新館4Fでの標本解説や演示活動

*令和7年度の主な協力事業

月 日	事 業 名	延べ活動人数
5/10	七輪マグマで火山実験(試行会含む)	20名
5/11	バードウォッチング講座	7名
5/18	春の三瓶で自然観察登山(下見含む)	9名
7/19	夏の夜の昆虫観察	6名
8/31	宇宙工作祭り(打合せ含む)	14名
10/1	化石発掘体験(下見含む)	13名
1/25	アニマルトラッキング	10名
複数回実施 事業等	わくわくワゴン(27回、打合せ含む)	26名
	工作コーナー(準備を含む)	83名
	親子で作ろう工作教室(8回)	26名
	自然観察会(主に学校など団体向け)	40名
	天体観察会(定期・特別・団体)	108名
	お散歩ツアー	4名
	調査(モニ1000植物・鳥類)	93名
	総会(春・秋)	29名
	研修(10/4北ノ原を彷徨う会)	6名
	保全作業(北の原集草作業)	7名
	会議(運営委・監査等)	15名
	その他(科学探険隊、テンの小屋清掃、天文ミニガイド)	4名
	その他(インプリ養成講座サポート)	13名
その他(インプリ養成講座受講)	103名	
合 計		636名

※複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ数

□研修

本年度は1回の研修を実施し、心理学や自然体験活動を専門とする外部講師を招聘して実

施した。内容は、インタープリテーションとはなんであるか、また、当館のボランティア活動の今とこれからについて、の2本立てで実施した。当館のボランティアスタッフはインタープリターであるが、ガイドとの違いや、活動の中で実践した方が良いポイントなどを学んだ。また、研修の後半ではグループディスカッション方式で活動の現状と課題点を洗い出し、今後の方向性を議論することが出来た。

□インタープリター養成講座

ボランティア活動を充実させる目的で、本年度はインタープリター養成講座を開講した。受講者は12名で、外部講師や既存のボランティアスタッフ、職員などが行った全10回の講座に参加した。講座では座学と実践を取り入れ、国立公園に関すること、野外活動中の応急処置の方法、動植物に関すること、天体や自然の観察手法、コミュニケーションの取り方など様々な内容を盛り込んだ。最終的に11名が次年度からボランティアとして登録された。

②地域との連携

□三瓶地域協育ネットワーク事業(三瓶青少年交流の家)

三瓶青少年交流の家が主管する三瓶地域協育ネットワーク事業に参画して会議(年2回)に出席してさんべ祭等の事業に関する意見交換を行った。

□大田市の観光事業

大田市DMO(事務局/大田市観光協会内)が主催する大田市観光戦略会議に2回出席した。

□日本遺産事業

大田市日本遺産推進協議会が実施したコーディネーター講座(大田市石見銀山課が主管)に協力した。

□石見銀山遺跡世界遺産登録20周年発見500年事業

実行委員会の産業振興部会及び保全活用部会に参加。会議に随時出席した。

□第45回クリーン三瓶

実施日：5月18日(日)

参加者：約150名

内 容：三瓶山の関連機関が実行委員会を構成し、ボランティアを募って実施する清掃作業。当財団も財団設立以来、実行委員の一員として協力・参加しており、本年も西の原から三瓶自然館まで周回道路のゴミ拾い等を行った。当財団が担当した範囲では、年々ゴミは減少する傾向にあるものの、倒木や枯れ木、道路に積もった落葉が増えつつあり、景観への影響を懸念している。

□姫逃池カキツバタ保全作業

実施日：6月8日(日)

参加者：約60名

内 容：島根県、大田市などの行政機関、国立三瓶青少年交流の家などの周辺施設、大田市内の自然保護団体などと協力して、カキツバタの生育を促すための草刈り作業を行った。

③他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物館施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。令和7年度はゴビウスが幹事館となっており、下記の会議に参加した。

＊館長・課長会議

実施日：2月16日(月)

会 場：宍道湖自然館ゴビウス

概 要：猛暑による運営等への影響、人材育成への取り組みなどについて情報交換を行った。

＊総務・広報系会議

実施日：1月26日(月)

会 場：宍道湖自然館ゴビウス

概 要：各施設でのSNSの運用、人気イベントの実施、報告電子マネーの取り扱い状況について情報交換を行った。

＊技術担当者・学芸員会議

実施日：2月2日(月)

会 場：宍道湖自然館ゴビウス

概 要：近況報告、しまねレッドデータブック改訂版発行に際しての展示予定、周年イベントなどについて情報交換を行った。

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。令和7年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などを発信した。

④各種研修

□博物館実習の受入

・島根大学 10月29日(水)～11月3日(月) 実習生：17名

⑤行政等への協力

□各種委員会等の受託

名 称	氏 名	期 間	依 頼 元
大田市環境審議会委員(副会長)	多 根 純	R7. 3. 19 ～R9. 3. 31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家運営協議会委員	多 根 純	R6. 7. 20 ～R8. 3. 31	国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	多 根 純	R6. 7. 1 ～R10. 10. 31	大田商工会議所会頭
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	多 根 純	R6. 7. 1～	三瓶山広域ツーリズム振興協議会会長
三瓶小豆原理没林保存検討委員会委員	多 根 純	R6. 7. 8 ～R9. 7. 24	島根県知事
男三瓶山頂トイレ維持管理協議会委員	石 田 浩 二	R6. 4. 26 ～R8. 3. 31	大田市産業振興部環境政策課長
出雲市文化財保護審議員	中 村 唯 史	R1. 6. 1 ～R9. 5. 31	出雲市長

江津市文化財保護審議員	中村唯史	H27.4.1 ～R9.3.31	江津市長
希少野生動植物種保存推進員	井上雅仁	H21.7.1 ～R9.6.30	環境大臣
高津川河床掘削懇談会委員	井上雅仁	H25.2.27 ～R9.3.31	国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所長
高津川河川整備アドバイザー会議委員	井上雅仁	H8.1.1 ～R8.12.31	国土交通省中国地方整備局長
島根県自然環境保全審議会委員	井上雅仁	H21.11.12 ～R8.2.27	島根県知事
島根県環境影響評価技術審査会委員	井上雅仁	H24.1.1 ～R8.12.31	島根県知事
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	井上雅仁	R4.11.4 ～R8.11.3	島根県知事
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	井上雅仁	H24.8.29 ～R8.6.30	島根県農林水産部農村整備課長
神戸川の河川環境等に関する協議会委員	井上雅仁	R3.6.28 ～R8.3.31	島根県土木部長
鳥取県立博物館協議会委員	井上雅仁	R6.4.1 ～R8.3.31	鳥取県教育委員会
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井上雅仁	H20.10.20 ～R8.3.31	大田市教育委員会教育長
大田市文化財保護審議会委員	井上雅仁	R6.2.1 ～R8.1.31	大田市教育委員会教育長
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14.4.1 ～R8.6.30	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16.4.1～	公益財団法人日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17.1.1 ～R8.12.31	島根県知事
島根県自然環境保全審議会委員	星野由美子	H26.1.16 ～R10.2.27	島根県知事
島根県国土利用計画審議委員	星野由美子	H28.10.25 ～R10.10.24	島根県知事
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	星野由美子	R4.11.4 ～R8.11.3	島根県知事
島根県満喫プロジェクト地域部会委員	星野由美子	H28.10.6～	島根県環境生活部長
出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会委員	星野由美子	H30.2～	協議会事務局(雲南市)
斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類とともに生きる流域作り検討協議会(鳥類ワーキング、環境学習ワーキング)	星野由美子	H31.2～	協議会事務局(国土交通省河川事務所)
出雲市トキによるまちづくり推進協議会委員	星野由美子	R5.5.10～	出雲市長
出雲市トキ野生復帰アドバイザー	星野由美子	R5.5.10～ ～R9.3.31	出雲市長
島根天文協会会長	竹内幹蔵	H17.6～	島根天文協会
日本公開天文台協会理事	竹内幹蔵	R5.8.1 ～R7.7.31	日本公開天文台協会
日本公開天文台協会会長	竹内幹蔵	R7.8.1～	日本公開天文台協会
土佐清水ジオパークアドバイザー	今井悟	R3.6.3 ～R8.3.31	土佐清水ジオパーク推進協議会会長

島根県地学会幹事	今井 悟	R6.7.2～	島根県地学会
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	大野志津香	R6.4.1 ～R10.3.31	大田市教育委員会

2. 三瓶小豆原埋没林公園

来場者に埋没林の自然科学的な意義を伝え、興味関心が高まることを目指して、展示解説を積極的に実施し、一般団体1,121名、学校団体926名の実績となった。

利用者数は前年に対してやや減少した。原因ははっきりしないが、夏期を中心に三瓶山地域全体に観光客数が低下しており、ある程度広い範囲での観光動態が関連したとみられる。

利用者の傾向は、県外からの個人客が多いことは以前と変わらないが、近県からの募集型ツアーでの立ち寄りが13件あり、近年では比較的多い結果であった。

(1) 普及啓発

① 常設展示

地下展示室は大小2棟ある。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木(うち2本は模型に置き換え)と流木群を展示しており、観覧者は地表下約12mの見学デッキから見学できる。小展示棟は三瓶自然館展示標本の根株があり、地表下約13.5mの床面で間近で見学できる。

② 展示解説

職員による展示解説は、事前に予約がある団体の過半数は解説(有料)を希望され、合計682名の利用があった。

学校等の学習利用(解説無料)は下表のとおり利用があり、中学校1校(296名)以外は解説を行い、その対象人数は630名であった。

※学校団体の利用状況

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
高等学校	4件(116名)	1件(86名)	2件(122名)	8件(511名)	3件(155名)
中学校	5件(413名)	5件(405名)	8件(618名)	8件(530名)	7件(379名)
小学校	9件(397名)	13件(476名)	12件(424名)	23件(1,124名)	24件(1,061名)

③ イベント

講座型のイベント「月イチガク」を12回実施した。ガイダンス室で行う講座は、オンラインでの配信を併用した。実施日と内容は以下のとおり。

□月イチガク①「石見の銀銅山 ～世界への起点・都茂～」

実施日：4月12日(土)

参加者：会場19名

内 容：石見銀山に先行して開発された都茂銅山(益田市)について、その概要と石見銀山の開発に関わる歴史を中村唯史が紹介。

□月イチガク②「海のたたら山のたたら ～田儀櫻井家が経営した鉄山～」

実施日：5月10日(土)

参加者：会場12名

内 容：田儀櫻井家製鉄遺跡を中心に、山間部と海岸部のたたら産業構造的な違いとその歴史を出雲市文化財課の幡中光輔氏が紹介。

□月イチガク③「山を撮る ～三瓶山、そして大山隠岐国立公園～」

実施日：6月14日(土)

参加者：会場7名、オンライン1名

内 容：浜田市在住の写真家佐々木俊和氏が、三瓶山を中心とした写真作品を映像で紹介しながら、その撮影意図や撮影時の逸話を紹介。

□月イチガク④「まぶCool!! ～天然冷気で酷暑に喝!～」

実施日：7月12日(土)

参加者：会場9名、オンライン1名

内 容：夏期に洞窟や風穴から出る冷気メカニズムと、それを空調システム等に適用している事例を葭矢崇司が紹介。

□月イチガク⑤「三瓶に砲声響いた頃 ～三瓶原演習場と農民道場～」

実施日：8月16日(土)

参加者：会場20名、オンライン7名

内 容：三瓶山に関わる近代の軍事関連、北東アジア進出の歴史と、現在残る遺構について中村唯史が紹介。

□月イチガク⑥「<フィールド>墓場放浪記in温泉津 ～湊から出る石・入る石～」

実施日：9月20日(土)

参加者：会場20名

内 容：温泉津町で石塔を巡り、石塔の形態的な特徴と時代別の変化、石材の産地から見える流通の歴史を島根県埋蔵文化財調査センターの間野大丞氏が紹介。

□月イチガク⑦「おおだの祭りⅡ ～グロと仮屋と海山の祈り～」

実施日：10月18日(土)

参加者：会場8名

内 容：五十猛町の民俗行事「グロ」を中心に、大田市に伝わる正月行事の歴史と継承への取り組み、課題について山陰民俗学会の多田房明氏が紹介。

□月イチガク⑧「おとめ石 ～来待石今昔～」

実施日：11月8日(土)

参加者：会場9名

内 容：松江市で採れる来待石の地質的な成因と、「御止石」として藩が管理した歴史、最近の状況を来待ストーンミュージアムの古川寛子氏が紹介。

□月イチガク⑨「長崎シュガーロード ～銀の道から始まる物語～」

実施日：12月13日(土)

参加者：会場7名

内 容：石見銀山をはじめとする銀を財源に輸入された砂糖が運ばれた道である長崎街道(シュガーロード)を、長崎市の中田千咲子氏が紹介。

□月イチガク⑩「波根に水海ありけり ～消えた湖の記憶～」

実施日：1月31日(土)

参加者：会場10名、オンライン3名

内 容：大田市東部にあり、干拓によって農地になった波根湖の成立とその環境、干拓の歴史を中村唯史が紹介。

□月イチガク⑪「くにびき神話の地質学 ～悠久の時と三瓶山～」

実施日：2月14日(土)

参加者：会場15名、オンライン7名

内 容：くにびき神話の舞台と言える出雲平野を中心に、地形の成り立ちと三瓶火山の関わりを中村唯史が紹介。

□月イチガク⑫「<フィールド>なんだ?このアナ ～温泉津海岸のナゾ～」

実施日：3月14日(土)

参加者：18名

内 容：温泉津海岸にある大型の甌穴と石材採取によってできた穴の2ヶ所を訪ね、それぞれの成因と地質的な関係を中村唯史が紹介。

(2) 埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

本年度は、保存処理業務と埋没木保存検討委員会は実施されず、地下水位管理と地下水位、溶存酸素濃度、温湿度等の測定によるモニタリングが中心であった。地下水位管理は主に島根県自然環境課が実施し、当財団はモニタリングを担当した。

3. 施設利用許可業務

①開館日

◆令和7年度開館日数：298日 ※条例上は297日

※条例で定められた休館日

- ・7月19日～8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
- ・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
- ・12月29日～1月3日まで

□施設の効率的運営のため変更した日(開館：3日、休館：2日)

- ・特別開館：5月6日(火)、1月2日(金)、3日(土)
- ・臨時休館：12月27日(土)、28日(日)
- ・メンテナンス休館：9月第1月曜日から5日間の定めものを9月29日(月)、10月1日(水)～3日(金)(夏期企画展のため)

②開館時間

条例のとおり開館時間は9:30～17:00とした。

③早朝開館

開館時間前の来館を希望された場合、事前の予約に応じて早朝開館をすることとしているが、当年度は利用がなかった。

④開館時間等の変更(指定管理基本協定15条3)

島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理に関する基本協定第15条第3項の規程により、以下のとおり開館時間を変更した。

- ・2月8日(日)、警報級の積雪のため14時閉館とした。

【三瓶小豆原埋没林公園】

①開園日

◆令和7年度開園日数：306日 ※条例上は297日

※条例で定められた三瓶小豆原埋没林公園の休園日

- ・7月21日～8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
- ・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
- ・12月29日～1月3日まで

□施設の効率的運営のため変更した日(開園：10日、休園：2日)

- ・特別開園：6月2日(月)、6月4日(水)～6日(金)、9月29日(月)
10月1日(水)～3日(金)、1月2日(金)、1月3日(土)
- ・臨時休園：12月27日(土)、28日(日)

(2) 利用料金

「わかりやすいこと」「利用しやすいこと」「合理的であること」を踏まえた、令和7年度の利用料金は下記のとおりである。

施設の種別		利用区分	通常期	R7春期 企画展 開催期	夏期特別 企画展 開催期	冬期 企画展 開催期	R8春期 企画展 開催期
観覧料 (個人)	三瓶自然館	一般	400	600	1,000	600	700
		小中高校生	200				
	天体観察	一般	300				
		小中高校生	100				
	埋没林公園	一般	300				
		小中高校生	100				
施設貸切 (時間あたり)	レクチャールーム		1,300				
	ビジュアルドーム	入場料徴収 無	2,500				
		入場料徴収 有	5,000				
年間パスポート		一般	1,500 → 1,700(4/9～)				
		小中高校生	500 → 600(4/9～)				

※20名以上の団体は2割引(観覧料のみ)

(3) 利用料金の減免

その他の期間の児童生徒の教育課程の来館、身体障害者手帳の交付者など、減免対象者は利用料金を減免した。

(4) 利用の許可

施設利用の申し出に対して、利用目的等に応じて許可の可否判断を含め、適切な事務手続きを行った。

(5) 施設の貸出など

- ・施設の貸出を行う場合は、利用者が利用の目的を十分に果たせるように利用方法や設備について丁寧な指導、助言を行った。
- ・受付業務にあたっては、受付窓口においてアテンダントが対応したほか、必要に応じて他のスタッフが補助し、利用者が気持ちよく施設を使用できるよう対応した。
- ・利用施設等に応じて、利用申請の書類を常備し、迅速な手続きを行った。
- ・利用者にはわかりやすいよう、利用方法の手引きを作成し、誰でも閲覧可能な状態で公開した。

(6) 審査基準の制定

島根県行政手続き条例に準じ、三瓶自然館及びその附属施設について、以下のとおり「不利益処分に対する処分基準」及び「申請に対する審査基準」を制定している。令和7年度では不利益処分の事例はなかった。

不利益処分に対する処分基準

(整理番号：001)

令和5年4月1日

1. 根 拠 規 程 等	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例 第15条
2. 不 利 益 処 分 の 概 要	許可の取り消し、条件の変更
<p>3. 処分基準(未設定の場合はその理由)</p> <p style="margin-left: 40px;">使用許可の取り消しについては、施設内の秩序の維持の観点から措置を行うかどうか判断することとなるが、違反者の瑕疵の程度や、他の利用者への迷惑度、自然館等の施設等の棄損の度合いなど、様々な状況を考慮して客観的に判断されなければならない。</p> <p style="margin-left: 40px;">また、管理上の必要性により使用許可条件の変更を要する状況を予測することは困難であり、個別の事例により公益性等を考慮して判断せざるを得ない。</p> <p style="margin-left: 40px;">よって、一律に基準を設定することは困難である。</p> <p>(許可の取消し等)</p> <p style="margin-left: 40px;">第15条 指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、その者に対して、同項の許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止若しくは自然館等からの退去を命ずることができる。</p> <p style="margin-left: 80px;">(1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。</p> <p style="margin-left: 80px;">(2) 前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。</p> <p style="margin-left: 80px;">(3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。</p>	
4. 処 分 を 行 う 施 設 名	島根県立三瓶自然館
5. 指 定 管 理 者 の 担 当 部 署	公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課

申請に対する審査基準

(整理番号：002)

令和5年4月1日

1. 根 拠 規 程 等	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第14条第1項
2. 許 認 可 等 の 種 類	施設の利用許可
<p>3. 審 査 基 準</p> <p>次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の許可をしない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公の秩序又は善良な風俗を害する恐れがあるとき。 2 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。 3 自然館等の施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。 4 その他管理上の支障があるとき。 <p>(利用の許可)</p> <p>第14条 有料施設等を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。</p>	
4. 標 準 処 理 期 間	10日間
5. 申 請 先	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
6. 処 分 を 行 う 施 設 名	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

申請に対する審査基準

(整理番号：003)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第17条
2. 許認可等の種類	利用料金の減免
3. 審査基準	<p>1 島根県立三瓶自然館及び附属施設の設置及び管理に関する条例施行規則第4条表1から4に定めるもの 判断基準…同規則に定める区分に該当するとき。 減免額…同規則に定める額(全額、1/2の額、2割)</p> <p>2 同条表5に定めるもの</p> <p>(1) 島根県等行政からの要請に基づくもの(例:児童福祉週間、老人週間、身体障がい者福祉週間、遣島使カード等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減免額…観覧料の全額、1/2の額、2割</p> <p>(2) 広報目的のもの(例:各メディア広報による特典等) 判断基準…広報対象が広く一般であるとき又は県立施設の広報として適切であるとき。 減免額…観覧料の全額又は2割</p> <p>(3) 指定管理者の事業展開(他施設等との連携含む)又は当該施設の利用促進を図る目的のもの(例:企画展招待券、島根県立施設等との連携割引等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減免額…観覧料の全額又は2割</p> <p>(4) サービス向上目的のもの(例:観光バス等の運転手、添乗員及びタクシー運転手等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減免額…観覧料の全額又は2割</p> <p>なお、各事例は突発的に要請又は実施の必要が生じることもあり、限定的な列挙は困難である。また、経営への支障は、1を除く減免額総額の年間見込み額が300万円を超える場合に考慮する。</p> <p>(利用料金等の減免) 第17条 指定管理者は、規則の定めるところにより、利用料金等の減免をすることができる。</p>
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

申請に対する審査基準

(整理番号：004)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第18条
2. 許認可等の種類	利用料金等の還付
<p>3. 審査基準(未設定の場合はその理由)</p> <p>第18条第1項については、本人の責めに帰することができない理由の発生状況は、様々なケースが想定され、また全部還付・一部還付を含めた「還付する、しない」の判断は、施設の使用又は観覧行為に対し、時間的、空間的な制約をどれだけ受けたかにより、客観的、合理的に判断されなければならない。</p> <p>しかし現実には、このような判断は非常に相対的、流動的なものとなるため、一律に基準を設けることは困難である。</p> <p>第18条第2項についても、同様に個々の事例により客観的に判断されるべきものであり、一律に基準を設けることは困難である。</p> <p>(利用料金等の不還付)</p> <p>第18条 既に納入された利用料金等は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。</p> <p>(1) 利用料金等を納入した者が、その責めに帰することができない理由により、有料施設等を利用することができなくなったとき、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧することができなくなったとき、自然館の観察施設を利用して天体を観覧することができなくなったとき、又は埋没木等を観覧することができなくなったとき。</p> <p>(2) 第21条の規定により有料施設等の利用が禁止され、又は制限されたことにより当該有料施設等が利用できなくなったとき。</p>	
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課

申請に対する審査基準

(整理番号：005)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第19条第1項
2. 許認可等の種類	営業行為等の許可
3. 審査基準	<p>次の各号の一に該当すると認めるときは、第19条第1項に掲げる行為を許可する。</p> <p>I 第19条第1項第1号及び第2号について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然館及びその附属施設の設置目的に沿った行事等の開催の案内のための広告物の表示、宣伝活動をする場合。 2 利用者への自然に関する情報提供や、啓発を図るための公共性の高い広告物の表示、宣伝活動をする場合。 3 国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催の行事開催時において、利用者への便宜供与、利用促進のための物品の販売、その他の営業行為を行う場合。 4 自然館及びその附属施設の利用者の便宜供与のため、物品の販売、その他の営業行為を行う場合。 5 その他特に必要があると認められる場合。 <p>II 第19条第1項第3号について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然館及びその附属施設の設置目的に沿った行事等を開催する場合。 2 国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催により公用又は公共用の目的で行事を開催する場合。 3 国立公園、三瓶フィールドミュージアムの適正な利用の促進に寄与すると認められる行事を開催する場合。 4 自然に関する学習・啓発を図る目的で展示会等を開催する場合。 5 その他特に必要があると認められる場合。 <p>(行為の制限)</p> <p>第19条 自然館等において、次に掲げる行為をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。 (2) 寄付金の募集、物品の販売その他これらに類する行為をすること。 (3) 集会、競技会、展示会その他の催しをすること。
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

4. 施設の維持管理に関する業務

島根県立三瓶自然館及び小豆原理没林公園の施設と設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書・協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、現指定管理申請時(令和4年10月)に策定した管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

- ・管理者の都合ではなく利用者のための管理
- ・県民の財産をお預かりしている意識
- ・自然環境や地球環境に優しい管理

【当年の概況】

三瓶自然館が使用している水道管において、経年劣化により破損が2か所発生した。これで三瓶自然館を含む三瓶フィールドミュージアム水道の系統で3年連続で破損が発生した事になった。水道管が設置されて30年以上経過していることから、他の場所でも同様の破損が起きることが懸念される。

(1) 全施設共通業務

① 利用者管理業務

令和7年度は、県へ報告すべき規模の事故は発生しなかった。その他の館内外での転倒等による軽微なケガ、利用者からのクレーム、要望等についても適切な対応に努めた。

また、事故を未然に防ぐために、定期的な巡視、点検により危険箇所等の発見や対処も行ったほか、研修により、職員のスキルアップ、危機管理意識の維持に努めている。

- 主な実施内容：職員巡視による利用者の退館・退園チェック、施錠の確認(毎日)
5S活動、消防・避難誘導訓練(各施設で6月、9月ほか)等

② 清掃業務

観覧施設として、利用者にとって快適な衛生環境を維持するよう実施した。実施回数、場所等は、状況に応じて加減し、効率的な費用対効果も図っている。

- 主な実施内容：日常清掃(毎日)
床洗浄・ワックス塗布(5～6月、9月～10月、12月)
ブラインド等除塵(10月)
ガラス等洗浄(4月～5月、9月～10月)
特別トイレ清掃(6月)
フィルター清掃等(6月ほか)
廃棄物処理(適宜)
モグラの道清掃(6月)※職員による

- 委託先：日本メックス(株)(㈱中央ビルサービス)

③ 警備業務

機械警備専門業者により、不審者、火災報知器の遠隔監視を行った。当年では警備員の駆けつけが2回あり、いずれも誤報だったが、その都度、適切な対応を取った。

なお、誤報の原因はセンサーの誤作動によるものだった。

また、GWや夏休み期間等の繁忙期には、駐車場に警備員を配置して事故のないように努めている。

- 委託先 機械警備：日本メックス(株)(北陽警備保障㈱)

④業務車両の管理

各車両は、車検、定期点検、補修等を定期的に行うとともに、万一の事故に備えた任意保険の付保、道路交通法に定められる安全運転管理者の配置など、適切な車両管理、運行管理に努めた。

また、島根県等が実施する「しまね安全ドライブ・コンテスト2025」に全職員で参加し、安全運転意識の徹底を推進した。

■管理車両 業務車両：12台(県有車両2台(バス2台)、財団所有10台)

■事故等 1件

■主な実施内容：各車両の点検、法定点検(各車両毎)

安全運転管理者講習受講(7月)

しまね安全ドライブ・コンテストへの参加(7月～12月)

⑤フィールド管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者・来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

■主な実施内容：草原域及び公園域の草刈(全刈3回/年、部分刈適宜)

登山道の巡視及び軽微修繕(2回/年)

林間域、施設周辺の倒木及び危険木処理(適宜)

野外歩道類の維持管理(適宜)

駐車場等の除雪(適宜)

⑥軽微修繕

障害の発生した設備・備品等について、1件50万円未満のものは指定管理者で対応し、それ以外のものは県へ速やかに報告するとともに、修繕対応案の提示を行った。

■修繕状況：三瓶自然館…………… 44件(空調設備修繕など)

埋没林公園…………… 9件(電気設備修繕など)

⑦資格者の配置

常駐配置義務付のもの

・防火管理者(三瓶自然館)……………米浦 道子(総務課)

・ 〃 (埋没林公園)……………大野志津香(企画情報課)

・安全運転管理者……………石田 浩二(事務局次長)

・危険物取扱者……………山本健太郎(総務課)

①再委託業者による配置可のもの(カッコ内は直接実施業者)

・建築物環境衛生管理技術者……………日本メックス(株)

・専用水道管理者……………日本メックス(株)(山陰クボタ水道(株))

・消防設備点検資格者……………日本メックス(株)(ホーチキ(株))

・浄化槽管理者……………日本メックス(株)(クリーン(株))

・昇降設備管理者(三瓶自然館)……………日本メックス(株)(株)日立ビルシステム)

・ 〃 (埋没林公園)……………日本メックス(株)(三菱電機ビルテクノサービス(株))

・電気設備主任技術者……………(-財)中国電気保安協会

・車両管理整備者……………米原陵次(自動車整備業者)

(2) 三瓶自然館関係

① 指定管理者による点検

項 目	実 施 状 況
建築物全般、各設備	目視点検、動作確認(随時)
上水道設備管理	上水検査(毎日) 検針(1回/月)
浄化槽管理	三次処理槽草刈(2回/年) 検針(1回/月)
自家用発電機(本館・新館)	目視点検(1回/週)
空調関連設備(全館)	目視点検(毎日)
空調オイルタンク(本館・新館)	目視点検(1回/週)
草刈(自然館周辺、北の原、ヘルシートレーリングコース)	野外草原域及び公園域の芝刈、草刈及び除草(全刈3回/年、部分的に1回/月、5～11月) 野外林間域の倒木及び危険木処理(随時) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
登山道(姫逃コース、名号コース)、山頂小屋	巡視、軽微修繕(2回/年) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
除雪(駐車場、施設周辺等)	随時

② 委託業者による点検

項 目	実 施 状 況	委 託 業 者
施設清掃(全館)	日常清掃(随時、部分的に1～3回/週) 定期清掃(3回/年、部分的に1～2回/年) 特別清掃(1回/年)	日本メックス(株)
衛生管理業務	ねずみ・害虫駆除(2回/年) 空気環境測定(6回/年) 雨水処理層清掃(1回/年)	日本メックス(株)
上水道管理	電気計装・制御盤、ポンプ類点検(総合点検1回/年、 定期点検6回/年) 配水池の清掃・水質検査(1回/年) 減菌器点検(6回/年)	日本メックス(株)
専用水道水質検査	浄水水質検査(項目毎に1～12回/年) 原水全項目検査(1回/年) クリプト指標菌(4回/年)	日本メックス(株)
浄化槽維持管理・機能調整	機器点検・清掃・カス抜き取り等(1回/週) 水質検査(流入水2回/年、放流水1回/月) 機能調整(1回/月)	日本メックス(株)
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理センター
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	日本メックス(株)
防火対象物定期点検	定期点検(1回/年)	日本メックス(株)
収蔵庫消火システム	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	日本メックス(株)
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	日本メックス(株)
灯油焚冷温水発生機(本館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	日本メックス(株)
灯油焚冷温水発生機(新館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	日本メックス(株)

空調関連設備(本館・新館)	機器点検(2回/年) 室外機点検(4回/年)	日本メックス(株)
空調オイルタンク類(本館・新館)	清掃・配管漏洩検査(1回/年) 機器点検、機能試験(2回/年)	日本メックス(株)
昇降機設備(本館・新館)	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	日本メックス(株)
衛生ポンプ設備	機能点検・調整(2回/年)	日本メックス(株)
展示設備(本館)	機器点検・調整(2回/年)	(株)ノムラメディアス
展示設備(新館)	機器点検・調整(1回/年)	(株)丹青社
総合映像システム	機器点検・調整(1回/年)	日本メックス(株)
プラネタリウム設備	Gemini Star Σ SANBE 点検・調整(2回/年) 音響設備点検・調整(1回/年)	コニカミノルタプラネタリウム(株)
60cm反射望遠鏡	機器点検・調整(2回/年)	(株)西村製作所
20cmクーデ望遠鏡	機器点検・調整(1回/年)	(株)五藤光学研究所
天体ドーム設備	機器点検・調整(1回/年)	アストロ光学工業(株)
スライディンググループ	機器点検・調整(2回/年)	(株)角藤 景観建材営業部
駐車場警備	警備員による駐車場整理(260名/年)	日本メックス(株)
機械警備	火災・夜間侵入監視(毎日)	日本メックス(株)
他建築設備関連	自動ドア点検・調整(1回/年) 排煙窓・非常灯動作点検(1回/年)	日本メックス(株)

(3) 三瓶小豆原埋没林公園関係

① 指定管理者による点検

項 目	実 施 業 務
建築物全般、各設備	目視点検・動作確認(随時)
上水道設備管理	目視点検(1回/週) 塩素投入(随時)
自家用発電設備	目視点検(1回/週)
地下水監視	水位(1回/週) 水質(1回/月)
除雪	駐車場(随時)
園内消毒作業	必要に応じて実施

② 委託業者による点検

項 目	実 施 状 況	委 託 業 者
施設清掃(管理棟、大・小展示棟)	日常清掃(随時、部分的に1~3回/週) 定期清掃(2回/年、部分的に1回/年) 特別清掃(2回/年)	日本メックス㈱
上水道管理	ポンプ類点検、受水槽清掃、滅菌器点検(1回/年)	日本メックス㈱
合併浄化槽維持管理	機器点検・調整、水質検査等(1回/月)	日本メックス㈱
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理センター
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	日本メックス㈱
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	日本メックス㈱
昇降機設備	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	日本メックス㈱
地下水ポンプ	機器点検・調整(2回/年)	日本メックス㈱
機械警備	火災・夜間侵入監視(毎日)	日本メックス㈱
酸素濃度計	機器点検・調整(1回/年)	日本メックス㈱

5. 物品の管理等

(1) 協定書第25条により、令和7年度に本事業用として購入等により取得した物品は次のとおりである。

□ 令和7年度取得物品 (取得単価100,000円以上のもの。財団保有)

(金額単位:円)

	品名	規格等	数量	単価	取得価額	備考
車両	車両	軽四輪貨物トラック	1	742,040	742,040	施設管理用
什器備品	単眼鏡	HIKMICRO HIKFQ50	1	484,000	484,000	調査・研究用
什器備品	化石標本	クロビデンスの歯	1	132,000	132,000	博物標本・展示用
什器備品	化石標本	モササウルス頭骨	1	450,000	450,000	博物標本・展示用
什器備品	撮影機材	カメラ(本体) ILCE-7CM2L	1	339,900	339,900	広報用
什器備品	模型	カワラハンミョウ	1	435,600	435,600	博物標本・展示用
什器備品	プラネタリウム番組	自主制作番組 「黄道11星座物語」	1	266,713	266,713	
ソフトウェア	展示バーチャルデータ	夏期企画展	1	660,000	660,000	企画展デジタルアーカイブ用
ソフトウェア	展示バーチャルデータ	春期企画展	1	638,000	638,000	企画展デジタルアーカイブ用
合 計 (税込額)					4,148,253	

※償却資産は、取得単価10万円以上の物品(決算書上は固定資産に分類)。

(2) 県に帰属する物品は島根県会計規則に基づいて管理を行った。

(3) 廃棄した物品は次のとおりである。

□ 令和7年度廃棄物品 (県有備品)

備品番号	備品名	規格等	数量	配置場所	備考
1-5-1 03	軽四輪貨物	ホンダアクティダンプ	1	三瓶自然館	
1-2-5 235	ノートパソコン	varsaproVY-25A/F-7	1	三瓶自然館	
1-2-5 245	デスクトップパソコン	富士通CELSIUSW530	1	三瓶自然館	

Ⅲ. 地球環境の保全に関する活動支援事業

1. 事業概要

当財団松江事務所では、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるために、2015年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」を念頭において、地球環境保全に関する普及啓発を行ってきた。行政や教育機関をはじめ、様々な地域課題の解決に自ら率先して取り組むNPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、多様な主体との協働を促進し、活動の充実を図った。

また、2001年には島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けており、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2015年のパリ協定の発効を受け、国が進める温室効果ガス削減目標の達成に向けて、県民一人ひとりに脱炭素・循環型社会の実現につながる意識や行動の変化を促すため、様々な主体と協働・連携しながら活動を進めた。

2. 各事業の詳細

(1) 家庭向け地球温暖化対策事業

① しまねエコライフ推進会議(地球温暖化対策地域協議会)生活部会の運営

概要：県地球温暖化対策協議会生活部会の事務局として、県民に生活の中で取り組む脱炭素・循環型社会の実現に向けた環境配慮行動を推進すべく、参加団体の活動について情報共有を行い、今後の連携を確認した。

実施日：3月9日(月)

場所：島根県市町村振興センター3階 特別会議室

参加団体：島根県連合婦人会、環境とエネルギーを考える消費者の会、島根県地球温暖化防止活動推進員、NPO法人コアラッチ、グリーンコープ生活協同組合(島根)

内容：生活部会新体制の概要説明と財団の事業説明、参加団体の活動情報共有

② 親子で取り組む環境活動促進

未就学児や児童とその保護者に対して、親子で簡単に取組むことができるメニューを提供することにより、未来を担う子どもだけでなく、その親世代や祖父母世代といった幅広い年齢層へ持続可能な社会の重要性やゼロカーボンを認識してもらうプログラムを実施した。

□ 親子で取り組むワークシート

期間：5月～3月

実施園：77園(参加園児数：1,842名、ワークシート回収数：777枚)

削減量：2,504 kg-CO₂

概要：幼稚園児、保育園児とその保護者がカーボンニュートラルについて関心を持ち、家庭で自発的に取り組んでもらえるよう「しまねっこチャレンジ」ワークシートを制作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。各園で実施したワークシートを回収し、その取組結果を表彰(園には賞状、取組園児には感謝状

と粗品)することでフィードバックプログラム参加への満足感を高めた。

□幼・保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

期 間：5月～3月

実 施 園：幼稚園・保育園：75園(参加者数：1,540名)

学童クラブ：2か所(参加人数：110名)

スタッフ：島根県地球温暖化防止活動推進員(以下、推進員)、財団職員

概 要：県内の全幼稚園・保育園を対象に、希望があった園でミニエコ講座を実施した。講座では、環境負荷低減につながる行動の絵本の読み聞かせの後、各自で布製のバッグに絵を描き自分だけのマイバッグを製作したり、資源ごみ釣りゲームを行うなどして、ごみのリサイクルについて体験を通じた啓発を行った。8園で参観日に講座を行い、園児だけでなく保護者にも直接啓発が出来た。ミニエコ講座を体験した園の先生や園児の保護者等から夏休み中の学童保育等で実施の希望があり、2か所で同様の活動を行った。

□小学生向け家庭の省エネワークシートの支援

概 要：松江市・出雲市・浜田市が、小学生等を対象として独自に実施する家庭の省エネワークシート事業を支援するため、脱炭素につながる具体的行動やCO2削減量データなどワークシート作成に必要な情報の提供を行った。

□ゼロカーボンチャレンジブック授業

期 間：10月～1月

講 師：島根県地球温暖化防止活動推進員3名、財団職員

概 要：子どもたちが冬休みに家庭でワークブック「しまねゼロカーボンチャレンジブック」に取り組めるよう、家庭での取り組み前に事前授業、取り組み後に事後授業を行うことで、学習効果を補強するとともに環境配慮行動の定着を図った。

実施日		対 象	クラス数	人数	備 考
事前授業	事後授業				
7月14日	9月24日	安来市立安田小学校	1	10	4年生
10月1日	11月19日	安来市立井尻小学校	1	9	3～6年生
10月21日	11月21日	出雲市立遥堪小学校	1	21	4年生、推進員派遣
11月21日	1月15日	安来市立広瀬小学校	1	36	4年生
12月10日	1月22日	松江市立忌部小学校	1	27	4年生、推進員派遣
12月18日	1月26日	出雲市立塩冶小学校	4	135	4年生、推進員派遣

□ゼロカーボンチャレンジブック事業勉強会

実 施 日：7月8日(火)

場 所：ビッグハート出雲(出雲市)

参 加 者：推進員9名

概 要：「しまねゼロカーボンチャレンジブック」を用いた児童向け講座の内容について、変更点と授業内容について協議した。

③学校等における環境教育プログラム

学校教育や社会教育の現場において環境教育プログラムのニーズが高まることを想定し、幅広い年代を対象に気候変動やSDGsをテーマとした環境教育プログラムを実施した。

□カードゲーム「2050カーボンニュートラル」の実施

参加者：170名

講師：南原順(コミュニティーエナジー株式会社)、葭矢崇司(財団職員)、川本愛祈(財団職員)

概要：カーボンニュートラルをどのように地域で実践し、地域脱炭素化を実現するか、グループワークを行いながら、体験的に理解できるプログラムであるカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を様々な団体を対象に実施した。

実施日	対象	人数	講師	実施場所
4月26日	島根大学地域人材育成コース学生	74	南原順、葭矢崇司	島根大学
12月4日	島根県立吉賀高校	21	葭矢崇司	吉賀高校
12月11日	島根県商工会連合会	62	南原順、葭矢崇司	松江商工会議所
12月13日	Saninふらっと	13	葭矢崇司、川本愛祈	乃木公民館

□安来市小学生環境学習

実施日：6月5日(木)～6月27日(金)(8回実施)

場所：さんそ学習館ケイオス(安来市)

対象：安来市内の小学校4年生

参加者：209名

講師：葭矢崇司、野崎研(財団職員)

概要：安来市で実施している小学生向けの環境学習の一環として、安来市の「さんそ学習館」と連携し、地球温暖化について講義を行った。

実施日	対象	人数	備考
6月5日, 10日	十神小学校	62	
6月 9日	荒島小学校	31	
6月16日	井尻小学校、赤屋小学校	17	2校合同
6月17日	安田小学校、母里小学校	21	2校合同
6月23日	広瀬小学校、山佐小学校	41	2校合同
6月26日	能義小学校	13	
6月27日	社日小学校	24	

□博物館、水族館と連携した学校向け環境学習カリキュラムの企画・実施

対象：大田市立大田小学校 4年生

参加者：80名(のべ320名)

講師：葭矢崇司(財団職員)、星野由美子(三瓶自然館サヒメル)
山口慶子(しまね海洋館アクアス)、梶谷恵美(しまね海洋館アクアス)

概要：小学校の総合的な学習の時間に、SDGsの複数の目標につながるテーマを分野横断的に学べるプログラムを提供するため、しまね海洋館アクアスや三瓶自然館サヒメルと連携して、環境学習カリキュラムを企画した。私たちの暮らしが、身近な自然環境だけでなく、地球規模でつながりを持つことを知り、そ

れぞれが自ら自然環境を守る方法を考え、主体的な行動につながる内容とした。

実施日	内 容	講 師
9月11日	地球1つ分のくらしって何だろう？	葭矢崇司
9月17日	陸の生きもののつながりを感じてみよう！	星野由美子、葭矢崇司
9月29日	海の生きもののつながりを知ろう！	山口慶子、梶谷恵美、葭矢崇司
10月9日	私たちにできることって何だろう？	葭矢崇司、梶谷恵美、星野由美子

□益田市クールチョイスアンバサダー事業の支援

対 象：益田市立真砂小学校1～6年生

参 加 者：9名(5回実施、のべ45名)

講 師：葭矢崇司(財団職員)

連携団体：益田市環境衛生課、益田市地球温暖化対策地域協議会

概 要：益田市が実施する「クールチョイス事業」の一環として、益田市長が小学生を地球温暖化の伝道師として認定する「益田市クールチョイスアンバサダー」の支援を行った。毎年、益田市内の小学校1校を対象に、児童が主体的に地球温暖化について学び、伝える、地域に活動を広げていく取り組みを実施した。実施にあたっては、学習プログラムの企画・運営を行った。また、学習プログラム実施にあたっては、財団職員がコーディネータとして支援するとともに、講師となって授業を行った。

実施日	内 容
7月3日	体験活動「真砂小学校しぜんたんけんたい！」
7月16日	ワークショップ「つながりさがし：わたしたちとしぜん」
(夏休み期間)	実践活動「夏休みクールチョイス・チャレンジ」
9月19日	作戦会議「つたえて、ひろげる、わたしたちのクールチョイス・チャレンジ」
11月6日	交流会「環境劇リハーサル、島根県立大学生学生との交流」
12月22日	発表会「クールチョイス・アンバサダー活動」

□SDGsをテーマとした環境学習カリキュラムの企画・実施

対 象：出雲市立旅伏小学校5年生

参 加 者：30名(5回実施、のべ150名)

講 師：松本一郎(島根大学教育学部教授)、皆木宏明(三瓶自然館サヒメル)、葭矢崇司(財団職員)

概 要：小学校の総合的な学習の時間に対応し、身近な環境問題とSDGsの繋がりを知り、複数の課題を関連づけて学べる環境学習カリキュラムを企画し、実施した。企画にあたっては、学校の既存のプログラムと環境学習カリキュラムを関連づけ、総合的に学べるように配慮した。また、実施にあたっては、三瓶自然館サヒメルや島根大学教授と連携して、専門的な知識や体験的な活動を組み込むことによって、学習内容の質的向上を図った。

実施日	内 容	講 師	実施場所
6月20日	レクチャー「SDGsに触れて学ぼう」	葭矢崇司	旅伏小学校

6月27日	体験学習「自然のしくみから学ぼう！それってごみ？それとも資源？」	皆木宏明(三瓶自然館サヒメル)	三瓶自然館サヒメル
9月9日	レクチャー「SDGsで考える身近な海の自然」	松本一郎(島根大学教授)	旅伏小学校
10月3日	体験活動「釜浦海岸ビーチクリーン」		釜浦海岸
10月15日	まとめとふりかえり	菟矢崇司	旅伏小学校

□地球環境をテーマとした環境学習プログラムの支援

対 象：出雲市立中部小学校

参 加 者：67名(3回実施、のべ201名)

講 師：菟矢崇司、川本愛祈、伊藤玲子(財団職員)

概 要：小学校の総合的な学習の時間に、多様な地球環境問題に関する調べ学習をサポートするとともに、それぞれの問題が相互に関連することについて学ぶレクチャーを実施した。また、地球規模の環境問題を解決するために、一人ひとりの意識と行動をかけることについて考えるワークショップを実施し、学習内容の質的向上を図った。

実施日	内 容	講 師
9月4日	調べ学習「地球環境について調べて見よう」	菟矢崇司
6月27日	レクチャー「地球1つぶんの暮らして何だろう？」	菟矢崇司
9月9日	体験活動「地域の木を活かすクラフト～かんなくずを使ったボンボン作り」	川本愛祈、伊藤玲子、菟矢崇司

(2) 地球温暖化防止活動推進員の支援

令和6年12月に第12期の島根県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員」という)が島根県知事より委嘱を受け、現在34名(令和8年3月31日)が県内各地域で活動を行っている。

地球温暖化対策の推進に関する法律(平成十年法律第百十七号)第38条第1項の規定に基づき地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団では、同法に基づき推進員の資質向上のための研修の企画・実施を行うとともに、推進員への支援及び協働・連携し温暖化防止活動を行った。

①推進員の能力向上

推進員の活動に必要な資質や知識、スキルの向上を図るため研修を実施した。実施にあたっては、ワークショップや新たなツールの紹介など多様な内容とし日頃の活動に役立つよう工夫した。

□第1回研修

実 施 日：7月28日(月)

場 所：くにびきメッセ501大会議室(松江市)

実施内容：①講演「家庭の生ごみと推進員活動～しまねらしいCE社会の実現に向けて～」

講師：阪口 良則(島根県環境生活部参事)

実施内容：②講演 「生ごみ減量の救世主 キューロ」

講師：上潟口 琴代(しまね環境アドバイザー)

参 加 者：20名(推進員15名・行政5名)

概 要：島根県内の食品の生産から廃棄に至るライフサイクルの環境負荷や、ごみ焼却に

よる温室効果ガスの現状、また地域で減量化を実践する効果的な取り組みによる脱炭素社会の形成について講義を受けた。

□第2回研修

実施日：2月12日(木)

場 所：くにびきメッセ 501大会議室(松江市)

実施内容：①講演 「脱炭素社会の実現に向けて～地域防衛と未来づくりのための地域脱炭素の取り組み～」

講師：藤野 純一(地球環境戦略研究機関上席研究員)

実施内容：②講演 「山陰合同銀行グループの地域脱炭素に向けた挑戦」

講師：大谷 慎斗(山陰合同銀行地域振興部副企画役)

講 演：「参加者：17名(推進員14名 行政3名)

概 要：COP30での国際的潮流や国内における具体的な脱炭素の取り組み、また住宅の断熱改修がもたらす効果の重要性や地元企業による再生可能エネルギー事業の地域経済の活性化など、脱炭素社会への取り組みに向けた全体像の理解を深める講義を受けた。

②推進員の活動支援

県内で活動する推進員が連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画・実施できるよう、推進員のネットワーク化(グループ作り)と活動支援を行った。

□グループ間の情報共有

実施内容：サポーターズ連絡会の実施

活動グループ：地域グループ(松江・出雲・大田・浜田・奥出雲・津和野)

連絡会の実施：第1回 実施日：5月27日(火)

内 容：地域グループの企画書について

・奥出雲地区「省エネ、循環型社会、豊かな自然環境の保全と啓発に取り組む」

・出雲地区「ごみの減量化・再資源化活動で地球温暖化を止めよう」他

・大田地区「自主上映会 うんこと死体の復権」

第2回 実施日：2月25日(水)

内 容：地域グループの実施報告

・松江地区「松江環境市民会議との活動」

・浜田地区「はまだエコライフ推進隊との活動」等

地域グループの活動の現況と活性化についての意見交換

概 要：より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」で情報共有を行い、推進員の連携を促した。

□グループによる活動

実施内容：①松江市内小学校での省エネチャレンジシート活動への協力、まつえ環境市民会議事業への協力(松江市)

②町報への毎月の普及啓発コラムの寄稿・掲載、文化祭への出展(奥出雲町)

③生ごみの減量化・再資源化の勉強会、出雲西高校インターアクト部との海岸清掃(出雲市)

④保育園でのミニエコ講座、環境映画上映会、エコドライブ啓発(大田市)

⑤保育園でのミニエコ講座、浜田市から依頼された児童クラブや公民館でのミニエコ講座の実施(浜田市)

⑥津和野町環境パートナーシップへの協力、ごみ減量のためのキエーロ学習会(津和野町)

概要：地域に密着した温暖化防止活動を行うため、推進員が地域別やテーマ別にグループを構成し、連携することで主体的に活動を企画・実施した。活動にあたっては、各グループが企画書及び予算書を作成し、連絡会で情報共有などを行い活動を実施した。当財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うとともに、活動へのアドバイスなども行いグループの円滑な活動を支援した。

(3) 家庭の省エネ促進支援

① 住まいの省エネ推進事業

新築や既築住宅の断熱・気密性能の向上や、住宅への省エネ家電や再エネ設備の導入により、民生家庭部門における大幅な脱炭素化を促すため、建築業界や消費者に向けて情報発信や意識啓発を行った。

また、各家庭においてエネルギー消費の見える化と効果的な削減を促すため、家庭向け省エネ診断の普及と診断支援を行った。

□「健康で快適な家づくりセミナー(健康になれる家づくり)」

実施日：2月20日(金)

場所：雲南市役所(雲南市)

参加者：15名

実施内容：①講演 断熱改修による医療費・薬剤費の削減

講師：藤田 浩司氏(近畿大学生物理工学部 准教授)

②事例紹介 部分断熱のすすめ

講師：宇田川孝浩氏(島根県建築士会)

坪倉菜水氏(島根県建築士会)

③意見交換 健康になれる家づくり

進行：北湯口純氏(身体教育医学研究所 うんなん)

宇田川孝浩氏(島根県建築士会)

概要：主に県東部で住宅・健康分野の業務に携わる関係者を対象に、断熱住宅のメリットや省エネ効果及び医療費等の抑制効果や、健康に配慮した住宅リフォームの在り方などを周知し、住まいの断熱性能向上に向け、分野を超えて情報交換を行いそれぞれに意識改革を促した。

□工務店等に対するヒアリング

徴取先：(一社)島根県木材協会、(一社)島根県住まいづくり協会、林谷工業株式会社、錦織建設、(株)かみしろ、(有)キドデザイン

概要：省エネ住宅の需要の動向や工務店等の対応状況など、住宅建築業界の現状を把握するため、住宅業界を支援する団体や工務店にヒアリングを行い、省エネ住宅の普及に関する事業の一助とした。

□うちエコ診断士のフォローアップ研修

実施日：5月19日(月)

実施場所：株式会社アート建工 出雲アートビレッジ住宅展示場(出雲市)

講師：出雲店 店長 田中 良氏

参加者：うちエコ診断士 6名 県環境政策課職員 2名

概要：うちエコ診断を円滑に実施し、診断技術の向上を図るため、うちエコ診断実施事務局(エコサポしまね、コアラッチ)に登録している診断士を対象に、断熱について適切なアドバイスが出来るように、住宅展示場で断熱性能について説明を受けた。

□うちエコ診断の広報

概要：うちエコ診断を広く県民に周知し、受診者拡大を図るため、WEB版うちエコ診断について説明したチラシ等をイベント等で配布した。

□島根県委託によるうちエコ診断業務の実施

実施件数：37件

場所：2市4会場(松江市、出雲市)

削減量：約197,790 kg-CO₂/年(一世帯あたり、約32,965kg-CO₂/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た6件によるもの。)

診断士数：4名

概要：県環境政策課、各市環境担当課等と連携して受診の機会を設け診断を実施した。受診者には、診断結果に基づき対策の提案を行うとともに、事後調査を実施し、対策状況を把握した。

□飯南町委託によるうちエコ診断業務の実施

実施件数：5件

場所：3会場

削減量：約5,109kg-CO₂/年(一世帯あたり、約1,022kg-CO₂/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た5件によるもの。)

診断士数：1名

概要：飯南町エコリフォーム補助金申請者に対し、町の依頼を受け診断士を派遣し診断を行った。診断結果に基づき対策の提案を行うとともに、事後調査を実施し受診者の対策状況を把握した。

②しまね省エネ住宅・再エネ設備パッケージ補助金業務の受託

県産木材を活用し、太陽光発電設備等を導入した省エネ住宅に対して、島根県で実施している補助事業について、当財団において窓口及び広報業務を受託し、業務を行った

□広報の実施

概要：エコサポしまねのホームページに補助金についての告知を掲載するとともに、SNSや新聞広告を実施した。また、補助金の募集チラシを作成し、工務店等に配布し、周知を行った。

□説明会の実施

実施回数：5回

実施方法：オンライン

参加社数：21社(24名)

概要：県内工務店を対象に、補助金の概要についてオンライン説明会を行うとともに、参加者からの質疑への対応を行った。

□申請窓口業務の実施

実施内容：申請受付：7件

電話相談：30件

助言：6件

概要：施主や工務店等からの相談に対して助言を行うとともに、補助金の申請窓口として、申請書類の受付事務を行い、迅速な審査、交付決定を支援した。

(4)市町村事業の支援

市町村温暖化対策担当課が、効果的に地球温暖化対策事業を実施できるよう事業の企画支援(相談・助言・協力)を行った。

□市町村環境担当者へのヒアリング

対象：松江市、大田市、邑南町

概要：各市町村と連携を密にし、地域における課題やニーズを把握するため、年度当初に3市町の環境担当課にヒアリングを行い、市町村支援の参考とした。特に「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」事業の実施状況などについて聴取し、当財団の支援について提案を行った。

□島根県内地方公共団体環境担当者研修の実施

実施日：11月18日(火)

場所：島根県民会館(松江市)

実施内容：(1)事例紹介

・リバースオークションによる再エネ電力調達について(益田市、浜田市)

・安来市地球温暖化対策地域協議会における取組紹介(安来市)

・中山間地域における魅力ある農業(儲かる+環境)の推進(美郷町)

(2)意見交換

・テーマ別意見交換(リバースオークション、地域協議会、先行事例)

・フリー意見交換

参加者：24名

対象：市町村環境担当課職員、島根県地球温暖化対策協議会行政部会構成員

概要：地域脱炭素の実現に向けて、県民1人ひとりの脱炭素型ライフスタイルへの転換を目指し、行動変容を促す効果的な情報発信を行うため、地域課題を解決し、地方創生と脱炭素を同時解決するための具体的な取組や実践手法について学んだ。また、科学的な根拠と具体的な手法に基づき実装するため、具体事例を学ぶとともにワークショップ形式で情報交換を行った。

□地球温暖化啓発パネル展

実施期間：11月18日(火)～20日(木)

場所：矢上公民館(邑智町)

概要：地球温暖化の現状の解説、省エネ住宅やごみ減量など地球温暖化防止活動を紹介した啓発パネル等を掲出した。

□エコドライブセミナー

実施日：6月15日(日)、9月28日(日)、10月5日(日)、11月2日(日)、11月8日(土)～9日(日)、11月29日(土)～30日(日)

場所：美郷町役場、松江市役所、海潮小学校(雲南市)、伯太中央交流センター(安

来市)、出雲ドーム(出雲市)、県立情報科学高校(安来市)
概要: エコドライブシミュレーターを用い、燃料の無駄を抑える運転方法を学び体験できるセミナーを開催した。

□エコ通勤・エコウォークチャレンジ

実施期間: 6月～1月

対象: 出雲市の各職員

概要: 各自治体職員向けの温室効果ガス排出削減取組として、自家用車利用以外の通勤方法を取り入れる「エコ通勤」の試行を呼びかけた。
エコ通勤の実施にあたっては、ニーズが高い「あいのり」に関し情報提供するなど財団職員が支援した。

(5) 島根県地球温暖化防止活動推進センターの運営

地球温暖化対策協議会の運営、地球温暖化防止の啓発・広報、県民への活動の支援、相談・調査・助言、各種県補助事業やイベントの実施、うちエコ診断事業の実施、地球温暖化防止活動防止推進員の支援、3Rの推進等を実施している。

①全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国センター(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、平成22年8月設立)との連携に努め、中四国ブロックや他県センターとの共通事業への取り組み、情報交換を図った。

□全国センター会議

実施日: 6月19日(木)

場所: 日本教育会館(東京都千代田区)

備考: オンラインにて参加

□全国連絡調整会議

実施日・場所: (第1回)4月18日(金)、オンライン開催

(第2回)9月2日(火)、AP 市ヶ谷(東京都千代田区)

備考: オンラインにて参加

□中四国ブロック会議

実施日・場所: (第1回の準備)5月23日(金)、オンライン開催

(第1回)7月24日(木)、米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)

(第2回の準備)9月19日(金)、オンライン開催

(第2回の準備)10月3日(金)、オンライン開催

(第2回)12月19日(金)、パレットとっとり(鳥取市弥生町)

(振り返り等)1月15日(木)、オンライン開催

備考: 第1回、第2回ともに会場参加

□中期経営方針改定

実施日・場所: (第1回)12月17日(水)、オンライン開催

(全国懇談会)3月4日(水)、オンライン開催

備考: オンラインにて参加

□新規事業セミナー

実施日：7月9日(水)

実施方法：オンライン

参加団体：地域地球温暖化防止活動推進センター等 約40名

概要：「地域新電力事業」「事業者ソーラー設置窓口業務」「自治体アースキッズチャレンジ受託事業」を例に、地域脱炭素に資する各センターの収益事業について意見交換を行った。

□気候変動教育モデルづくり研究会

実施日：12月11日(木)

実施方法：オンライン

参加団体：地域地球温暖化防止活動推進センター等 54名

概要：気候変動教育の教材開発やツールを用いた学習プログラムの実施について、地域地球温暖化防止活動推進センターや教員等が参加し、意見交換を行った。

②地域地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

中国・四国ブロックの地域地球温暖化防止活動推進センターを中心に、普及・啓発に関する情報交換や相互連携により、効率的な事業の展開の一助とした。

□COP TOTTORI2025 (鳥取県版COP会議)の参加

実施日：12月20日(土)

場所：公立鳥取環境大学(鳥取県鳥取市)

概要：基調講演、パネルディスカッション、テーマ別分科会、ワークショップ等

③県内環境保全対策活動への支援

次世代の環境学習の推進、しまね環境保全活動助成金制度の運用、市町村支援、情報収集・整備・提供、図書・器材の貸出、環境団体ネットワークの形成等

④関係機関・団体との連携及び交流

国、県、各都道府県地域地球温暖化防止活動推進センター、市町村、市町村地域協議会、県内及び県外NPO法人、ボランティア団体、企業等

(6)多様な情報媒体を活用した情報発信

生活者の価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、県民一人ひとりが生活の中で自分のライフスタイルに合った脱炭素にも繋がるアクションを具体的に実践できるよう、さまざまな世代や思考を踏まえた多様な手段を用いた情報発信を行った。

発信にあたっては、「エシカル消費」、「SDGs」、「丁寧な暮らし」等を啓発のテーマとし、地域や風土に根ざし、地域の自然資源を活用した暮らしを実践する人のライフスタイルを紹介した。その人の取り組みや環境に対する考え、未来の地域への思いを引き出すことで、県民に自分らしく脱炭素にも繋がる暮らしに興味を持ってもらえるよう努めた。

また、幅広い年齢層の県民に、楽しみながら脱炭素に繋がる活動を行う機会を提供するため、県内でも比較的規模が大きなイベントに出展しワークショップを行った。

①SNSを用いた情報発信

情報が届きにくい対象者への発信力を高めるため、FacebookやXなどSNSを活用し、県内外の環境情報を発信した。

実施数：週1回程度(Facebook)、週1～2回程度(X)

概要：当財団が実施する環境事業や地域・企業が行うゼロカーボンアクション、暮らしの中で実践できるエシカル消費や島根県の四季を感じる情報等についてわかりやすく発信した。

②WEBコラムによる情報発信

脱炭素社会の実現に繋がる「エシカル消費」や「SDGs」、個人の多様な価値観やライフスタイルをもとに、地域に根ざした暮らしや地域活動を行う人物を取材し、取組みや環境に関する考え方、未来の地域に対する思いを紹介したWEBコラムを制作し、SNSやHPなどで発信した。

タイトル：「しまねを楽しみ、未来へ繋ぐコラム」 テーマ：未来への投資

内容	取材先
島から始まるエネルギーの地産地消 目指すは“なつかしい未来”	交交株式会社(海士町) 浅井峰光氏
火のある暮らし 人生をあたためる薪エネルギー	株式会社Rustic Craft(松江市) 戸谷淳氏
100年後のこどもたちへ、しまねの豊かな海の幸を	若女食品株式会社(江津市) 砂川寛氏、來栖勝久氏、寺戸奈々美氏

③ケーブルテレビ・オンライン配信用番組の制作

□しまねFuture2030

タイトル：しまねFuture2030 第11回 火のある暮らし 人生をあたためる薪エネルギー

出演：戸谷淳氏(株式会社Rustic Craft)

配信方法：ケーブルテレビ、エコサポしまねのYouTubeチャンネル内で配信

内容：石油燃料ではなく、薪(バイオマスエネルギー)を燃焼させて部屋を暖める「薪ストーブ」を販売し、地域(玉湯、雲南、飯南、奥出雲)の広葉樹を使用した薪による「カーボンニュートラル」の促進や、「旧大谷小学校・幼稚園」の校舎を活用したコミュニティ図書館の運営、薪火を気軽に楽しめるカフェの運営等を行う戸谷氏の取組みを5分番組で紹介し、視聴者に石油燃料に頼り切らず、しまねの森林資源の循環を促す「薪ストーブ」を暮らしに取り入れる選択肢や、長い冬を楽しむヒントを提供した。

④地球温暖化防止啓発広報誌「しまエコVol. 23」の制作

日本が2050年までに目指す脱炭素社会の実現に向けて、CO₂排出の抑制と地域活性化に繋がる再生可能エネルギー、「カーボンニュートラル」、「エシカル消費」等をテーマに県内の企業やお店の取組みを具体的な事例として紹介することで、県民に日々の消費行動について早急な行動変容を促した。

発行部数：3,000部

配布先：各市町村担当課、県内の環境活動団体、県内図書館、公民館、取材先の近隣の道の駅等

概要：国内産の竹100%でできた「竹紙」を使用し、環境への配慮とともに身近な資源の有効活用を啓発する工夫を行った。

内容：しまエコ Vol. 23[2026年3月発行]

【特集】私が選ぶ、自分と未来への「投資先」

【オロチさんとしろくまさん】「カーボン」クイズ！

【いまHOTなnews】多様な暮らしで目指す「ウェルビーイング」

【いま、紹介したい作品】貝殻に新たな命を吹き込む「SEA LIFEの貝トレー」

⑤紙媒体を用いた情報発信

発行部数12,000部、毎号8割以上の売り上げ実績があり地域性の高い文化情報誌「さんいんキラリ」に本土とは送電線で繋がらない離島ならではの再エネプロジェクトを展開する交交株式会社(海士町)の取り組みを紹介する記事広告を掲載した。身近ではない「再生可能エネルギー(再エネ)」について「地域内経済循環」の視点から、国産屋根上太陽光発電による町の総消費電力の5%を供給する交交の事業を紹介することで、読者に再エネによるエネルギーの地産地消が地域の自立・発展にも寄与することを示した。

掲載誌：さんいんキラリNo. 59(有限会社グリーンフィールズ発行)

内容：しまねを楽しみ 未来へ繋ぐ 第8回

取材先：交交株式会社 浅井峰光(あさい たかみつ)氏

⑥実践活動の機会提供

幅広い年齢層の県民に、楽しみながら脱炭素に繋がる活動を実践する機会を提供するため、県内でも比較的規模が大きなイベントに出展し、ワークショップを行った。

□「はじめよう!脱炭素アクション2025」ブース出展

(出雲会場)かんなくずのボンボンづくり

イベント名：はじめよう!脱炭素アクション2025

期間：11月8日(土)・9日(日) 10:00~16:00

場所：出雲ドーム(出雲市)

対象：一般県民

主催：島根県

WS参加者：250名

概要：主に島根県産の木のかんなくずを使用したボンボンづくりのワークショップを行い、木の香りや手触りを楽しみながら、脱炭素社会の実現にも繋がる地域の木の活用や森林資源の循環について考える機会を提供した。

また、「組子細工」の技法で作品をつくる舟木木工所(雲南市)のかんなくずを使用することで、島根県のものづくりや職人などの紹介にも寄与した。

(参考)イベント総来場者数：16,000名

□「はじめよう!脱炭素アクション2025」ブース出展

(益田会場)「みつろうラップ」づくり

イベント名：はじめよう!脱炭素アクション2025inグラントワ

期間：令和8年1月25日(日) 10:00~16:00

場所：島根県芸術文化センター「グラントワ」(益田市)

対象：一般県民

主催：島根県

WS参加者：50名

概要：綿100%の布に溶かした「蜜蝋」を染みこませ、洗ってくり返し使う「みつろうラップ」をつくるワークショップを行った。参加者に「簡単に使い捨てない暮らし」や日常生活の中で実践できる「エシカル消費」を紹介し、脱炭素に繋がる行動の実践を促した。

(参考)イベント総来場者数：2,500名

□しまねの冬を楽しむエシカルワークショップ

島根県産の「みつろう」で万能クリームづくり 開催

イベント名：益田市の「みつろう」で万能クリームづくり

期 間：12月20日(土) ①10:30～12:00 ②13:30～15:00 ③15:30～17:00

場 所：カラコロ工房2階203・204会議室(松江市)

対 象：一般県民

WS参加者：33名

概 要：益田市で「エシカル」をテーマに養蜂を行う「空水土(クーミード)」副代表 石田樹理氏を講師に招き、脱炭素社会の実現にも繋がる「エシカル消費」の基礎講座を行った。ミツバチの生態から気候変動を始めとする環境問題を紹介し、益田市産の蜜蝋を使用した保湿クリームを作ることで、各自が今後実践する「マイエシカル」について考える機会を提供した。

また、参加者に環境ラベルや「フェアトレード」等の認証マークがついたドリンクを選んで試飲してもらい、身近ではないエシカル消費を「世界と繋がる1杯のドリンク」につなげることで、日常での実践を促した。

□サロン型エシカルミニワークショップ

みつろうラップづくり

イベント名：エシカルのミニワークショップ みつろうラップづくり

期 間：令和8年3月28日(土) ①10:00～12:00 ②13:00～16:00 随時受付

場 所：しまねエコライフサポートセンター事務所(松江市)

対 象：一般県民

WS参加者：44名

概 要：休日に気軽に参加できる15分程度のエシカルミニワークショップを開催した。参加者に洗ってくり返し使う「みつろうラップ」を作る機会を提供し、「簡単に捨てない暮らし」やプラスチック製品を控える選択を紹介した。

また、キッチングッズを始めとするエシカルな日用品を展示することで、具体的な「エシカル消費」の実践を促した。

(7) 脱炭素アクションの創出 再エネ広報

地球温暖化対策として脱炭素を加速させるためには、行政や企業だけでなく県民一人ひとりの取組、行動変容が不可欠である。県民が脱炭素を「知る」「理解する」だけにとどまらず、脱炭素アクションの一步を踏み出すため「再生可能エネルギー(再エネ)」について理解し、生活の中に取り入れることが必要である。

今年度は家の住み替えや新築により、再エネ設備を導入する機会がある20～40代の一般県民をメインターゲットに、再エネの認知度と印象を向上させ、生活の中での活用を促すために、再エネの基本情報をまとめて紹介する内容のWebコラムとショート動画を制作し、Instagram・Facebook・YouTube広告を使用した広報を行った。

また、総合的に再エネ広報を行えるよう、脱炭素の取組の一環としたWebページの構築を行った。

①Webコラム、ショート動画の制作

「脱炭素＝我慢」というイメージを覆し、難解な印象のある再エネを「自身の暮らしを豊かにする手段の一つ」として生活の中に取り入れることを促すため、昨年度に引き続き、大きく3つのテーマから再エネの基本情報をわかりやすく紹介するWebコラムを3本、関連ショー

ト動画を6本制作した。

コラムタイトル	ショート動画タイトル	取材先・内容
特別連載4 地上80m!江津高野山風力発電所で “風から電気が生まれる”様子を 見に行ってきた!	4-① 地上80メートルから 風力発電所を見てみた!	江津高野山風力発電所の風車(8号機)を取材し、風力発電の基礎的な機能の紹介やドローンを使用した迫力あるショート動画を制作した。
	4-② 実は身近にある! 島根の風力発電スポット	
特別連載5 地域イベントでチャレンジ! 「カーボンオフセット」のはじめ方	5-① 最近ニュースで話題! カーボン〇〇クイズ	市町村のイベント担当者が「カーボンオフセット」を実施できるよう、カーボンオフセットの基礎や具体的な手続き方法を紹介した。
	5-② イベントがもっと楽しくなる 「カーボンオフセット」にチャレンジ!	
特別連載6 停電でも安心。再エネ×蓄電池で備える 島根の暮らし	6-① 備えて安心 災害時に 家族を守る「小さな再エネ」	再エネ×防災をテーマに再エネ設備を活用する地域の施設「道の駅邑南の里」や、太陽光パネルがついた家庭用ポータブル蓄電池を紹介した。
	6-② 外遊びも防災も! 「小さな再エネ」ピクニック	

②SNS広告を使用した広報

制作したコラムやショート動画がより多くの県民の目に留まるよう、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」の広告機能を利用した広報を行った。ターゲットは島根県全域の10～50代男女とし、広告には昨年度制作した動画1-②、3-①、今年度制作した4-①を使用した。

(8)自動車販売店等と連携した次世代自動車の普及

温室効果ガス排出削減に向け、ガソリン車等にとって代わる次世代自動車(EV等)に不可欠な充電器等に注目し、様々な充電方法や公共の充電器を利用する場合の注意点等に関する情報発信を行った。

□学習会「行政職員向けEV等体験会」の実施

自動車販売協会連合会島根支部や県内の自動車販売店等と連携し、温室効果ガスの排出を抑える次世代自動車(EV等)の試乗や利活用の体験機会を設けることで、自治体職員が充電、給電など様々な利用方法について学び、EV等の有用性への理解を深めることを目的として体験会を実施し、自治体を通じて県民へEV等普及の機会拡大を図った。

○益田市会場

実施日：7月11日(金)11:00-17:00

場所：益田市市民学習センター 駐車場(益田市元町11-26)

参加者：益田市関係者11名(危機管理課、協働のひとづくり推進課、環境衛生課、匹見下公民館、益田市地球温暖化対策地域協議会、益田市総合サービス)

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電、会場駐車場に設置されている普通充電器を利用しEVへの充電など、EVとその利活用についての各種体験。

協力企業：島根トヨタグループ、島根日産自動車株式会社

○出雲市会場

実施日：10月17日(金)11:00-15:00

場所：出雲市役所 駐車場(出雲市今市町70)

参加者：出雲市関係者20名(防災安全課、農業振興課、環境政策課、環境施設課)

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電など、EVとその利活用についての各種体験。

協力企業：島根トヨタグループ、島根日産自動車株式会社、株式会社日産サテリオ島根

○浜田市会場

実施日：10月27日(月)11:00-17:30

場所：浜田市立中央図書館 駐車場(浜田市黒川町3748-1)

参加者：浜田市関係者10名(教育総務課図書館係、行財政改革推進課、防災安全課、環境課、旭支所防災自治課)

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電など、EVとその利活用についての各種体験。

協力企業：島根日産自動車株式会社、株式会社日産サテリオ島根、株式会社ホンダカーズ島根、西日本三菱自動車販売株式会社

○邑智郡会場

実施日：11月12日(水)11:00-17:30

場所：美郷町防災公園 駐車場(邑智郡美郷町久保22-3)

参加者：各町関係者20名(邑南町(総務課、資産経営課、町民課)、川本町(町民生活課、まちづくり推進課)、美郷町(総務課、企画推進課、資産経営課、住民課、健康福祉課、消防団女性分団)

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電、会場駐車場に設置されている普通充電器を利用したEVへの充電など、EVとその利活用についての各種体験。EVへの地域新電力による電力供給についてのレクチャー。

協力企業：島根トヨタグループ、島根日産自動車株式会社、株式会社日産サテリオ島根、株式会社ホンダクリオ西島根、おおなんきりエネルギー株式会社

○津和野町会場

実施日：1月29日(木)11:00-17:30

場所：道の駅 津和野温泉なごみの里 駐車場(鹿足郡津和野町鷺原イ256)

参加者：津和野町関係者6名(つわの暮らし推進課、環境生活課、商工観光課、教育委員会)

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電、会場駐車場に設置されている普通充電器を利用したEVへの充電など、EVとその利活用についての各種体験。

協力企業：島根トヨタグループ、島根日産自動車株式会社、株式会社日産サテリオ島根、株式会社ホンダカーズ西石見

○大田市会場

実施日：1月30日(金)11:00-17:30

場 所：道の駅 がいせ仁摩 駐車場(大田市仁摩町大国42-1)

参 加 者：各市関係者18名(江津市(市民生活課)、大田市(政策企画部、温泉津支所、介護保険課、水上保育園、衛生処理場、環境生活部、産業企画課、観光振興課、都市計画課、都市計画課、水道課、議会事務局、総務課、石見銀山課、警防課、総務課))

実施内容：会場及び周辺道路でのEVの試乗、外部給電器を用いたEVから家電等への給電、会場駐車場に設置されている普通充電器を利用したEVへの充電など、EVとその利活用についての各種体験。

協力企業：島根トヨタグループ、島根日産自動車株式会社、株式会社日産サテオ島根、株式会社ホンダクリオ西島根

□EV等の普及に関する自治体アンケート調査の実施

対 象：県内19市町村の環境担当者

方 法：アンケート(設問用紙を郵送しWebフォームで回答)及びヒヤリング

実施期間：8月～11月

実施内容：公用EV車や充電器の設置状況、普及・導入上の課題やその対策等に関する項目をアンケートし、回答が先導的な取り組みだった3市町の各担当者へヒヤリングを行った。

概 要：EV普及の主な課題は車両価格の高さ、充電設備の不足、性能への不安であり、民間連携によるインフラ整備や、トータルコストの可視化を通じた費用負担感の軽減が重要であることが示唆された。また、試乗会等の「体験」機会の創出により、利便性や災害時の有用性への理解を深めることが、住民の認識転換と普及を促進する鍵になる可能性があることがわかった。

(9) 地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組みを促進するため、地域の多様な主体と協働・連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画・運営・支援等を行った。

①持続可能な地域づくりを考えるワークショップ

□SDGsカフェの実施

期 間：4月～3月(6回実施)

場 所：島根県立しまね海洋館 アクアス(浜田市)

主 催：島根県立しまね海洋館アクアス

参画団体：公益財団法人しまね自然と環境財団、EPOちゅうごく、中国地方ESDセンター、浜田市環境課、一般社団法人イワミノチカラ

概 要：SDGsに取り組む各団体が連携し、新たな活動の機会を創り出すことを目的に、活動の企画を行うワークショップを定期的で開催した。ワークショップの成果として、SDGオープンカフェやESDプログラムを企画し、カフェ参加者がスタッフとして、海の環境問題や気候変動問題をテーマとした地域版SDGsにつながる一般向けのプログラムを行った。

□SDGsオープンカフェの実施

○「あつうみ×浜田港探訪」の実施

実 施 日：5月18日(日)

場 所：浜田港周辺(浜田市国分町)

講 師：梅野恭範氏(渡辺鮮魚店株式会社)

- 沖野晃氏(島根県水産技術センター)
新家浅夫氏(元 島根県水産技術センター)
- 主催：島根県立しまね海洋館アクアス
共催：公益財団法人しまね自然と環境財団、中国環境パートナーシップオフィス中国地方ESDセンター、一般社団法人イワミノチカラ
- 対象：一般県民
参加人数：15名
- 概要：浜田市で仲卸を行う鮮魚店の店頭にて、地域の特色がある代表的な魚介類や流通にのりにくい魚介類についてレクチャーを受け、水産資源の変化や地域の食生活に与える影響、環境の変化にともなう未利用魚の活用について学んだ。また、浜田港を歩きながら、港の歴史や当時の漁業のようす、近年の水産業をとりまく状況の変化などについて学んだ。

○「あつうみ×魚食の最前線を見て学ぶ」の実施

- 実施日：9月23日(火・祝)
- 場所：塩田漁港(江津市)
- 講師：福島利一氏(真和漁業生産組合)
- 主催：島根県立しまね海洋館アクアス
共催：公益財団法人しまね自然と環境財団、中国環境パートナーシップオフィス中国地方ESDセンター、一般社団法人イワミノチカラ
- 対象：一般県民
参加人数：15名
- 概要：江津市で定置網漁業を営む、真和漁業生産組合を訪問し、定置網漁の水揚げを見学し、漁業の最前線を体験した。水揚げされた魚についての説明や定置網の仕組みや漁獲量や魚種の変化、地域の海に関わって、漁師として仕事をするものの意義などについて学んだ。漁港での水揚げ見学の後は、地域の飲食店で、定置網で水揚げされた魚を調理してもらい、新鮮な魚を参加者が味わう体験も行った。

○ESD体験イベント「釣ったらわかる いわみのSDGs」の実施

- 実施日：10月25日(土)
- 場所：唐鐘漁港(浜田市国分町)
- 対象：一般県民
参加数：15名
- 主催：公益財団法人しまね海洋館
共催：公益財団法人しまね自然と環境財団、公益財団法人しまね海洋館、EPOちゅうごく、中国地方ESDセンター、公益社団法人イワミノチカラ
- 概要：海的环境や生物多様性、海が地域の人々にもたらす恩恵などを身近な海に触れる体験を通じて、海のSDGsについて知り、学び、考えるイベントを実施した。魚釣りを通じて、身近な海の生きものに触れ、さまざまな生きものを育む海が身近にあることを知るとともに、釣り上げた魚をその場で調理して食べる体験を通じ、海の恵みの豊かさについて、参加者とともに考え、シェアリングを行った。

②持続可能な環境学習プログラムの協働実施

□島根県環境教育ワーキングネット研修の実施

○第2回研修

実施日：5月21日(水)

場所：ホシザキ野生生物研究所(出雲市園町)

講師：志賀誠治氏(有限会社人間科学研究所)

対象：県内の環境教育を行う博物館、水族館等

参加人数：13名

主催：公益財団法人しまね自然と環境財団、公益財団法人しまね海洋館

共催：公益財団法人ホシザキグリーン財団、公益財団法人しまね海洋館

概要：昨年度実施した第1回を踏まえ、第2回の研修では、実践的な環境学習プログラムの企画、制作のプロセスとして、プログラムデザインについて学んだ。また、前回学んだ生態学や地球環境についての概念の共有化を元に、学習プログラムのブラッシュアップを行うため、それぞれの参加者が実績してきた学習プログラムの再構築を行った。

○第3回研修

実施日：1月23日(金)

場所：ホシザキ野生生物研究所(出雲市園町)

講師：志賀誠治氏(有限会社人間科学研究所)

対象：県内の環境教育を行う博物館、水族館等

参加人数：15名

概要：第3回の研修では、第2回で学んだプログラムデザイン(プログラムの企画、制作プロセス)とその成果として制作したプログラムを実施した事例を共有し、各事例をお互い評価した。また、今後、相互に連携しながらスキルアップを図っていくため、それぞれのニーズを把握するとともに、ワーキングネットの活動の方向性を共有した。

□イベント「おおだ自然エネルギーパーク2025第2弾 マルシェ&シネマ」の実施

実施日：11月3日(月祝)

場所：三瓶自然館サヒメル(大田市)

主催：おおだ自然エネルギーパーク実行委員会

共催：公益財団法人しまね自然と環境財団、大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家、NPO法人緑と水の連絡会議

後援：大田市、株式会社山陰合同銀行、縁パワーしまね

事務局：おおだ未来づくり会議

参加人数：203名(マルシェ100名、映画73名、トーク30名)

実施内容：①エシカルマルシェ

②映画上映 「うんこと死体の復権」

③トーク&シェアリング

講師：皆木宏明(三瓶自然館サヒメル)

概要：三瓶自然館を会場に、探検家・関野吉晴が初監督を務めたドキュメンタリー映画「うんこと死体の復権」を上映し、生態系における物質循環や生物間相互作用の巧みさを学ぶとともに、人間と自然の関わりについて考える機会を醸成した。また、合わせてエシカルマルシェを開催し、地球環境を守るための身近な取組について、価値観を共有できる場づくりを行った。

□三瓶小豆原埋没林公園との連携

実施日：7月12日(土)

場所：三瓶小豆原埋没林公園(大田市)

対象：一般県民

参加者：10名

テーマ：月イチガク「まぶCool!!～天然冷気で酷暑に喝!～」

概要：三瓶埋没林公園において地理や地質など地学に関わるテーマについて学ぶ「月イチガク」の一環として、気候変動対策として身近な自然エネルギーの活用について学ぶ機会とした。

③その他団体等との連携及び協力、支援

□EPOちゅうごくの支援・連携

概要：地域における環境団体の協働・連携を進めるため、環境省が設置・運営する環境パートナーシップオフィスであるEPOちゅうごくと協力するため、運営委員として助言を行うとともに、島根県内でのSDGsやESD、地域循環共生圏に関わる事業について支援を行った。

④一般向け講師派遣

□出雲市環境保全連合会出西支部

実施日：5月26日(月)

場所：出西コミュニティーセンター(出雲市斐川町)

対象：出雲市環境保全委員

参加者：40名

講師：葭矢崇司(財団職員)

テーマ：今日からできるゼロカーボンチャレンジ～未来のために今考えよう～

概要：地域脱炭素に取り組む出雲市において、市民にも「脱炭素」の概念が普及し、具体的な行動につながるように、具体的な事例を用いながら解説を行った。

□浄土真宗大田中組

実施日：7月23日(水)

場所：あすてらす(大田市大田町)

対象：浄土真宗門徒

参加者：60名

講師：葭矢崇司(財団職員)

テーマ：日々の暮らしから始めるSDGs

概要：SDGsの基礎や消費者としてSDGsを意識した消費行動を行う「エシカル消費」について解説した。

□法吉公民館

実施日：7月31日(木)

場所：法吉公民館(松江市比津町)

対象：地域住民

参加者：20名

講師：葭矢崇司(財団職員)

テーマ：意外に知らない地球温暖化のこと

概要：近年、より身近に地球温暖化の影響が市民生活に及んでいることを踏まえ、改めて地球温暖化について学ぶとともに、生活の中で取り組むことができる地球温暖化対策について学ぶ機会を提供した。

⑤企業向け講師派遣

□カードゲーム「2050カーボンニュートラル」の実施(再掲)

参加者：69名

講師：葭矢崇司(財団職員)

概要：カーボンニュートラルをどのように地域で実践し、地域脱炭素化を実現するか、グループワークを行いながら、体験的に理解できるプログラムであるカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を様々な団体を対象に実施した。

実施日	対象	人数
5月24日	島根県環境生活部 職員	24
8月21日	島根県メンター、メンティー	19
10月30日	山陰合同銀行 行員	26

(10)環境に係る展示や出展・教材の貸出

県民に環境問題についての普及啓発を行うため、様々な団体が実施するイベントや展示会の機会を活用して、地球温暖化やごみ問題、身近なエコ活動など、さまざまな分野の環境学習資機材の貸出や啓発パンフレットの提供を行った。

□環境学習資機材の貸出

概要：県民のニーズを考慮した環境学習資機材の整備等を図るとともに、希望する団体に年間を通じて貸出を行うことで、地域で行われるイベントや展示会で県民に環境問題について普及啓発を行った。

・資機材の貸出、啓発パンフレットの提供 ……21件

・貸出図書を購入 ……6冊

・タペストリーの更新 ……1種

・配布用啓発物の印刷 ……5件

□環境学習資機材を使用した展示

期間：4月4日(金)～4月30日(水)

場所：島根県立図書館1階ホール(松江市)

対象：一般県民

概要：島根県立図書館とのタイアップ事業として、4月22日の「アースデイ」をテーマに、気候変動に関するタペストリーやエシカルグッズの展示、関連図書の陳列を行い、県民に環境配慮行動の実践を呼びかけた。

□関連イベントの開催

期間：4月27日(日)

場所：島根県立図書館1階集会室(松江市)

対象：一般県民

参加者：12組31名

概要：島根県立図書館とタイアップした展示の関連イベントととして、主に親子連れを対象に、環境問題をテーマとした絵本の読み聞かせを行った後、布用のマジックを使い、本の借用時や買い物の際に使用する「マイバッグ」を作る工作を行った。

(11)環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による自然環境の保全や持続可能な社会を次世代に引き継ぐ活動を目的とした主体的な取組みを促すため、取組みの開始又は継続に要する費用の一部を助成した。

□令和7年度事業の実施

概要：自然環境の保全や持続可能な社会を次世代に引き継ぐ活動に対し助成を行い、伴走支援を行った。

助成内容：対象……ボランティア団体、NPO法人等

助成額……事業費の2/3以内助成で、80万円を上限

(参考)：令和7年度事業は、前年度中(令和6年度)に募集・審査を行った。

募集期間：令和6年11月1日(金)～12月23日(月)

審査会：令和7年3月17日(月)

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	交付決定額
計	8件	3,267千円	2,175千円	7件	1,900千円

□令和8年度事業の審査及び採択

概要：令和8年度事業について、助成事業の実施期間を確保するため、今年度(令和7年度)に募集・審査を実施した。

助成内容：対象……ボランティア団体、NPO法人等

助成額……事業費の2/3以内助成で、80万円を上限

募集期間：令和7年11月4日(火)～12月23日(火)

広報：募集チラシ及び申請の手引きの配布(2,500部、200部)、エコサポしまねHP、SNS

審査会：令和8年3月13日(金)

審査委員：学識経験者、県関係課、婦人団体関係者 計3名

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数※	交付決定額※
計	7件	2,614千円	1,740千円	7件	1,740千円

※いずれも内定(令和8年度において正式採択、交付決定)

IV. 北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は、大田市から指定管理者として4期目5ヶ年度の初年であった。これまで蓄積された運営経験に基づき、「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を基本理念として、国立公園三瓶山の自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出すことを意識して管理運営にあたった。その前提として、来場者の安全・安心への配慮を行い、イベント実施、キャンプ用品貸出など、各種サービスにより満足度向上にも努めた。

また、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、イベント等の一体的な事業展開により効率的な運営に努めた。

利用料金収入は、市の条例改定にあわせ、本年度から利用料金を約1割値上げしたが、収入想定を大きく下回った。減少の要因として、令和3年前後のキャンプブームを機に競合施設が増加したことのほか、異常とも言える猛暑、全国的なクマの出没が影響したことが考えられる。当キャンプ場は設備と仕様が古いことが競争力の低下に繋がっていると思われ、その対策が今後の課題である。

1. 営業日等

◆令和7年度年間開場日数：328日

※開場日数は当初予定のとおりだが、令和7年2月8日の大雪に伴い、午後2時以降を臨時休場とした。

2. 利用促進業務

主な利用促進業務の実施内容は次のとおり。

- ・西部勤労者共済会と提携した各種割引サービスの実施。
- ・自社ホームページ及びキャンプ関連WEBサイトに、施設情報やイベント紹介記事を掲載。
- ・Facebook、Instagramによる施設PRや周辺自然情報など発信。Instagramでは新規フォロワーを約200名獲得し、総フォロワー数は2000名を超えた。
- ・県内のまちづくりセンターや道の駅にパンフレットを配架。
- ・インターネット予約システム及びオートキャンプ協会と連動した広報の実施。

3. 管理体制

繁忙期や閑散期の状況に応じて、効率的なスタッフの人員配置を行った。

通常期は臨時職員を含めて6名の体制により、利用者の対応、施設・設備の安全点検及び環境美化等に万全を期したほか、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、景観維持に努めた。

繁忙期は3名程度の臨時アルバイトを雇用し、宿泊施設ならびに屋外共用棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等にあたらせ、衛生管理を徹底した。

一方、冬季閑散期には正規・臨時職員4名で対応することにより、人件費の節減を図った。

4. 施設維持管理

昭和44年に開場した当施設は、施設・設備の老朽化、経年劣化に伴う不具合が加速度的に多発している。設置者である大田市と協議を重ね修繕計画に沿った対策を講じているが、予期せぬ事態が続発するなど、修繕が追いつかない状況にあり、喫緊の課題となっている。

本年度も多数の故障及び不具合が発生し、1件30万円未満の修繕は指定管理者において可能な範囲で実施した。また、30万円以上の修繕については、大田市に修繕を要請している。利用者の快適で安全な利用環境の確保を第一に修繕を実施しているが、高額な修繕費を要する箇所が多くあり、思うように修繕が進んでいない現状にある。

■修繕状況……………13件

- ・第1トイレ水道配管における漏水工事、セントラルロッジ空調機の修繕、場内木柵の修繕の他、水回りの漏水修繕、施設設備修繕、場内整備用機器の修繕など

■復旧できていない主な施設・設備

- ・オートゲートシステム(出口側)……………令和元年5月に故障
- ・第1女子トイレの排水不良(4箇所)……………令和3年1月に発生
- ・第2トイレ、第3炊事棟の屋根……………令和3年4月に一部破損
- ・オートゲートシステム(入口側)……………令和5年10月に故障
- ・ケビン・バンガロー火災報知器……………令和6年電池交換期限切れ
- ・セントラルロッジ電気設備の故障……………令和6年10月に故障
- ・高圧ケーブル不具合(第1・第2キュービクル間)……………令和6年12月に確認

5. 自主事業

(1) イベントの実施

□カレーフェスin北の原キャンプ場

実施日：5月18日(日)

内 容：島根県内の飲食店7店を招き、カレーやデザート等を販売する食のイベントを実施した。悪天候であったが、188食を売り上げた。

□カレーフェス関連イベント飯ごうご飯でカレーを食べよう!

実施日：5月18日(日)

参加者：10組40名

内 容：炊事棟のかまどを用いて火起こしと飯ごう炊さんを体験する内容で、親子連れを対象とした。参加者はカレーフェスの会場で好みのカレーを購入して、炊いたご飯にかけて食べた。

□たき火カフェ キャンプ場店へようこそ!

実施日：11月8日(土)

参加者：25名

内 容：第1ファイヤー場で大きなたき火を起こし、マシュマロや焼きリンゴなどのたき火スイーツを楽しむイベントを実施した。希望者にはたき火台セットのレンタルも行った。

(2) 利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食料品の販売や、キャンプ用具の貸出を行った。

6. その他の事業

(1) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

SNSを活用して天候や登山情報を定期的に提供したほか、管理棟内の情報コーナーにおいて観光案内を行っている。温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介なども積極的に行った。

(2) 地域連携による観光推進活動

大田市、飯南町、美郷町の1市2町が連携する「三瓶山広域ツーリズム振興協議会」と石見地域の観光・宿泊施設等により組織される「石見ツーリズムネットワーク」に参画し、地域一体での観光促進事業に自然館と連携して取り組んだ。

V . 利 便 提 供 事 業

1. 物販事業

(1) 三瓶自然館

自然科学に関するものや三瓶山来訪の記念となる商品のほか、館のキャラクター「テンピー」のオリジナル商品など、当館らしい商品展開で販売を行った。

また、企画展開催期間にはそのテーマに合う商品の特集を行い、展示と連動した売上げ拡大を図った。例えば夏期企画展の期間には、テンピーを用いたオリジナル柄の12星座缶バッジを販売し好評を得た。

(2) 三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材(発掘時に出土した倒木等)を利用した独自商品や近隣の製菓店と共同開発した商品のほか、縄文時代に関連する書籍及び鉱物や化石、木工品など、埋没林のイメージを意識した商品を販売した。遠来の観光客を対象に想定して販売している石見焼は売上額の増加に貢献している。

また、新たな試みとして冷蔵庫を導入し、地元企業による加工食品を販売した。

(3) 北の原キャンプ場

北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。

また、大田市在住のデザイナーが制作したキャラクター「SANBE Genjin3(サンベゲンジン3)」のグッズの他、市内業者の水産加工品類を試行的に販売した。

2. 貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸出を行った。

近年、キャンプ場初心者も用品類は持参するケースが多く、貸出の需要は減少している。今後はニーズが見込まれる用品を見極めながら事業を展開する。

VI. そ の 他

1. 数値目標を掲げた運営

(1) 入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。

三瓶自然館は収入目標を18,013千円とし、この目標の達成に必要となる利用者数を95,100人と設定した。夏期特別企画展を中心に各種事業を展開して88,853人の利用があった。最大集客期の夏の猛暑が利用低迷の一因と予想され、その対策とともに年間をとおして集客する方策の検討が次年度以降の課題となった。

埋没林公園は年間の利用目標を16,000人として利用者確保に取り組み、団体利用(件数、人数)がコロナ禍以降で最高水準となったこともあって目標を達成した。

第4期の指定管理期間初年度であった北の原キャンプ場は、23,100千円の売り上げ目標を設定したが、前年度から続く利用件数の減少傾向に歯止めがかからず、売り上げ目標を大きく下回る結果となった。

(2) 全施設の目標値と達成状況

令和7年度 施設別月別目標達成率一覧表

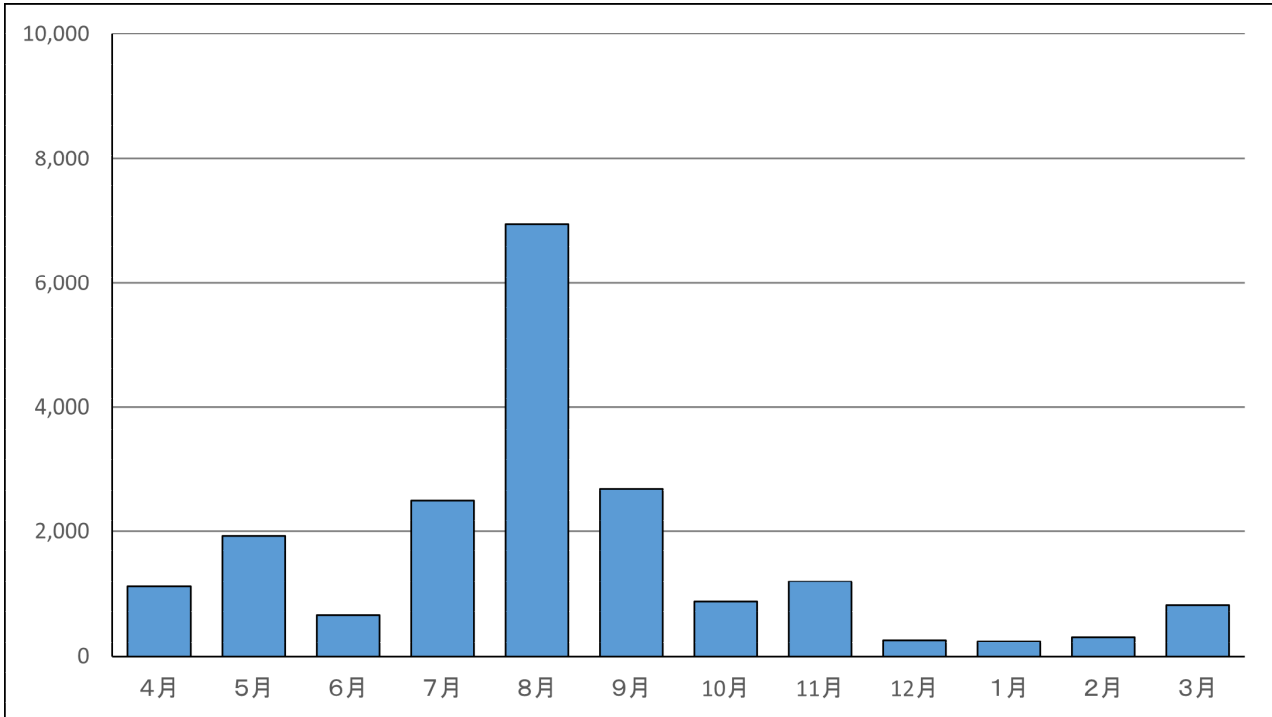
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三瓶自然館 (天体含む)	R7目標	6,300	11,000	5,500	12,000	24,000	13,000	8,000	8,000	1,300	1,500	1,500	3,000	95,100
	R7実績	6,371	10,801	5,693	9,381	18,984	9,200	9,094	9,396	1,544	2,189	2,294	3,906	88,853
	入館者(人)	達成率	101.1%	98.2%	103.5%	78.2%	79.1%	70.8%	113.7%	117.5%	118.8%	145.9%	152.9%	130.2%
天体観察会 入館者数 (人)	R7目標	480	680	500	570	700	480	480	480	20	30	30	50	4,500
	R7実績	349	501	104	574	894	441	481	441	52	34	44	87	4,002
	達成率	72.7%	73.7%	20.8%	100.7%	127.7%	91.9%	100.2%	91.9%	260.0%	113.3%	146.7%	174.0%	88.9%
埋没林公園 入園者数 (人)	R7目標	1,000	2,200	1,300	1,500	2,500	2,200	1,900	1,600	250	250	300	1,000	16,000
	R7実績	1,191	1,876	1,097	1,367	2,573	1,541	2,192	1,975	360	280	500	1,102	16,054
	達成率	119.1%	85.3%	84.4%	91.1%	102.9%	70.0%	115.4%	123.4%	144.0%	112.0%	166.7%	110.2%	100.3%
キャンプ場 利用料金 (千円)	R7目標	2,230	3,600	1,450	2,422	5,400	2,200	2,300	1,600	160	250	200	340	22,152
	R7実績	1,271	2,650	793	2,253	4,455	1,535	1,909	1,778	148	182	211	304	17,489
	達成率	57.0%	73.6%	54.7%	93.0%	82.5%	69.8%	83.0%	111.1%	92.5%	72.8%	105.5%	89.4%	78.9%
物販・貸出 売り上げ (千円)	R7目標	1,400	2,500	1,000	2,100	4,700	2,200	1,500	1,500	350	500	250	300	18,300
	R7実績	1,094	2,190	811	2,236	4,584	1,862	1,348	1,386	315	286	346	840	17,298
	達成率	78.1%	87.6%	81.1%	106.5%	97.5%	84.6%	90.1%	92.4%	90.0%	57.2%	138.4%	280.0%	94.5%

※キャンプ場、物販・貸出は補正予算後の目標数値を記載

(3) 収入実績

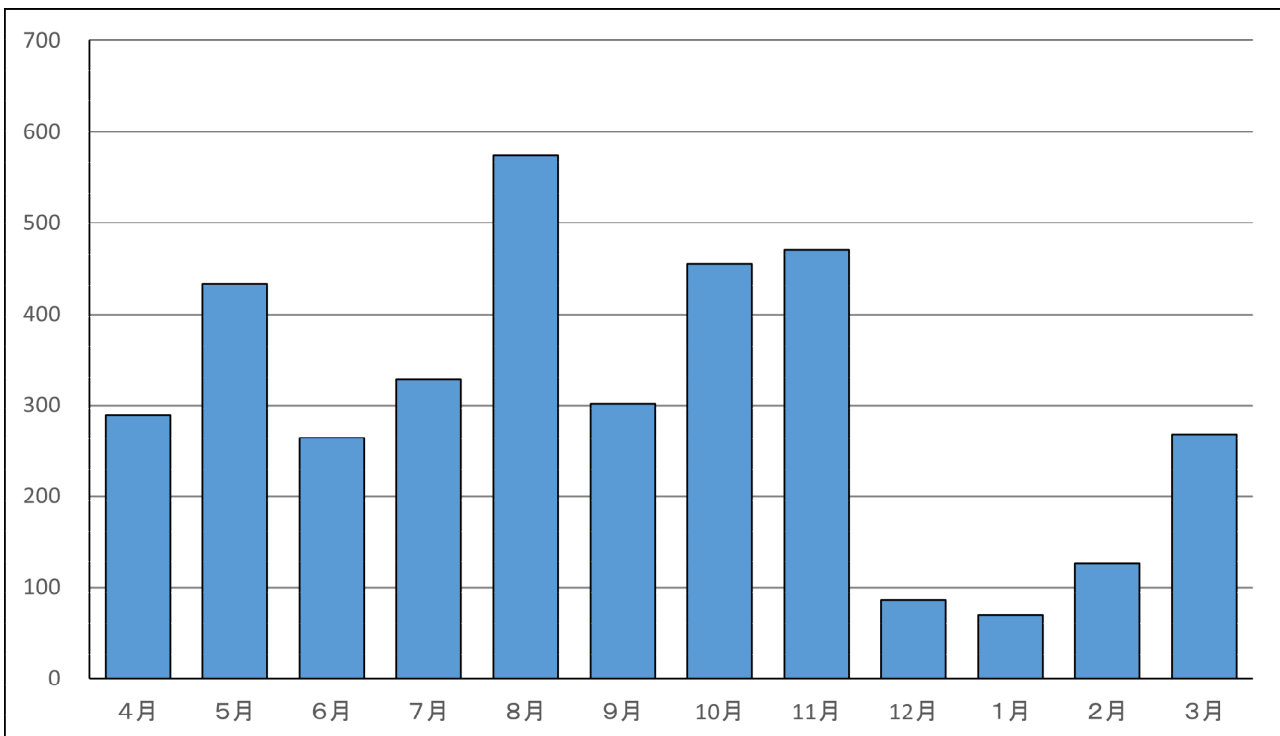
□三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,221	1,930	654	2,505	6,944	2,704	884	1,201	266	254	313	829	19,705



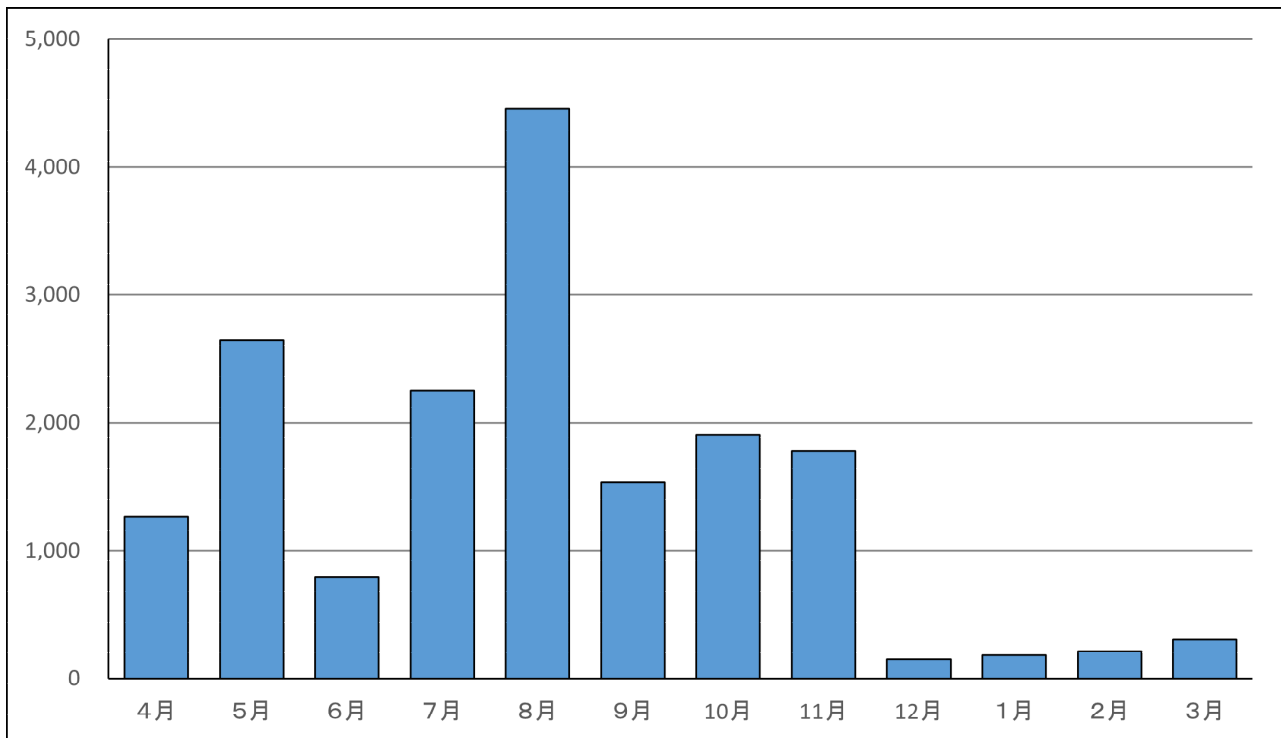
□埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	289	433	264	327	575	302	455	471	86	70	125	268	3,665



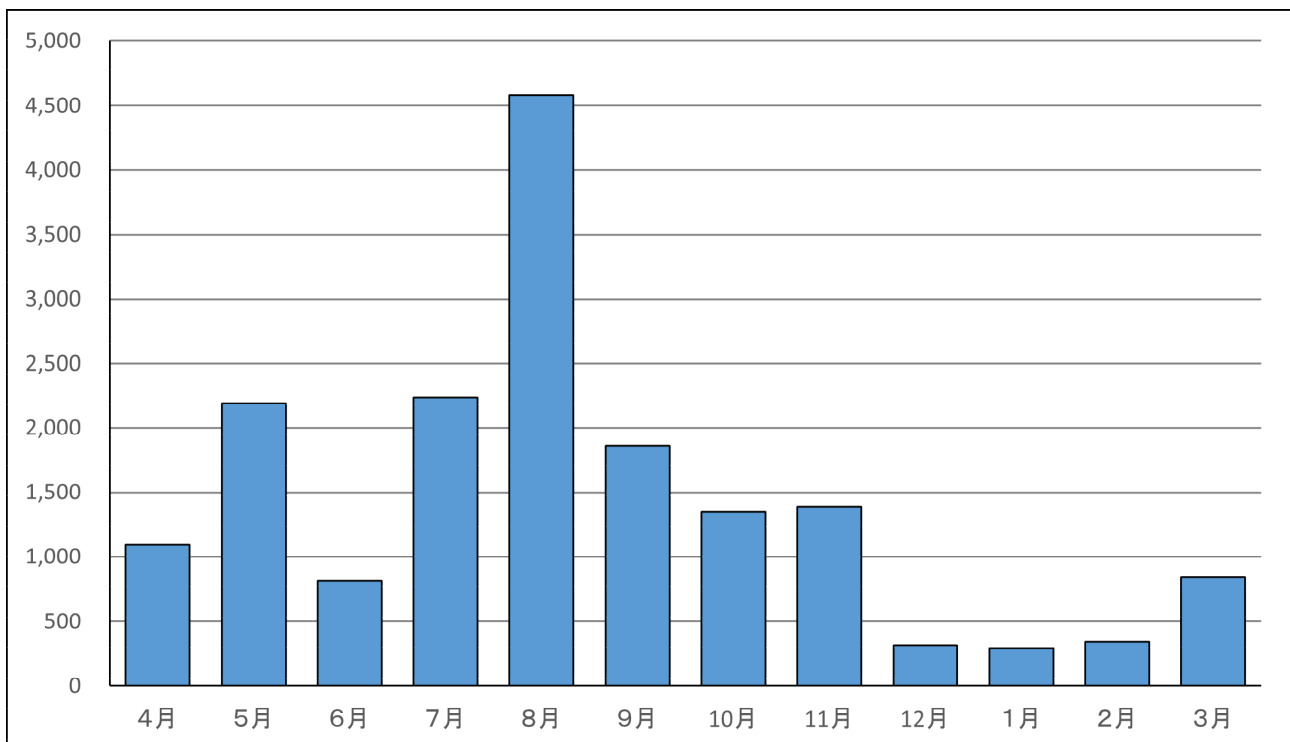
□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,271	2,650	793	2,253	4,455	1,535	1,909	1,778	148	182	211	304	17,489



□利便提供事業収入状況

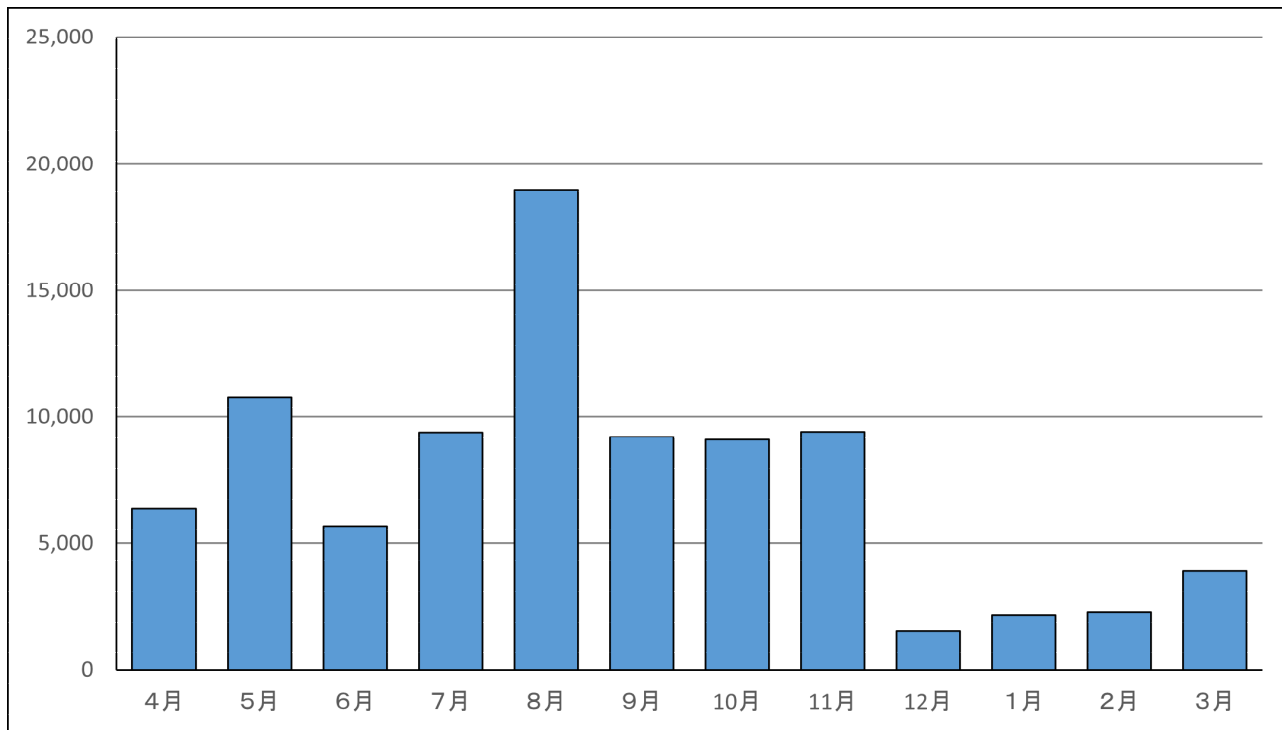
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,094	2,190	811	2,236	4,584	1,862	1,348	1,386	315	286	346	840	17,298



(4) 利用者数

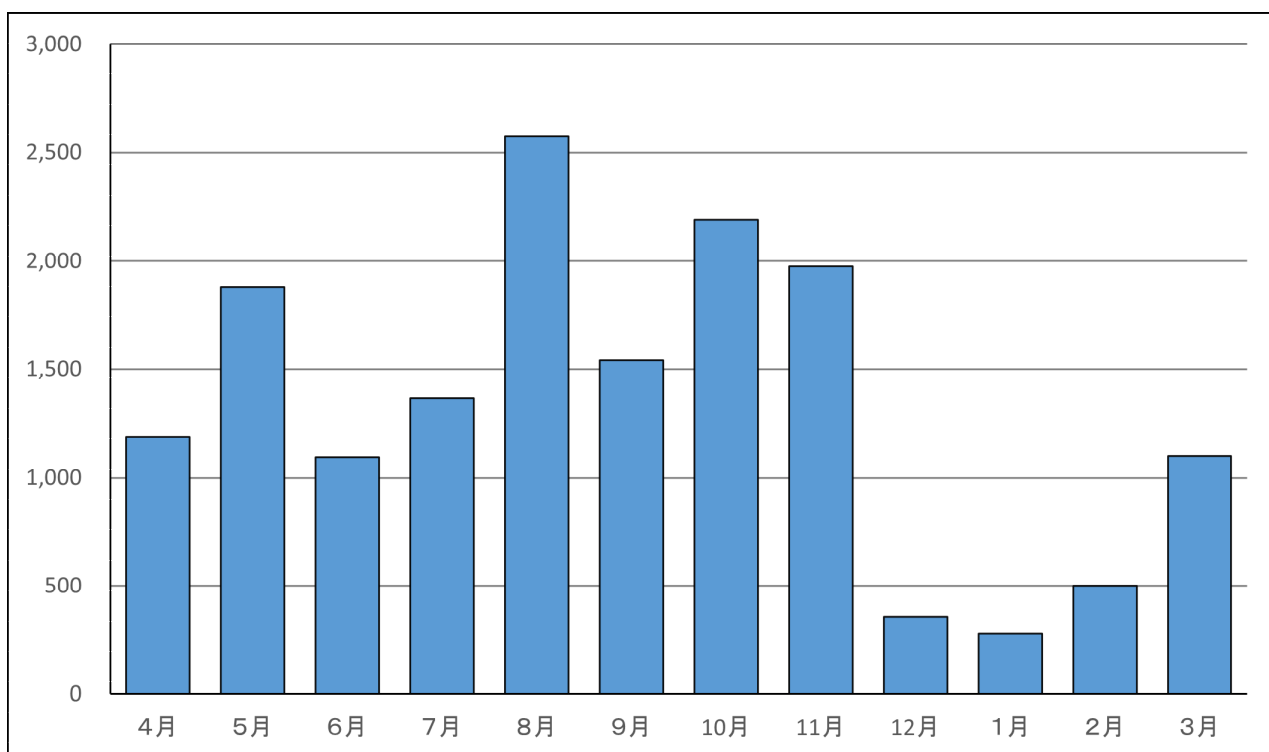
□ 三瓶自然館利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	6,371	10,801	5,693	9,381	18,984	9,200	9,094	9,396	1,544	2,189	2,294	3,906	88,853



□ 埋没林公園利用状況

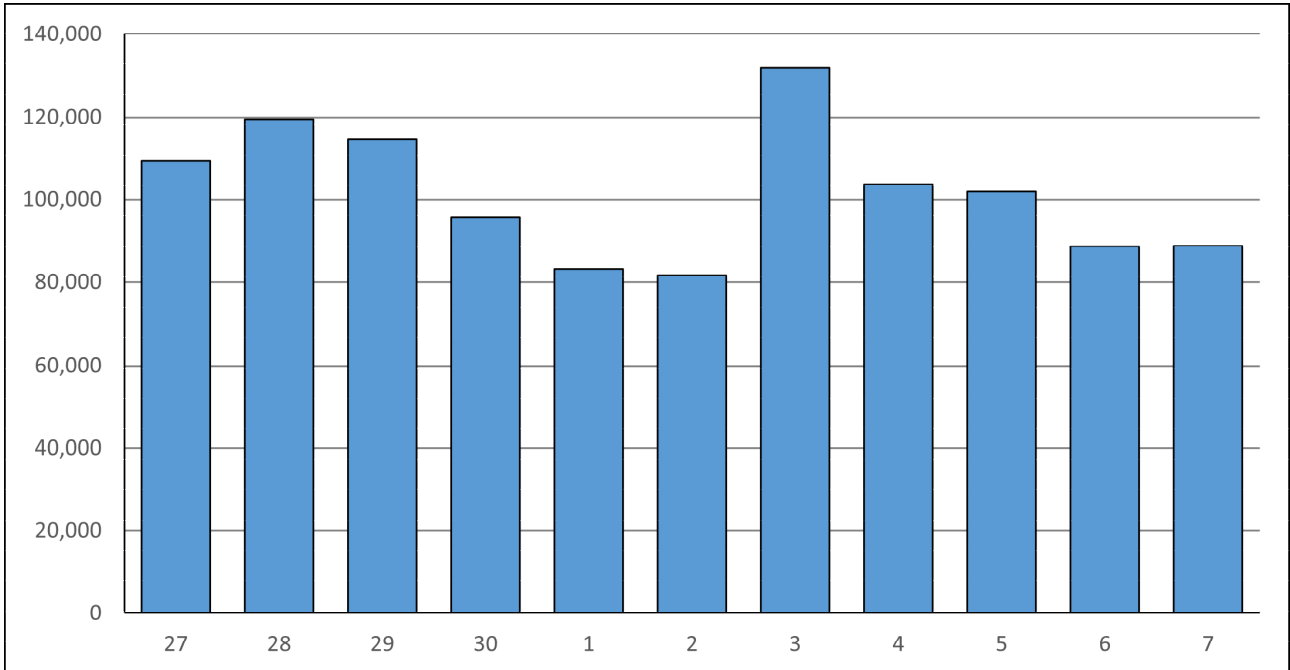
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	1,191	1,876	1,097	1,367	2,573	1,541	2,192	1,975	360	280	500	1,102	16,054



2. 利用者数の推移

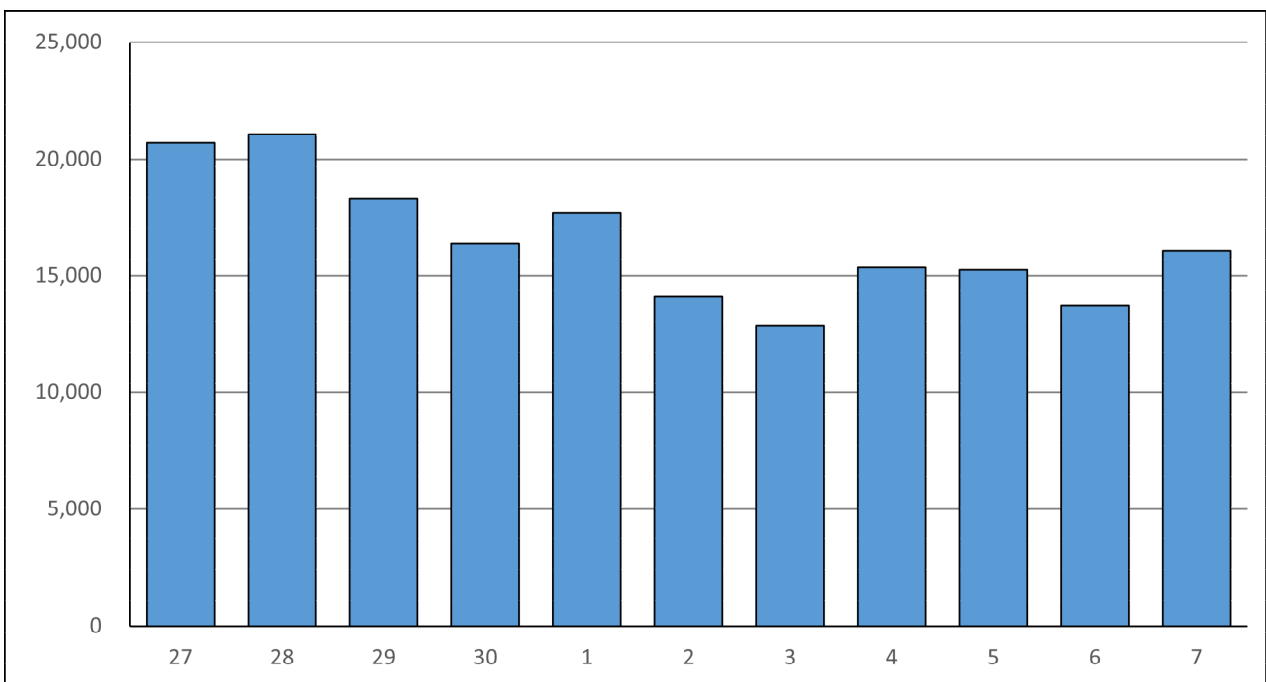
□三瓶自然館

年度	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7
総入館者(人)	109,478	119,571	114,717	95,520	83,203	81,739	131,822	103,812	101,987	88,805	88,853



□三瓶小豆原埋没林公園

年度	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7
総入館者(人)	20,681	21,075	18,292	16,366	17,694	14,082	12,851	15,339	15,235	14,593	16,054



3. 資料

□テーマ解説実施状況(Ⅱ-(1)常設展示(p.6)関係)

月	日	団 体 名	人数
7	4	あけぼのこども園	30
	14	出雲養護学校高等部	17
	22	おおもり児童クラブ渡辺家	31
8	7	広島県立広島国泰寺高校	22
	7	出雲市立斐川西中学校科学部	14
9	17	雲南市老人クラブ連合会木次支部	24
	19	雲南市立吉田小学校	11
	25	さんべぐるみの会	10
10	6	朝酌公民館	11
	15	大庭公民館野歩きの会	3
3	9	大田幼稚園	11
	11	邑南町立羽須美中学校	7
合 計		12件	191

□団体向け天体観察会実施状況(Ⅱ-(6)団体向け天体観察会(p.18)関係)

月	日	団 体 名	人数
4	23	広島文教大学附属高等学校	85
	24	山陽女学園	136
5	22	出雲市立西野小学校	110
	29	出雲市立長浜小学校	54
6	26	出雲市立灘分小学校	37
7	3	松江市立来待小学校	16
		雲南市立三刀屋小学校	44
	16	智辯学園 中学部	102
	20	山本あきひこのびあの教室	16
25	美郷町公民館合同イベント	63	
8	1	城山一子供会	46
	3	大田市山村留学センター	28
	6	広島国泰寺高校	84
	8	NPO法人いきいきアクティビティサービス	91
		(福)ねむの木福祉会 大輪児童クラブ	79
	20	庄原市立高野小学校	15
22	美郷町サマーキャンプ	29	
9	10	大田高校サイエンスセミナー	22
	15	島根大学松本研究室	12
	18	安芸高田市立向原小学校	20
	19	湖陵コミュニティセンター	29
	21	大森天文部	14
	25	浜田養護学校	13
10	16	飯南町小学校連合	27
		大田市立志学小学校	18
		大田市立久手小学校	30

		大田市立北三瓶小学校	17
	23	大田市二班四校連合	55
		大田市三班小学校連合	20
	26	島根天文協会	5
	29	庄原市立東小学校	35
	30	出雲市教育支援センター スマイルキャンプ	43
11	7	島根県高等学校文化連盟自然科学部門	49
	20	学校法人鶴学園なぎさ公園小学校	71
合 計			34件 1,515

□ 予約自然観察会実施状況(Ⅱ-(7) 予約自然観察会(p. 18)関係)

月	日	団 体 名	人数
4	30	大田市立北三瓶小学校	8
5	8	大田市立大田小学校	25
	12	大田市立大田小学校	20
	14	大田市立大田小学校	25
	16	相愛保育園	37
	26	大田市立北三瓶中学校	13
6	12	安田学園安田小学校	8
	13	安田学園安田小学校	13
	20	大田市立大田小学校	76
	25	安芸高田市立吉田小学校	55
	27	出雲市立旅伏小学校	33
7	3	浜田高等学校通信制課程	12
	3	神戸川小学校なかよし会	23
8	6	広島県立広島国泰寺高校	83
	7	広島県立広島国泰寺高校	62
9	18	大田市立北三瓶小学校	3
	19	大田市職員退職者会	15
	22	大田市立仁摩小学校	28
	26	邑南町立口羽小学校	17
	26	大田市立静間小学校	16
10	6	島根県立飯南高等学校	31
	8	大田市立久手小学校	27
	10	美郷町立邑智小学校	29
	12	中国労働金庫出雲支店	51
	15	大田市立久手小学校	26
	15	大庭公民館野歩きの会	24
	17	浜田市立波佐小学校	17
	17	大田市立温泉津小学校	26
	17	美郷町立大和小学校	15
	23	江津市立江津東小学校	28
	24	川本町立川本小学校	26
	29	邑南町立阿須那小学校	17
	29	大田市立川合小学校	26
	31	出雲乳児保育所	21

	31	飯南町立頓原小学校	15
	31	大田市立長久小学校	28
11	7	大田市立五十猛小学校	18
	10	大田市立仁摩小学校	25
	19	大田市立北三瓶小学校	5
	21	なぎさ公園小学校	70
	21	雲南市立大東小学校	40
	28	出雲養護学校みらい分教室	3
1	19	神石インターナショナルスクール	9
合 計			43件 1,149

□ 講師派遣実施状況(Ⅱ-(8)講師派遣(p.18)関係)

月	日	団体名	場所	内容	講師	人数
4	3	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリに関する講話	星野	15
	4	大東地区自治振興協議会	雲南市大東地域交流センター	コウノトリに関する講話	星野	25
	10	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリに関する講話3・4年生	星野	34
	11	島根県立少年自然の家	島根県立少年自然の家	ハチに関する講話	皆木	13
	14	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリに関する講話5・6年生	星野	44
	24	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の自然観察	安藤 松原	17
	30	大田市立静間小学校	大田市立静間小学校・ハマナス園	ハマナスの観察と講話	井上	17
5	2	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリに関する講話1・2年生	星野	34
	9	浜遊の森の自然を守る会	湊原体験学習センター(浜遊自然館)	星座に関する講話	竹内	8
	11	津和野中央公民館	地倉沼	チョウジソウ観察会	井上	35
	16	島根県教職員退職者互助松江地区会	赤名湿地	自然観察	井上	37
	19	仁摩保育園	仁摩保育園	宇宙に関するお話	矢田	46
6	7	大田市生涯学習課	大田市中央図書館	三瓶山を中心に日本遺産を紹介	中村	24
	12	島根県旅館ホテル組合	島根県立三瓶自然館	島根県の大地のものがたり	中村	45
	13	大田市立温泉津小学校	大田市立温泉津小学校	石見銀山と温泉津の関わりについて	中村	26
	14	一般社団法人島根県造園協会	島根県立ふるさと森林公園学習展示館	樹木検索の研修会	井上	10
	20	大田市立仁摩小学校	大田市立仁摩小学校	石見銀山の歴史と仁摩の大地について	中村	28
	20	掛合自治振興会	掛合交流センター	カジカガエルの講話	皆木	24
	21	佐田町コミュニティセンター	佐田町コミュニティセンター	三瓶山と佐田町、出雲平野について	中村	27
	27	来島公民館	ふるさと回想館	ホテルの観察会	皆木	12
	28-29	島根県自然環境課	国立三瓶青少年交流の家	自然観察はじめの一步研修	星野	40
7	4	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	総合的な学習の時間フィールドワーク	井上 安藤	3
	12	大田市環境政策課	三瓶山西の原	ユウスゲ観察会	井上	40

	13	日本遺産推進協議会	アンドピープル	三瓶山を中心に日本遺産を紹介	中村	27
	26	大田市日本遺産推進協議会	仁万の海岸	岩石に関する観察会	今井	11
8	2	浜田市	三隅中央公園、三隅中央会館、三浦正昆虫館	昆虫の観察と標本の作り方	皆木	14
	4	大田市教育委員会	大田市立第一中学校	日本遺産の学習への活用	中村	3
	6	大田市教育委員会	大田市立大田西中学校	岩石に関する観察	今井	18
	8	大田市教育委員会	志学まちづくりセンター	日本遺産と火山由来の地域資源	大野	4
	23	松江市美保関公民館 青少年部	松江市美保関町法田集 会所周辺	地域資源の研修	今井	26
	28	第四紀学会	松江市内	専門巡検	井上	7
	30	出雲国ジオガイドの会	松江市市民活動センター	はじめの一步コースでの講話	井上	15
9	6	大田市教育委員会	大田中央図書館	日本遺産講座として石見銀山を紹介	中村	28
	14	大田市教育委員会	仁摩図書館	日本遺産講座として琴ヶ浜を紹介	中村	23
	17	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	SDGsに関する学習	星野	80
	19	島根大学生物資源科学部	国立三瓶青少年交流の家	昆虫に関する講話	皆木	19
	21	仙台市民文化事業団	仙台市富沢遺跡保存館	埋没林と地形についての講話	中村	40
	22	西ノ島町コミュニティ図書館	西ノ島町島根鼻公園	天体観察会	竹内	17
	23	西ノ島町コミュニティ図書館	西ノ島町コミュニティ図書館	星空に関する講話	竹内	5
	26	江津市立郷田小学校	江津市都野津町	半田浜遺跡の地層と考古遺物の 現地観察	中村	25
	28	おおなん・里山子ども 科学教室	健康センター「元気館」	昆虫に関する講話	皆木	17
10	1	大田市立大田小学校・ 長久小学校	埋没林公園・大田小学 校	理科読「地層学習」	矢田 今井	116
	2	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	石見銀山学習として石見銀山の概要	中村	75
	2	雲南市立大東中学校	雲南市立大東中学校	コウノトリに関する講話	星野	25
	3	浜遊の森の自然を守る会	湊原体験学習センター (浜遊自然館)	星座観察会	竹内	10
	5	島根県地学会	浜田市赤鼻展望台周辺	地質見学会での講話	今井	11
	5	銀と鉄シンポジウム 実行委員会	多伎コミュニティーセ ンター	シンポジウムのパネリストとして登壇	中村	60
	8	島根県立横田高等学校	島根県立横田高等学校	横田の自然と人の関わり	井上	17
	8	出雲市立高浜小学校	出雲市立高浜小学校	月の形と太陽についての学習	矢田	60
	9	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	SDGsに関する学習	星野	80
	11	飯南町観光協会	島根県立三瓶自然館	野鳥観察についての講話	星野	14
	11	上津地区自治協会	上津コミュニティーセンター	昆虫に関する講話	皆木	70
	15	長久地区ふれあい協議会	長久まちづくりセンター	三瓶の自然についての講話	矢田	30
	16	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	川の流れの学習	今井	42
	17	大田市立大田小学校	大田市立大田小学校	川の流れの学習	今井	40
	17	島根大学	島根大学	地域博物館に関する講義	中村	260
	19	馬路まちづくりセン ター	仁摩町馬路鞆ヶ浦	鞆ヶ浦の歴史と世界遺産につい てフィールドワーク	中村	21
	19	特定非営利活動法人 里山コミッション	飯南町福田自治会	湿地植物保全の指導者養成講座	井上	15

	22	大田市立志学小学校/ 北三瓶小学校	大田市立志学小学校	石見銀山学習の導入	中村	13
	22	江津市立川波小学校	江津市二宮町	半田浜遺跡の地層見学	中村	14
	23	大田市	埋没林公園ほか大田市 内	大田市新規採用職員研修の講座 及び現地案内	中村	28
	25	知的に障がいのある人の オープンカレッジ in松江	島根大学	危険生物についての講話	皆木	30
	26	中国高等学校体育連盟	国立三瓶青少年交流の家	三瓶の自然についての講話	安藤	170
	26	島根県自然環境課	島根県立三瓶自然館	危険生物についての講話	安藤	30
	27	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリ学習4年生	星野	25
11	5	仁摩保育園	仁摩保育園	宇宙に関するお話	矢田	25
	8	島根わくわくサイエ ンスクラブ	松江市城椿谷公園	タネに関する自然観察会	井上	45
	8	島根県高等学校文化連盟	三瓶山青少年交流の家	大田市を中心に島根の自然史	中村	60
	9	大田市教育委員会	大田市立大田市中央図書館	島根にすむ哺乳類	安藤	35
	13	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校お よび野外	波根湖と立神岩と石見銀山	中村	14
	14	日御碕コミュニテイ センター	日御碕地区内	秋の草花観察	井上	7
	14	大田市立北三瓶小学校	大田市立北三瓶小学校	三瓶山に残る軍事関連遺構	中村	2
	16	島根県立しまね海洋 館	島根県立しまね海洋館 アクアス周辺	野鳥観察の指導	星野	25
	20	大田市立仁摩小学校	大田市立仁摩小学校	「流れる水のはたらき」についてのまとめ	今井	27
	24	浜田市世界こども美 術館	浜田市世界こども美術 館	植物に関するワークショップ講 師	井上	26
	28	大田市立長久小学校	静間川周辺	流れる水のはたらきについての 現地学習	今井	29
12	2	しまねミュージアム 協議会	島根県立少年自然の家	被災標本のレスキューについて	井上	35
	18	大田市立大田幼稚園	大田市立大田幼稚園	砂・石・地層の講話	今井	10
1	24	上津地区自治協会	上津コミュニティセンター	上津に生息するタカの話	星野	65
2	10	大田市静間地区しず のいわや協議会	静間まちづくりセンタ ー	冬の星座と動物たち(映像体験 会)	矢田	23
	12	島根県立盲学校	島根県立盲学校	星の動き、星の見え方	矢田	7
	19	大田市立大田幼稚園	大田市立大田幼稚園	砂・石・地層の講話	今井	13
	25	三原まちづくりセンター	三原まちづくりセンター	自然をテーマにした講話と自然観察	井上	15
	25	国立三瓶青少年交流 の家	国立三瓶青少年交流の 家	接遇研修	山本 和田	12
3	1	川本町自然大好きネ ットワーク	川本町谷戸	イズモコバイモに関する講話	井上	35
	3	株式会社さんべ開発公社	国民宿舎さんべ荘	皆既月食について	竹内	10
	8	島根県西部視聴覚障 害者情報センター	いわみーる	島根に暮らす動物について	安藤	50
	29	島根自然保護協会	斐川環境学習センター	島根県の大地	中村	20
合計					89件	2,829

□ホームページ「自然情報」執筆状況(Ⅱ-(11)WEBサイト・SNS(p. 27)関係)

月	日	担当	テーマ	月	日	担当	テーマ
4	6	今井	ゴジラ岩	10	5	矢田	中秋の名月
	13	安藤	シカとイノシシの毛		12	井上	ウメバチソウ
	20	矢田	しし座の星		19	竹内	フォーマルハウト
	27	井上	ニオイタチツボスミレ		26	星野	標本展示
5	4	竹内	かんむり座T星	11	2	太田	大きな満月
	5	竹内	環のない土星		9	皆木	マツヘリカメムシ
	11	星野	スズメの親子		16	今井	アオグロハシリグモ
	18	太田	月と金星		23	安藤	哺乳類の痕跡
	25	皆木	ナミハンミョウ		30	矢田	レモン彗星
6	1	今井	赤い地層	12	7	井上	ベニシダ
	8	安藤	モリアオガエル		14	竹内	土星
	15	矢田	笠雲		21	星野	ノスリ
	22	井上	ツルアジサイ		28	太田	大晦日
	29	竹内	水星を見よう	1	4	皆木	マドラカマドウマ
7	6	星野	アカショウビンの巣		11	今井	キサソゴ
	13	太田	天の川の天体		18	安藤	雪の上の足跡
	20	皆木	オニヤンマ		25	矢田	木星
	27	今井	アラレタマキビの避暑行動	2	1	井上	トベラ
8	3	安藤	イノシシ		8	竹内	木星の大赤斑
	10	矢田	薄明光線と反薄明光線		15	星野	しまねRDB改訂
	17	井上	キキョウ		22	太田	皆既月食
	24	竹内	天の川	3	1	皆木	ハラビロカマキリの卵のう
	31	星野	キビタキの雌雄		8	今井	マカロニクヌス
9	7	太田	皆既月食		15	安藤	冬眠明け間近(コウモリ)
	14	皆木	雌雄の特徴をもつクワガタ	22	矢田	月面 X	
	21	今井	赤い目のカニ	29	井上	アオイスマイレ	
	28	安藤	移動研究室				

□新聞寄稿状況(Ⅱ-(11)新聞への寄稿(p.27)関係)

月	日	掲 載 紙	タ イ ト ル	執 筆 者
4	2	島根日日新聞	ムギ(麦)と国旗	井上雅仁
	12	読賣新聞	流れ星の正体は	太田哲朗
	16	島根日日新聞	小諸喰のゴジラ岩	今井 悟
5	10	読賣新聞	カタツムリを食べるマイマイカブリ	皆木宏明
	14	島根日日新聞	地球照	竹内幹蔵
	28	島根日日新聞	5月10日は地質の日	今井 悟
6	14	読賣新聞	かんむり座T星は輝くか	竹内幹蔵
	28	島根日日新聞	太陽の力	太田哲朗
	25	島根日日新聞	カワネズミを探して	安藤誠也
7	9	島根日日新聞	ヒグラシ	皆木宏明
	12	読賣新聞	プラネタリアムの活用法	矢田猛士
	23	島根日日新聞	球状星団M13	竹内幹蔵
8	6	島根日日新聞	生命の起源に迫る	井上雅仁
	8	読賣新聞	惑星探査機ボイジャー	太田哲朗
	19	島根日日新聞	ウスバキトンボ	皆木宏明
9	3	島根日日新聞	薄明光線と反薄明光線	矢田猛士
	13	読賣新聞	三瓶温泉と火星の共通点	今井 悟
	24	島根日日新聞	県内未確認のコウモリに会いに	安藤誠也
10	1	島根日日新聞	波打ち際の生き物たち	今井 悟
	11	読賣新聞	ひそやかな渡り鳥「ピンズイ」	星野由美子
	25	島根日日新聞	星のような花をつけるセンブリ	井上雅仁
	29	島根日日新聞	星景写真	竹内幹蔵
11	8	読賣新聞	危険生物の講習会	安藤誠也
	12	島根日日新聞	渡りの旅 休息するヒシクイの群れ	星野由美子
	26	島根日日新聞	クレーターの見え方	太田哲朗
12	10	島根日日新聞	糞虫とフンコロガシ	皆木宏明
	13	読賣新聞	彗星	竹内幹蔵
	24	島根日日新聞	クリスマス?新年?おめでたそうな鳥 オオマシコ	星野由美子
1	7	島根日日新聞	ウマにちなんだ草花たち	井上雅仁
	10	読賣新聞	新種の発見とタイプ標本	今井 悟
	28	島根日日新聞	ユビナガコウモリ	安藤誠也
2	4	島根日日新聞	見ごろをむかえた木星	矢田猛士
	14	読賣新聞	ガリレオ衛星	太田哲朗
	18	島根日日新聞	ナミテントウの冬越し	皆木宏明
3	4	島根日日新聞	木星の大赤斑	竹内幹蔵
	14	読賣新聞	初春をつげるコウヤミズキ	井上雅仁
	18	島根日日新聞	「救え!消えゆく生きものたち2026」を開催しています	星野由美子

4. 職員の研修等への参加

職員の資質向上、施設の管理運営にあたって必要となる知識の取得等を目的に、研修の実施及び外部が主催する研修会に職員を派遣した。(詳細は下表参照)

□ 研修会等への参加

月	日	名 称	場 所	参加者
4	21	新入社員研修(大田地域人材確保促進協議会)	大田市民会館	西・岩谷
5	30	令和7年度安全運転管理者等講習	あすてらす	石田浩
6	16-18	全国プラネタリウム大会2025・大阪	大阪市立科学館等	矢田
6	30-7/3	日本公開天文台協会(JAPOS)第19回全国大会(徳島大会)	阿南ひまわり会館	竹内
7	11	刈払機取扱作業安全衛生教育	ニューウェルシティ出雲	山岡・中山
8	21	公正採用選考人権啓発推進員研修会	朱鷺会館大ホール	米浦
8	23・24	日本理科教育学会第75回全国大会	富山大学五福キャンパス	矢田
8	27	令和7年度第1回健康保険委員セミナー	オンライン	米浦
9	10	県央地域行政関係者人権・同和問題研修	オンライン	星野
10	3	人権・同和問題及び世界遺産研修会	大田市役所	石田操・山下貴
10	3	車いす移動介助ボランティア養成講座	三瓶自然館	職員8名
10	26-27	ホイローダオペレーター講習	コベルコ広島教習センター	山岡・山下貴
10	29	島根県メンタルヘルスケア研修	出雲市民会館大ホール	米浦・竹下
10	30	島根県自治研修所 若手職員育て方講座	浜田教育センター講堂	大谷
10	30	危険物取扱者保安講習	あすてらす	山本健
11	11-12	JPA中国四国プラネタリウムWG研修会 in さじ	鳥取市さじアストロパーク	太田
11	17-19	全国プラネタリウム研修会2025・仙台	仙台市天文台	竹内
11	19	島根県自治研修所 アサーティブ・コミュニケーション研修	浜田教育センター講堂	前崎
12	5	健康づくり出前講座	三瓶自然館レクチャールーム	職員38名
12	4-9	日本古生物学会第175回例会	SSプラザ川内等	今井
2	9-10	JPA中国四国プラネタリウムWG研修会 in 西条	SAIJO BASE	太田
2	12	改正労働施策総合推進法・女性活躍推進法等説明会	出雲市民会館	米浦
2	19	Instagram講座	大田市民センター	竹下・山下貴
2	23	島根県環境教育ワーキングネット研修	ホシザキ野生生物研究所	竹下・今井
2	22-23	2025年度連星系・変光星研究会	兵庫県立大学神戸商科キャンパス	矢田
2	25	観光データ活用セミナー	タウンプラザしまね	石田操
2	26	観光データ活用セミナー	いわみーる	中山
2	26	令和7年度第2回健康保険委員セミナー	オンライン	米浦
3	6	アテンド研修	三瓶自然館レクチャールーム	職員10名
3	16	障害者差別解消法と合理的配慮に関するセミナー	オンライン	中村
3	28-30	第70回日本応用動物昆虫学会大会	熊本城ホール	皆木

5. 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

① 第19回評議員会(令和7年度定時評議員会)

- ・開催日：令和7年6月23日(月)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：評議員7名、監事2名
- ・議題：報告事項 事業概況について
第1号議案 令和6年度事業報告及び決算報告の件
第2号議案 任期満了に伴う理事及び監事選任の件
- ・結果：各号とも原案どおり承認

(2) 理事会

① 第38回理事会(令和7年度第1回定時理事会)

- ・開催日：令和7年5月22日(木)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：理事5名、監事2名
- ・議題：報告事項1 理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案 令和6年度事業報告及び決算報告の件
第2号議案 第19回評議員会招集の件
第3号議案 任期満了に伴う三瓶自然館運営委員選任の件
- ・結果：各号とも原案どおり承認

② 定款第37条に基づく決議省略(書面によるみなし決議)

- ・決議の日：令和7年6月23日(月)
- ・議題：第1号議案 役員改選に伴う理事長及び常務理事選定の件
- ・結果：原案どおり承認

③ 第39回理事会(令和7年度第2回定時理事会)

- ・開催日：令和8年3月26日(木)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：理事4名、監事2名
- ・議題：報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案 令和7年度予算補正の件
第2号議案 給与制度に係る規程改正の件
第3号議案 令和8年度事業計画及び予算の件
- ・結果：各号とも原案どおり承認

(3) 三瓶自然館運営委員会

本委員会は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

① 第15回運営委員会

- ・開催日：令和7年11月27日(木)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：運営委員8名
- ・概要：事業の実施状況や入館者数の推移など、報告事項を踏まえた意見交換が行われた。

6. 沿 革

- 昭和63年度 「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。
- 平成元年度 「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。
三瓶自然館(以下「自然館」)中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。
- 平成2年度 自然館及び附属施設、着工。
- 平成3年度 財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立(7月1日、以下「財団」)。
自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。
自然館オープン(10月19日)。
- 平成4年度 財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場(以下「キャンプ場」)」の管理運営を受託。
- 平成5年度 三瓶フィールドミュージアム整備終了。
三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画(1994～2010年)の戦略プロジェクトに位置づけられる。
- 平成7年度 島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。
- 平成8年度 三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。
キャンプ場、過去最高の年間5万4千名の利用者を記録。
- 平成9年度 自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱(平成15年度まで)。
常陸宮殿下、妃殿下御来館。
- 平成10年度 三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。
- 平成11年度 島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。
- 平成12年度 三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。
キャンプ場新管理棟(セントラルロッジ)、完成。
三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。
- 平成13年度 島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。
自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。
- 平成14年度 自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン(4月18日)。
自然館、通算100万人の来館者を達成。
秋篠宮殿下、妃殿下御来館。
小豆原埋没林現地の公園化整備開始。
自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。
- 平成15年度 キャンプ場へ利用料金制導入。
新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。
「三瓶小豆原埋没林公園(以下「埋没林公園」)」オープン(5月2日)。
自然館、日本博物館協会に加盟。
- 平成16年度 「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定(2月27日)。
新たに「ふれあいの里奥出雲公園(以下「ふれあいの里」)」の管理運営を受託。
埋没林公園来園者10万人達成。
- 平成17年度 指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる(平成17年度～平成21年度)。
- 平成18年度 7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。
自然館開館15周年(10月19日)。
- 平成19年度 高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪(4月30日)。
- 平成20年度 旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承(4月1日)。
松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始(4月1日)。
埋没林公園入園者30万人達成(4月12日)。
法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称(7月1日)。
高円宮妃殿下御来館(1月22日)。
- 平成21年度 自然館、通算200万人の来館者を達成(7月12日)。
ふれあいの里、営業終了(12月。3月をもって正式閉鎖)。
自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止(12月～3月)。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。
キャンプ場、大田市へ移譲譲渡(3月)。
- 平成22年度 島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度～平成26年度)。

- 平成23年度 財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。
自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。
財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。
平成24年度 神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。
“三瓶山”国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。
- 平成25年度 埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。
特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。
財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。
- 平成26年度 大田市からキャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。
島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度(令和4年度))。
- 平成27年度 自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。
- 平成28年度 自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。
自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。
自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。
- 平成29年度 第71回全国植樹祭(令和2年)が三瓶山北の原で開催されることが決定(11月15日、島根県・(公社)国土緑化推進機構)。
- 平成30年度 4月9日未明、大田市を震源とする島根県西部地震(M6.1、震度5強)が発生し、自然館、キャンプ場施設で多数の被害があった。自然館では開設以来初めて、災害による臨時休館(4月9日)をし、復旧にあたった。
大田市からキャンプ場の次期指定管理者として更新指名を受ける(令和2年度～令和6年度)。
- 令和元年度 自然館、ビジターセンター機能強化工事(7月～3月)。
自然館、展示改修工事のため休館(11月～3月)。
埋没林公園、ガイダンス棟建設工事(10月～3月)。
- 令和2年度 北の原多目的広場で当年5月に開催が予定されていた第71回全国植樹祭が、新型コロナウイルスの全国的な流行により、1年延期が決定(4月1日)。
県内での新型コロナウイルス感染症患者発生確認に伴い、県・市からの要請を受け、自然館・埋没林公園、キャンプ場とも5月末まで休業。6月1日運営再開。
- 令和3年度 自然館、開館30周年。記念式典(7月17日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。
巡回展「ポケモン化石博物館(10月9日～1月30日)」を国立科学博物館等と協働で開催。
県の新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置適用に伴う休業要請を受け、自然館・埋没林公園、キャンプ場とも1月27日～2月20日休業。2月21日運営再開。
自然館、ビジュアルドーム鑑賞環境向上業務のため、同施設の運営を休止(11月25日～3月11日)。3月12日から運営開始。
埋没林公園、解説展示機能強化業務のため、2月14日～3月11日休業。3月12日から運営開始。
- 令和4年度 自然館及び附属施設の第三期指定管理期間最終年として積極的な事業を実施。
第四期指定管理者の指定を目指し、プロジェクトチームを中心に事業計画書・予算書を作成し、10月のプレゼンテーションを経て、12月に次期指定管理者として正式な指定を受けた。
ビジュアルドームのプラネタリウム投映機器及び映像・音響システム更新のため、同施設の運営を休止(11月24日～3月10日)。3月11日から運営開始。
- 令和5年度 新型コロナウイルス感染症の5類移行(5月8日)に伴いイベント、ビジュアルドーム等の制限を解除。
- 令和6年度 キャンプ場の第4期指定管理者の指定を目指し、10月のプレゼンテーションを経て、12月に次期指定管理者として正式な指定を受けた。

公益財団法人しまね自然と環境財団 
Shimane Nature and Environment Foundation